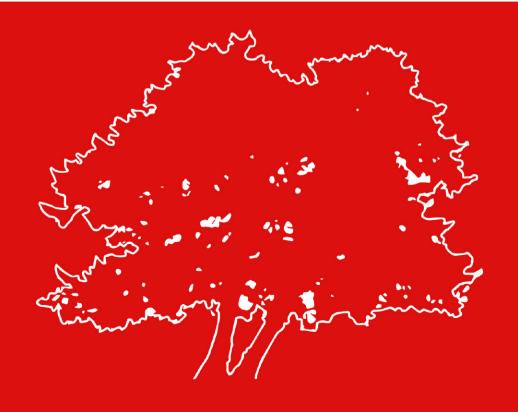
# 2018

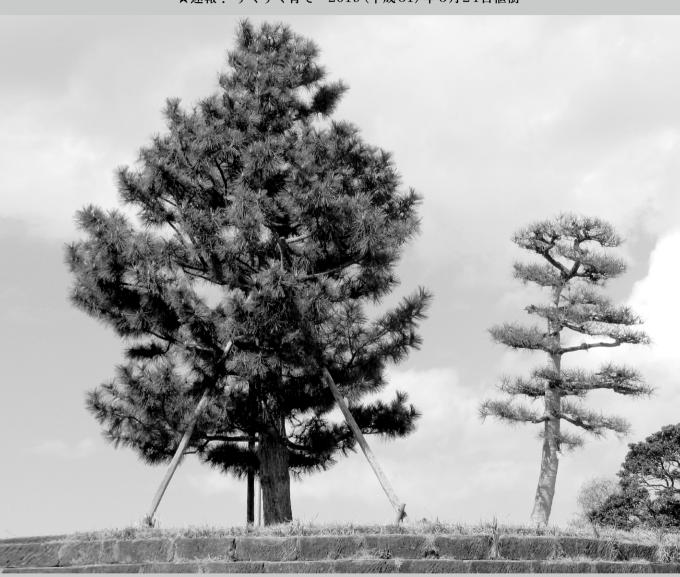
# 設立60周年記念 近畿双松会報

**一2018**(平成30)年度一

島根県立松江中学校 島根県立松江高等学校 島根県立松江北高等学校



★速報! すくすく育て 2019 (平成31) 年3月24日植樹



東(右)側「四代目」の植樹完了、西(左)側は二代目 (関連記事は P8~9・P23・P27・P73 に掲載)

# あさひたださす (赤山健児の歌)

西村房太郎 作詞 岩佐万次郎 作曲



四

東洋平和を保つべき 稜威輝く日の本の 責務は重く身は軽し 国の礎さし固め 起てや赤山健男児 使命を負へる我等なり

悪魔の征矢も身にたたず。嗚呼剛健と質実と、心の 朝暾直刺す双松の 霊光迷路の闇を射て 氷雪鎖す丘の上 瘴煙罩むる椰子の下 天地の精を身にしめて 浪に砕くる三日月の 万里の風に浪搏ちて 北斗に吟ずる晨あり 心の楯に執り持てば 天籟胸に光あり 理想の郷をてらすなり 大鵬の翼揮へよや 影に古雄の真をみる 月に嘯く夕あり 正気を舒ぶる壱百年 高く搴ぐる我旗

# さんみゃくうかびて (松江高・松江北高等学校校歌)



# 2018(平成30)年度 設立60周年記念 近畿双松会報

# 目 次

あさひたださす (赤山健児の歌)	. 2
さんみゃくうかびて (松江高等学校・松江北高等学校校歌)	3
2018 (平成30)年度 近畿双松会 設立60周年記念「総会・記念講演会・謝恩懇親会」次第	. 6
2018 (平成30)年度 近畿双松会「役員会」「総会・講演会・懇親会」報告	. 7
設立60周年記念 「謝恩大福引き大会」 顛末報告	12
2018 (平成30)年度 設立60周年記念「総会・記念講演会・謝恩懇親会」出席者名簿	14
総会議事(1)近畿双松会 活動事業報告	18
総会議事(2) 近畿双松会 会計·監査報告	19
総会議事(3) 2018 (平成30)年度 近畿双松会役員	20
設立60周年記念行事「感謝状贈呈」	21
ご挨拶	
近畿双松会会長 松本 耕司 (16)	22
双 松 会 会 長 金津 任紀 (16)	23
松江北高等学校校長 小山 理久(28)	24
2018 (平成30)年度 松江北高校十大ニュース	26
期別テーブル写真/スナップ写真	28
設立60周年「記念講演会」	
「松江への思い」 講師:高橋 一清氏	34
2018 (平成30)年度「運営費支援、設立60周年記念事業寄付・広告」ご協力者ご芳名	42
追悼 物故会員	44
2018 (平成30)年度 諸行事報告 (骨子)	45
■第11回 落語鑑賞会 ■第3回北高野球部大阪遠征試合の応援 ■第41回 ゴルフコンペ(春季) ■第13回 文楽鑑賞会 ■(中止)第13回歴史ウォーキング ■第8回「里山歩くぞ!」ハイキング ■第42回ゴルフコンペ(秋季) ■2019(平成31)年度 有志新年懇親会 ■第2回「宝塚歌劇鑑賞会」 ■ 2019(平成31)年度 役員会	
同期会便り	50
■16期(S40卒)近畿同期会 ■17期(S41卒)関西同窓会 ■18期(S42卒)近畿地区同期会 ■19期(S43卒)卒業50周年古希記念同窓会 ■22(理 1)期(S46卒)関西同窓会 ■23(理 2)期 (S47卒)関西地区同窓会	

会員近況報告			 54
60周年記念会報寄稿「在学中の思い出」			
「卒業前の謝恩演芸会」	森岡 敏真	(6)	 60
「O先生のこと」	池田喜美代	(19)	 61
「下宿生活での思い出」	村田 貢	(22)	 62
60周年記念会報寄稿「近畿双松会に寄せる思い」			
「60周年に寄せて」	押田 良樹	(11)	 64
「絵が取り持った・ご縁」〜近畿双松会との出会い	小泉 勝是	(14)	 68
「諸行事における企画と準備の熱意」	三成 宏二	(16)	 70
「近畿双松会に寄せる思い」	大浦 綾子	(22)	 71
「同期参加者が2倍!になった喜び」	安達 宏昭	(43)	 72
60周年記念会報寄稿「自由テーマ投稿」			
「出雲大社神楽殿の大しめ縄 6年ぶりの掛け替え」	佐和田 丸	(10)	 74
「平成最後」・戦後73年の夏の思い出	山本 輝夫	(12)	 76
「人づくり文化を松江の民力に」	松本 耕司	(16)	 78
「実感した世界の歌 坂本九ちゃんの"上をむいて歩こう"」	梅木 隆志	(16)	 80
「広瀬育ち・・、山城に魅せられて」	森藤 哲章	(16)	 81
「北欧&ドイツ道中記」	山嵜 麻里子	(20)	 84
この 5 年間の活動報告			 88
母校(双松会)と近畿双松会の歩み			 90
近畿双松会 会則			 92
編集後記			 94

# 2018 (平成30)年度 設立60周年記念 近畿双松会「総会 記念講演会 謝恩懇親会」次第

2018年12月2日(日) 午前11時半~午後4時半(受付開始:午前11時) 於:中央電気倶楽部 5Fホール

※()内は高校卒業期

◆第一部「平成30年度総会」(11:30~11:55)

司会: 三好 資子 副会長(20)

- 1. 開会の辞:
- 2. 物故者黙祷:
- 3. 議長の専任:
- 4. 議事:
- (1) 活動報告・スライド制作: 押田良樹常任顧問(11)
- (2) 会計報告・監査報告: 鶴羽孝子監事(22)
- (3) 役員の選任:
- 5. 設立60周年行事: (1) 感謝状贈呈: 近畿双松会第7代会長・永江幹雄様(13)

同、第8代会長・押田良樹様(11)

(2) 双松会本部に「志」贈呈: 双松会会長・金津任紀様(16)

- 6. 閉会の辞:
- ◆第二部「設立60周年記念講演会」(11:57~13:04) 司会:山嵜麻里子常任幹事(20)

【演題】: "松江への思い"

【講師】: 髙 橋 一 清 氏 (松江観光協会 観光文化プロデューサー、「湖都松江」編集統括)

(講師紹介) 昭和19年益田市生まれ。山口高等学校・早稲田大学卒、株式会社 文藝春秋勤務。

文藝春秋各誌の編集長を歴任。平成17年4月より現職。ご著書多数、松江市在住

<休憩(10分)>

◆第三部「謝恩懇親会」(13:18~16:17)

司会:松本 潤常任幹事(23)

- 1. 開会の辞:
- 2. ご来賓・講師紹介:

金津任紀様(16・双松会会長) 金平 憲 様(16・双松会幹事長)

小山理久様(28・松江北高校校長) 堀江玲美様(62・松江北高校教諭・双松会校内幹事)

高橋一清様 (講師・上記) 本廣保徳様 (島根県大阪事務所長) 伊藤征治様 (近畿松江会会長) 菲山泰信様 (関西矢の原会副会長)

学生ゲスト各位

3. ご挨拶: 近畿双松会 松本耕司会長(16)

4. ご来賓ご挨拶・祝辞: 双松会 金津任紀会長(16)

島根県立松江北高等学校 小山理久校長(28)

- 5. 乾杯: (音頭)双松会 金平 憲 幹事長(16)
- 6. 会食・懇親: (随時、テーブル写真、スナップ写真を撮影)
- 7. スピーチ・余興: ◆学生ゲスト8名と堀江教諭 ◆韮山泰信関西矢の原会副会長

◆堀江眞三人様(2)による余興披露「ドジョウ掬い」

- 8. 「設立60周年記念謝恩大福引き大会」(15:15 ~ 15:58): (進行)梅木隆志副会長(16)
- 9. 校歌斉唱(全曲): ※赤山健児の歌(エール・堀江眞三人様(2)) ※山脈浮かびて
- 10. 万歳三唱: (発声)桑原洋史様(13) 山下俱子様(13)
- 11. 全員記念写真撮影:
- 12. 閉会の辞:

<全終了(解散):16時半>

# 2018 (平成30)年度 近畿双松会「役員会」「総会・講演会・懇親会」報告



# ■ 2018 (平成 30) 年度 「役員会」報告

- ・日時/平成30年1月27日(土)11時~
- ·会場/中央電気倶楽部

会則第8条に従い、20名の役員が参加して役員 会を開催し、本年度の運営方針について意見交換し、 了承されました。

#### ◆主な内容:

【基本】:本年の設立60周年記念事業を有意義にすすめることをすべての基軸において運営する。

- ①60周年記念総会の内容充実と参加者拡大。
- ②記念講演は、高橋一清松江観光文化プロデューサーにお願いする。
- ③謝恩懇親会では55周年時同様、「郷土産品の大福 引大会」をおこなう。
- ④60周年記念「会報」を発刊する。
- ⑤そのため、5年に一回の寄付のお願いをする。
- ⑥その他、特に下記に注力して運営する。
- ・会員の満足感を呼ぶ運営。
- ・「次代につなぐ活動」を継続。
- ・2年に一度の「役員改選」の円滑な実施。
- 事務局体制の整備。

以上

#### ●参加役員は次のとおり(敬称略)

【常任顧問】山本雅昭 (7) 押田良樹 (11) 【会長】松本耕司 (16) 【副会長】梅木隆志 (16) (兼事務局長) 渡辺悟 (20) 三好資子 (20) 【監事】鶴羽孝子 (22) 【常任幹事】金坂喜好 (15) 土田和男 (16) 岡久夫 (17) 小田一美(18) 岩田一志 (19) 山嵜麻里子 (20) 宍道弘志 (31) 冨岡幸子 (35) 【幹事】田村稔久 (6) 萩野貫悟 (12) 池田喜美代 (19) 大浦綾子 (22) 千葉潮 (30 理9)

以上20名

# ■2018 (平成30)年度 設立60周年記念 「総会・記念講演会・謝恩懇親会」報告

- · 日時/平成30年12月2日(日)11時半~16時半
- ・会場/中央電気倶楽部5 Fホール

当日は天候にも恵まれ、運営を担当する皆様には 9時半(福引班は9時)に集合いただきました。

本年は昭和33 (1958) 年の本会の設立 (戦後の再開) 以来60 周年を迎え、加えて平成最後の総会という記念すべき節目の年で、ご来賓や学生ゲストを含め「125名」のご参加をいただき、盛大に開催することができました。(参加者名簿は別掲)

設立50周年時は159名、設立55周年時は153名の参加があり、それに比べれば減少しましたが、昨年の100名を大きく上回る結果となりました。

参加者数は卒業生数の減少を考えるとやむをえないことと考えますが、記念総会としての最低目標の100名を超えるご参加をいただいて、まずは胸を撫でおろしました。

#### (1)第一部:2018(平成30)年度「総会」

(11:30~11:55) (「式次第」は別掲)

総会は三好資子副会長(20)の司会で始まり、物 故者の方々への黙祷を捧げた後、松本耕司会長(16) が議長となって、活動報告、会計・監査報告、役員の 選任の報告がなされ、それぞれ満場一致で承認され ました。(物故者名簿、議事資料は別掲)

#### ◆設立60周年行事:(1)感謝状贈呈:

第一部総会の中で、永年の当会に対するご貢献に 感謝するため、近畿双松会第7代会長の永江幹雄様 (13)、第8代会長の押田良樹様(11)に対し、松本会 長から感謝状と記念品(楽山焼の湯呑み)を贈呈し、

#### 2018(平成30)年度 近畿双松会「総会・講演会・懇親会」報告

押田様からは御礼のご挨拶をいただきました。(永江様は所用ご欠席のため、後日、お届けをしました。)(感謝状贈呈の詳細は別掲)

#### ◆同:(2)双松会本部に「志」贈呈:

続いて、設立60周年を記念し、近畿双松会から 双松会本部に対し、55周年時同様、近畿の会員から の「志」として、松本会長から双松会金津任紀会長 (16)に10万円を贈呈させていただきました。

金津会長からは「双松会の今後の運営のために大切に使わせていただく」との丁重な謝辞をいただきました。



#### (2)第二部:「設立60周年記念講演会」

 $(11:57 \sim 13:04)$ 

記念講演会は山嵜麻里子常任幹事(20)の司会で、 ㈱文藝春秋で各誌の編集長を勤められ、現在は松江 観光協会観光文化プロデューサーの高橋一清様に お願いしました。近畿の会員には高橋様のファン の方も多く、近畿双松会念願の講師でいらっしゃい ました。

演題は、14年近い松江でのお仕事を土台に、60周年記念にふさわしく「松江への思い」として講演いただき、興味深く拝聴しました。中でも小泉八雲が双松会の先輩である旧制松江中学の生徒たちを褒めている一方、大町桂月はこれでは出雲人から大人物は出ない、と評したことにも触れられるなど、松江人、出雲人にとっては深く考えさせられる、示唆に富んだお話でした。(記念講演会の詳細は別掲)

高橋様には心より御礼を申し上げる次第です。

#### (3)第三部:「設立60周年謝恩懇親会」

 $(13:18 \sim 16:17)$ 

謝恩懇親会は松本潤常任幹事(23)の司会で、ご 来賓・ゲスト(別掲)をご紹介し、皆の拍手でお迎え をして始まりました。

#### ◆挨拶、ご祝辞

最初に松本会長が永年のご支援に対する感謝と、 先人のご貢献に対する表敬、そして今日の会が楽し くなごやかであることを願う「ご挨拶」をいたしま した。(別掲)

続いて、「ご来賓ご挨拶」として松江からお出でいただいた双松会金津会長から、ご丁重なるご祝辞をいただきました。(別掲)

更に、母校松江北高校の小山理久校長(28)から、現在の北高の状況、生徒生活や授業の内容などの映像を使ってのご説明と、ご祝辞をいただきました。 (別掲)

#### ◆乾杯

「乾杯」の音頭は双松 会金平憲 幹事長(16) にお願いし、声高らかに 杯を挙げて懇親会をス タートしました。

また、金平幹事長からは現在の「双松」の状況について、「左側の二代目の松が一本だけ残っている状況だが、右側の四代目の候補松の選定



も終わり、いよいよ来年2019年3月24日に植樹をするという段取りとなった」という嬉しいご報告がありました。

(編集注)⇒後日、「四代目の候補松」について金平幹事長にお聞きしたところ、「昭和41年5月20日、創立90周年記念事業として南・北両校地に記念植樹(各、松二本)と、西村房太郎先生御揮毫の「質実剛健」の記念碑が建立されたが、北高では当日、碑の除幕式と植樹が生徒代表参列のもと、双松会田部長右衛門会長(中44)の手で行われた。その後、昭和53年の赤山校舎移転時に、西川津校舎の多くの松を赤山校舎に移したが、

「四代目の候補松」は、現在は赤山校舎中庭にある多く の内の一本である」とのこと。

これが実現すれば、西川津で育った松が赤山台上で赤山育ちの松と共生してそびえることになり、北高の歴史を考えれば真に味わいのある結果で、新元号の時代とともにすくすくと育って欲しいと願うばかりである。



四代目の松の植樹を待つ左側の二代目の松

#### ◆学生ゲストの紹介

会食懇親も佳境に入り、各テーブルでは記念撮影がおこなわれる中、本年度の学生ゲストの8人の皆さんに壇上から自己紹介をいただきました。

双松会校内幹事の堀江玲美先生(62)からは北高時代の担任や部活の先生からの激励メッセージも読み上げられ、皆さんの顔も一挙にほころびました。 自己紹介や力強い近況報告は楽しく、かつたのもしく、歓迎と激励の大拍手を送りました。

また、8名中4名が野球部出身とのことで、来春の 北高野球部大阪遠征応援の大きな戦力になってい ただけそうです。



#### ●学生ゲスト8名の皆さんは下記のとおり(敬称略)

山根一眞(65・関西学院大・院)、安達大悟(67・龍谷大)、規家涼太(67・立命館大)、福田泰之(67・同志社大)、齋藤瑞生(67・京大)、長谷川侑麿(68・神戸大)、下舞陽菜(69理46・神戸大)、橋本竜馬(69理46・京大)

#### ◆スピーチ:関西矢の原会 韮山泰信副会長

スピーチは、松江南高校の〇B会である「関西矢の原会」の韮山泰信副会長(南高33期・1996卒)にお願いしました。

今まで近畿の地で両O B会が協働することはありませんでしたが、当会 60周年を機会にお誘い をしたところご快諾いた



だき、表敬をいただきました。歴史上"初"のことになりますが、今後は相互に表敬できればと考えています。

韮山副会長からは、①南高の関西〇B会の集まりは規模も小さいので今日はびっくりしている。②南高も負けてられないと思っていた矢先に、松江では市内中学校の高校進学学区制が廃止されると聞いて驚いている。③松江市内の北・南・東の三校〇B会がもっと協力していくことがあってもいいと感じている・・、などのお話があり、今後ともよろしくお願いしたいとの表敬スピーチをいただきました。

有難うございました。こちらこそ、よろしくお願 いいたします。

#### ◆余興ご披露:堀江眞三人様(2)

いよいよフィナーレも近づき、まずは安来節保存会認定初段の資格をお持ちの堀江眞三人様(2)から、60周年を祝う余興として安来節「どじょう掬い」踊りを披露いただきました。衣装もCDもご持参いただいた堀江様の、三味線の撥と小気味よい太鼓の音に乗った、86歳とは思えない洒脱軽妙、軽快な、年期の入った踊りは会場をうならせました。

その上、踊りの終わりに魚籠から取り出されたのはドジョウならぬ、「祝」、「60」と書かれた二枚の祝

# 2018 (平成30)年度 近畿双松会 「総会・講演会・懇親会」報告

い紙で、会場からは笑いと喝采が起きました。

安来ご出身の司会の 松本潤常任幹事が思わ ず「名人芸」と評しまし たが、まさに練達の踊 りでした。堀江さんに は60周年を盛り上げて いただき、本当に有難 うございました。



#### ◆「設立60周年記念謝恩大福引き大会」

 $(15:15 \sim 15:58)$ 

「どじょう掬い」の余韻もさめやらぬ中、メインイベントとも言うべき、郷土産品の謝恩大福引大会に移りました。この日のために5年間蓄えた原資をもとに、空くじなしの豪華な福引大会は、55周年時に引き続き、梅木隆志副会長(16)の進行でおこなわれ、期待にたがわぬ大盛り上がりとなりました。(大福引大会の詳細は別掲)

#### ◆校歌斉唱

こうして、にぎやかにお開きの時を迎え、校歌二曲「赤山健児の歌 朝日直さす」と「山脈浮かびて」の斉唱に移りました。

「赤山健児の歌」では、先ほどの「どじょう掬い名人」で、旧制松江中学の応援団でもいらっしゃった 堀江様が壇上からプロローグと指揮演武をされ、入 学早々、応援団にしごかれて歌を覚えた若きあの時 を思い出し、堀江様に負けじと皆で大合唱をしました。 堀江様は学生帽をかぶられ、「フレーフレー近 畿双松会」のエールまでいただくという、真にすば



らしいリードをいただきました。

「山脈浮かびて」では、三好資子副会長と千葉潮幹事(30理9)、学生ゲストを除く最年少会員の才木瞳美さん(64)の三人の歌姫のリードのもと、学生ゲストや若手の方々を先陣に多数の方が壇上に上がり、ふるさとと母校に届けとばかりに、全員で力強く斉唱しました。いつものことながら、至福、恍惚?の幸せを感じる瞬間でした。



#### ◆万歳三唱

最後の万歳三唱の音頭は、今年は13期の順番で 桑原洋史様、山下倶子様にお願いしました。

お二人からは、60周年を盛大に祝うことができて真にめでたいというお言葉と、桑原様からは「次回の福引には是非ハワイ旅行を入れて欲しい」と、また山下様からは「高橋様の記念講演で、出雲人は小泉八雲には褒められ過ぎ、大町桂月には少しは心当たりもあるが、けなされ過ぎだと思う。桂月は出雲人から大人物は出ないと断じたが、この中の特にお若い方々には是非この言葉を覆して欲しい」と、ともにユーモアたっぷりのひと言をいただき、今後の近畿双松会のますますの発展と、参加者のご多幸を願って、皆で声高らかに万歳を三唱しました。

#### ◆全員集合記念写真撮影

最後に残った大仕事は、吉例の125人全員集合の 記念写真ですが、今回は内容も盛りだくさんだった ことから、知恵を絞って最後の最後の解散前に撮影 することにしました。

結果、例年よりはフランクでフリースタイルな雰囲気で仕上がったのではないかと思いますが、皆様のご感想はいかがでしょうか。(P33に掲載)



#### ◆会場外での「書籍販売」

会場外の受付横では、下記四冊の高橋一清様ご推 薦の書を販売普及させていただきました。いずれ も完売、また完売に近く、皆様のご協力と書籍販売 のご担当の皆様に厚く御礼申し上げます。



『湖都松江36号』/『松江特集』/『近影遠影』(高橋 一清著)/『編集者魂』(高橋一清著)

かくして、無事すべての予定を終了し、60周年を 記念する会は盛況裡にお開きとなりました。

講師の高橋一清様には、最後までおつきあいいただいた上に、会員一人ひとりにも丁寧にご対応いただき、感謝に堪えません。

また、松本潤常任幹事(23)には、近畿安来会会長 という大役をお持ちでご多用のところを懇親会の 司会をお引き受けいただき、見事な進行、気配りを いただきました。厚く御礼申し上げます。

#### ●総会・講演会・懇親会・書籍販売を支えていただい た皆さんを下記に紹介し、御礼に替えます(敬称略)

○総括:松本耕司(16)○第一部司会:三好資子(20) 補佐;大浦綾子(22)○スライド制作:押田良樹(11)○ 監査報告:鶴羽孝子(22)○第二部司会:山嵜麻里子 (20) 補佐;大浦・長谷川浩之 (38) 安達宏昭 (43) 〇第 三部司会:松本潤(23)補佐;松村聡(26理5)周藤達夫 (26)新宮富美子 (27) ○受付: 三好·山嵜·大浦·鶴羽· 松本幸子 (23) 山口紀子 (23) 新宮・廣瀬弘美 (29) 千葉 潮 (30 理 9) 〇会計:池田喜美代 (19) 松田稚子 (27) 冨 岡幸子 (35) 今西亜子 (43 理 22) ○**来賓・講師担当**:押 田・小泉勝是(14)松本耕・梅木隆志(16)山嵜○会場 設営・案内: 統括: 岩田一志 (19) 石賀誠一郎 (18) 松村・ 周藤・長谷川〇映像音響・録音・照明: 宍道弘志 (31) 浅沼吉正 (32) 〇カメラ: 統括;土田和男 (16) 内藤善夫 (22)村田貢(22)宍道・浅沼・長谷川・安達〇福引大会: 統括;梅木・岡久夫 (17) 小田一美 (18) 小数賀健二 (20) 内藤・村田・田黒公司 (32) 三好・山嵜・大浦・鶴羽・ 木山洋子(22)廣瀬〇書籍販売:木山・大濱緑(22)瀬 戸口二三子(24)

#### 設立60周年記念「謝恩大福引き大会」顛末報告

# 設立60周年記念 「謝恩大福引き大会」 顛末報告

副会長(司会)梅木降志(16)

60周年記念総会にご出席の皆様、故郷の品を用意した「空くじなしの大福引大会」は、満足いただけたでしょうか?

5年前の大好評であった55周年から2回目となる大福引大会。5年に一度の周年記念行事の際には、必ず謝恩の福引大会をおこなうとお約束し、5年をかけて総原資50万円を何とか蓄えましたが、今はお約束が果たせて本当にホッとしています。

今回は、前回が7月から毎月打ち合わせをするという慌ただしい賞品選定となったことを反省し、1月の役員会、4月の幹事会、7月の会長・副会長打ち合わせ会と早期から準備に取りかかり、スムーズに賞品を選定することができました。

その流れは以下のような次第でした。

- ①3月に帰省した際に、皆さんに喜んでいただける 候補の品物を探すため数店舗をリサーチ。
- ②前述の4月、7月のステップを経て決定した賞品のうち、松江で確保できる品を、8月のお盆に帰省した際に仮予約。
- ③松江で確保できない賞品については、業者に直接 電話し仮予約。
- ④11月には個数を決定し、総会前日、または当日に 総会会場に届くよう手配。

前回は一部の賞品が業者の手違いで届かなかったので、開催日までに間違いなく届くかどうかを当日朝まで心配しましたが、全てが届いたので本当に安堵しました。





「参加者に空くじなし」を手違いなく、かつ限られた時間ですすめるためにはどうしたらいいか? 直前の打ち合わせ会議では精鋭の役員の皆様が知恵を出し合っていただきましたので、本番には、安心して万全の態勢で臨むことができた次第でした。

準備した賞品は別掲のとおり全部で15種類ですが、その一部について紹介します。総原資以内でおさめるという厳しい制約のもと、暑い松江の夏に、文字通り鉛筆をなめなめ計算しながら選定をした賞品です。

#### 西の横綱「仁多米」

東の横綱は「魚沼産コシヒカリ」、西の横綱と言われる「仁多米」は、前回好評であったことから今回も奥出雲から取り寄せた。

#### 最高級「干し柿」

著名な東出雲産のものは12月10日から出荷のところ、事前に農協に手配して確保した。

#### 和田珍味の「一夜干し三昧」

干物の一部に日本海の高級魚「のどぐろ」を入れ てもらった。

#### 彩雲堂・一力堂・福田屋の「銘菓詰合せ」

現在、松江の和菓子屋が挙げて取り組んでいる「不昧公200年記念創作和菓子」は、日持ち3日が限界の本当の生菓子とわかり、さすがに断念。原点に戻って、松江の伝統を伝える「和菓子詰合せ」に決定。

#### 松江地ビール「ビアへるん」・「ラフカディオ珈琲」

「松江ビール館」のオリジナル商品。ラフカディオ・ハーンに因んで選定した。

#### 長岡屋茂助「あご野焼セット」

東京のコレド日本橋の「皆美」のメニューにもある「長岡屋茂助」の逸品。

#### 李白・豊の秋・玉鋼の「大吟醸」

前回は一升瓶であったが、「嬉しいけど重かった」 のお声もあり、持ち帰りの利便性を考え、4合瓶と した。



試練は続く!7等賞(5種)は並んで自力でクジ引き

#### 隠岐の特選瓶詰「粒ウニ」

「練ウニ」は入手も簡単で安価であるが、やはり高級品である「粒ウニ」と考え、インターネットで苦労して検索し、隠岐の業者を探しあてた。

#### 最高級 「桜の花蜂密」(松江蜂密)

4月、桜が開花する短期間に採蜜した貴重な高級品。総会の12月まで保存を依頼したもの。

#### 「赤貝炊き込みご飯の素」

昔、正月といえば中海の赤貝を食べたものですが、 絶滅し取れなくなっていた。最近、養殖に成功した とのことで選定した。

加えて、双松会本部からは県高校総体時に北高生が着用する「**疾風迅雷の文字入りの応援ポロシャツ**」を10枚いただきました。

いろいろと考えましたが、北高野球部の大阪遠征 時の応援などの際に着用したり、総会の受付やお世 話の際に着用した方が有意義に活用できると判断 し、福引の対象からははずしましたこと、ご報告い

	賞 品	本数
1 等賞	西の横綱【仁多米】15キロ	5
2等賞	最高級【干し柿】	5
3等賞	和田珍味の【一夜干し三昧】	10
4等賞	松江地ビール【ビアへるん】6缶	10
	長岡屋茂助【あご野焼セット】	10
5 等賞	彩雲堂・一力堂・福田屋の【銘菓詰合】	12
0 1,52	李白・豊の秋・玉鋼(タマハガネ)の大吟醸	6
	ラフカディオ珈琲ドリップパック詰合せ	10
6等賞	隠岐の特選瓶詰【粒ウニ】2本	10
り守貝	最高級桜の花の蜂蜜【松江蜂蜜】	10
	シジミ佃煮2袋	10
	赤貝の炊き込みご飯の素1袋	10
7等賞	十六島海苔佃煮2本	10
	煎茶パウダー2袋	10
	出雲そば	10



1 等賞! 仁多米の笑顔

たします。双松会本部のご好意には厚く御礼申し 上げます。

さて、本番の「大福引大会」は、歓声とため息が交錯する中、実に楽しく、ほぼ予定どおりに、盛大に開催、終了することができました。選定した賞品もどうやらご満足いただけたようで喜んでいます。

ご参加、ご協力いただきましたすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

なお、このめでたい席で、3等までの「大福・中福」 を引き当てられました皆様は下記のとおりですの でご紹介します(敬称略)。

皆様の益々のご多幸をお祈り申し上げます。

【1**等賞】5本**:金津任紀(16) 内村昭(22) 木田京子(27) 富岡幸子(35) 今宮一正(36)

【**2等賞】5本**:木村八重子(9) 佐藤早智子(9) 倉橋勉(22) 瀬戸口二三子(24) 福田泰之(67)

【3等賞】10本:三好洋二(14) 金平憲(16) 大浦綾子(22) 木山洋子(22) 吉城聖顕(24) 新宮富美子(27) 宍道弘志(31) 山根一眞(65) 安達大悟(67) 齋藤瑞生(67)

松江からお出でで1等の仁多米が当たった双松会の金津会長が、お米の引き換えチケットの「福」を 周囲の方々に「福分け」されて、手ぶらで松江に帰 られたことは申すまでもありません。

最後になりましたが、福引から賞品お渡しまでの 実働をご担当いただきました役員の皆様、特に雰囲 気を盛り上げていただいたミュージック担当の村 田貢常任幹事(22)には心から感謝申し上げます。

次回65周年記念の際にも同様に大福引大会が開催できることを願っております。

有難うございました。

# 2018 (平成30)年度 設立60周年記念「総会・記念講演会・謝恩懇親会」出席者名簿

#### ご来賓・講師

	卒業期	卒業年	氏名				所属等	テーブル
1	高16	S40	金	津	任	紀	双松会会長(加賀小・加賀中)	B&G
2	高16	S40	金	平		憲	双松会幹事長(母衣小・附属中)	B&G
3	高28	S52	小	Щ	理	久	松江北高校 校長	в&к
4	高62	H23	堀	江	玲	美	松江北高校教諭・双松会校内幹事	в&С
5	講師		高	橋	_	清	松江観光協会 観光文化プロデューサー	В
6	(益田高校)		本	廣	保	徳	島根県大阪事務所長	В
7	(松江商業)		伊	藤	征	治	近畿松江会会長(北堀小・松江一)	В
8	(松江南高33)	Н8	韮	Щ	泰	信	関西矢の原会副会長(広島の小・八雲中・南高柔道部)	В

#### 会員

	卒業期	卒業年	氏名	旧姓	出身(小)	出身(中)	クラブ	テーブル
9	高1	S25	伊藤 雅義		来待小	旧松中	生物部	A
10	高2	S26	久保田幸雄		川津小	旧松中	バレーボール部	A
11	高2	S26	堀江眞三人		北堀小	旧松中	新聞部	A
12	高2	S26	兼清久子	小林	豊中市立明徳国民学校	松江高校(女)併設中	演劇部	A
13	高5	S29	寺 本 尚 由		朝日小	松江三	陸上部	A
14	高6	S30	荻 野 克 彦		富山小(大田)	富山中(大田)	化学部	A
15	高6	S30	田村稔久		北堀小	松江一		A
16	高6	S30	原 卓 司		朝日小	松江三		A
17	高6	S30	森 岡 敏 眞		母衣·西郷(隠岐)· 雑賀(引揚時、大連)	松江二	ユネスコ・写真・英研	A
18	高6	S30	石 原 綏 子	河津	雑賀小	松江四	コーラス部	A
19	高7	S31	寺 本 好 弘	岩田	北堀小	松江一	バスケット部	D
20	高7	S31	廣政 俶彦		雑賀小	松江三		D
21	高7	S31	山本 雅昭		恵曇小	恵曇中	バレー部	B&D
22	高8	S32	山 﨑 杲		久利小(大田)	松江二		D
23	高9	S33	坂 本 隆 男		乃木小	松江三	化学分析班	Е
24	高9	S33	逸見充宏					E
25	高9	S33	木村八重子	木山	母衣小	附属中	ソフトボール部	Е
26	高9	S33	佐々木悦子	岡部	徳島市立津田小	松江一		Е
27	高9	S33	佐藤早智子	松村	雑賀小	附属中	花道・手芸部	Е
28	高9	S33	清水良子	松尾	北堀小	松江一	化学分析班	Е
29	高10	S34	面 白 紘		本庄小	本庄中	サッカー	D
30	高10	S34	佐藤 菁治		大野小	大野中		D

	卒業期	卒業年	氏名	旧姓	出身(小)	出身(中)	クラブ	テーブル
31	高11	S35	押田良樹		雑賀小	松江四	軟式テニス・図書	Е
32	高11	S35	田中一男		白潟小	松江三	宍道湖一周、2·3年 連続学年1位	Е
33	高11	S35	畑 田 稔		附属小	附属中	卓球部	Е
34	高11	S35	村尾俊治		雑賀小	松江四	絵画部	Е
35	高12	S36	萩 野 貫 悟	筒井	揖屋小	東出雲中(揖屋)		D
36	高13	S37	桑原洋史		熊野小	附属中		F
37	高13	S37	山下俱子	今井	乃木小	松江三	美術部	F
38	高14	S38	川上克彦		附属小	附属中		F
39	高14	S38	木村修芳		修立小(鳥取)	附属中		F
40	高14(山口高)	S38	小泉勝是		北堀小	松江一		F
41	高14	S38	木 幡 晃 正		宍道小	附属中	陸上部	F
42	高14	S38	三好洋二		津田小	附属中	美術部	F
43	高15	S39	安達和彦		佐太小	附属中	バドミントン部	F
44	高15	S39	金坂喜好		大野小	大野中		F
45	高15	S39	佐藤 修介		内中原小	松江一	新聞部	F
46	高15	S39	真 庭 功		益田・吉田小	附属中	放送部	F
47	高16	S40	井 上 伸 久		川津小	松江二		G
48	高16	S40	梅木隆志		森山小(下宇部尾分)	美保関北中	陸上部	G
49	高16	S40	佐々木康雄		母衣小	松江二⇒一	剣道部	G
50	高16	S40	車野巧悦		安来小	安来一	JRC (Junior Red Cross)	G
51	高16	S40	土田和男		内中原小	松江一	バドミントン部	G
52	高16	S40	松本耕司		本庄小	本庄中	陸上部	B&G
53	高16	S40	三成宏二		附属小	附属中		G
54	高16	S40	森 藤 哲 章		広瀬小	広瀬中	軟式テニス同好会	G
55	高16	S40	田中由美子	和田	内中原小	松江一	生物部	G
56	高17	S41	岡 久 夫		法吉小	松江一	陸上部	Н
57	高17	S41	永 井 貞 泰		仁多・鳥上小	仁多・鳥上中	弓道・写真部	Н
58	高17	S41	夏川 一輝		岩坂小	附属中		Н
59	高18	S42	石賀誠一郎		兵庫・豊岡小⇒北堀小	松江一	陸上部	Н
60	高18	S42	太田善博		安来小	安来一		Н
61	高18	S42	小 田 一 美		内中原小	松江一	天文気象部	Н
62	高18	S42	桑 原 勇		広島市中島小	松江一	剣道部	Н

# 2018 (平成30)年度 設立60周年記念 「総会・記念講演会・謝恩懇親会」 出席者名簿

# 会員

	卒業期	卒業年	氏名	旧姓	出身(小)	出身(中)	クラブ	テーブル
63	高19	S43	岩田 一志		荒島小(安来)	安来三	バレー・文芸部	I
64	高19	S43	新 見 泰 朗		附属小	附属中		I
65	高19	S43	元 栄 徹	成相	飯梨小(安来)	安来三		I
66	高19	S43	池田喜美代	川原	北堀小	松江一	考古学部	I
67	高20	S44	小数賀健二		法吉小	松江一		Н
68	高20	S44	三 好 資 子	恩田	北堀小	松江一	(帰宅部)	Н
69	高20	S44	山嵜麻里子	木村	益田·松原小(浜田)	浜田二・松江一	双曲部(お琴)	Н
70	高21	S45	花 田 幸 久		母衣小	附属中		I
71	高22	S46	石 川 章		大芦小	島根中		
72	高22	S46	内 村 昭		佐太小	鹿島中		
73	高22	S46	倉 橋 勉		母衣小	松江二	卓球部	
74	高22	S46	実 重 祐 二		安来小	安来一		
75	高22	S46	内藤 清志		附属小	附属中	写真部	
76	高22	S46	内藤 善夫		朝日小	附属中	陸上部	I&J
77	高22	S46	村 田 貢		西郷小	西郷中	バンド活動 早弁クラブ	2卓 分散
78	高22	S46	吉岡和彦		附属小	附属中		
79	高22	S46	大浦 綾子	大浦	北堀小	松江一	機械体操部	
80	高22	S46	大 浜 緑	宮本	本庄小	本庄中	華道部	
81	高22	S46	木 山 洋 子	平田	三成・上山佐・広瀬小	広瀬·西郷中		
82	高22	S46	鶴羽孝子	石橋	持田小	松江二		
83	高22	S46	西村 紀子	松本	附属小	附属中	茶道部	
84	高23	S47	朝比奈博則		吉田小(安来)	安来二	野球部	K
85	高23	S47	松 本 潤		安来小	安来一		K
86	高23	S47	森 脇 泰 雄		内中原小	松江一	無線部	K
87	高23	S47	松本幸子		母衣小	松江二		K
88	高23	S47	山口紀子	宮崎	内中原·松原(浜田) ·温泉津·木次	木次・川本・ 松江一	生物部	K
89	高24	S48	伊藤 澄夫				バスケット部	L
90	高24•理3	S48	岩間令道		附属小	松江一	生物部	L
91	高24	S48	吉 城 聖 顕		内中原小	松江一		L
92	高24	S48	徳田完二		御波小	海士中		L
93	高24	S48	小川ひとみ	堀江	附属小	附属中	体操部	L
94	高24	S48	瀬戸口二三子	三隅	本庄小	本庄中	茶道部	L

	卒業期	卒業年	氏名	旧姓	出身(小)	出身(中)	クラブ	テーブル
95	高26	S50	川谷徳彦		古江小	古江中	JRC	М
96	高26	S50	周藤達夫		北堀小	松江一	社研	М
97	高 26・理 5	S50	松 村 聡		北堀小	松江一		М
98	高26	S50	前羽香江	幡	附属小	附属中	JRC	М
99	高26	S50	矢 野 美 紀 子	難波	小田小	赤来中	バレーボール部	М
100	高27	S51	木 田 京 子	能海	本庄小	本庄中		K
101	高27	S51	新宮富美子	新川	母衣小	松江二		K
102	高27	S51	松田稚子	永島	意東小	東出雲中	硬式テニス部	К
103	高28	S52	赤井真一郎		母衣小	松江二	硬式庭球部	К
104	高29	S53	達 山 暢		城北小(北堀)	附属中	写真・映画研究部	M
105	高29	S53	福本秀一		内中原小	松江一	硬式テニス部	М
106	高29	S53	野津さとみ		安来小	安来一		М
107	高29	S53	廣瀬弘美	藤原	城北小(北堀)	松江一	演劇部	М
108	高 30・理 9	S54	千 葉 潮		安来小	安来一	考古学部	N
109	高31	S55	宍 道 弘 志		内中原小	松江一	弓道部	N
110	高32	S56	浅 沼 吉 正		城北小	松江一	バレーボール部	N
111	高32	S56	田黒公司		海士・知々井小	海士中		N
112	高35	S59	冨岡 幸子	三和	七類小	美保関北中		N
113	高36	S60	今宮 一正					N
114	高38	S62	長谷川浩之		白潟小	松江三	野球部	N
115	高43	H4	安達 宏昭		内中原小	松江一	バドミントン部	N
116	高43・理22	H4	今 西 亜 子	井山	法吉小	附属中	写真部	N
117	高64	H25	才 木 瞳 美		中央小	松江三	バドミントン部	N

#### 学生ゲスト

	卒業期	卒業年	氏名	旧姓	出身(小)	出身(中)	クラブ	テーブル
118	高65	H26	山根一眞		生馬小	松江一	陸上競技部	С
119	高67	H28	安達 大悟		城北小	松江一	野球部	С
120	高67	H28	齋 藤 瑞 生		内中原小	附属中	弓道部	С
121	高67	H28	規家涼太		生馬小	松江一	野球部	С
122	高67	H28	福田泰之		城北小	松江一		С
123	高68	H29	長谷川侑麿		雑賀小	松江三	野球部	С
124	高69·理48	H30	下舞陽菜		附属小	附属中	小倉百人一首かるた・自然科学	С
125	高69・理48	H30	橋本竜馬		生馬小	附属中	将棋・自然科学・パソコン	С

# 総会議事(1) 近畿双松会 活動事業報告

#### ◆2017 (平成29) 年度 (総会以降)

11月	26日	(日)	平成29年度「総会・講演会・懇親会」
			(於:中央電気倶楽部、参加者はゲストを含め 100 名)
			(講演は泉 紳一郎氏(高 24・理 3 期)大和大学理工学部設置準備室長、
			演題は「科学技術の担い手の育成」~日本の将来のキーポイント~)
	<i>"</i>	"	平成28年度「会報」の編集開始
12月	5 日	(火)	第40回近畿双松会ゴルフ(秋季)(参加9名、於:武庫ノ台)
1月	7 日	(日)	事務局会議 & 有志新年会開催(参加 18 名)
	21日	(日)	第1回宝塚歌劇鑑賞会(参加 36 名、於:宝塚大劇場)
	27日	(土)	平成30年度新年役員懇親会(新年度方針確認)(参加 20 名)
3 月	18日	(土)	第11回落語鑑賞会(天満天神繁昌亭・参加 24 名)
	28~29	(水•木)	第3回松江北高野球部大阪遠征応援(28 日八尾高校、29 日北野高校、参加5名)
	31日	(土)	事務局会議開催(新年度事業方針打ち合わせ)
	"	"	平成29年度会報の発行
	"	"	平成29年会計年度終了

#### ◆2018 (平成30) 年度 (設立60周年度)

4月	1日	(日)	平成30年度(設立60周年度)事業・会計開始
	7 日	(土)	平成30年度事業計画ならびに平成29年度会報の発送
5月	30日	(水)	第41回近畿双松会ゴルフ(春季オープン)(参加 17 名、於:武庫ノ台)
7月	22日	(日)	第13回文楽鑑賞会(参加 24 名、於:国立文楽劇場)
9月	2 日	(日)	事務局会議開催(H29 年度監査&秋季事業の打ち合わせ)
	2 日	(日)	設立60周年記念総会・講演会・謝恩懇親会の案内を発送
	30日	(日)	第13回歴史ウォーキング ⇒(台風接近のため中止)
			「NHK 大河 "西郷どん" から京都の足跡を訪ねて」 (予定 29 名)
10月	13日	(土)	東京双松会総会(梅木隆志副会長 表敬出席)
	28日	(日)	第8回里山棚田歩くぞ!ハイキング
			「奈良近郊古墳めぐり・平城宮祉・秋篠寺を散策」(参加 24 名)
11月	7 日	(水)	第42回近畿双松会ゴルフ(秋季)(参加7名、於:枚方国際)
	23日	(木)	事務局会議開催(総会懇親会最終打ち合わせ)
12月	2 日	(日)	平成30年度 設立60周年記念「総会・講演会・謝恩懇親会」
			(於:中央電気倶楽部、参加者はゲストを含め 125 名)
			(記念講演は高橋一清氏(松江観光文化プロデューサー、湖都松江編集統括、
			演題は「松江への思い」)
			(※郷土産品の大福引大会を実施)
	"	"	平成30年度「設立60周年記念会報」の編集開始
1月	6 日	(日)	事務局会議 & 有志新年会開催(参加 20 名)
	20日	(日)	第2回宝塚歌劇鑑賞会(参加 33 名、於:宝塚大劇場)
2月	2 日	(日)	平成31年度役員会(新年度方針確認)(参加 23 名)
3 月	16日	(土)	第12回落語鑑賞会(於:天満天神繁昌亭、参加 32 名)
	29~30	(金•土)	第4回松江北高野球部大阪遠征応援
			(29日八尾高校・30日北野高校、参加 6 名)
	31日	(日)	平成30年会計年度終了
	未定		平成30年度「設立60周年記念会報」の発行

※ HP アクセス件数 2019.3.24現在 42,049 件 (前年+3,551件)

# 総会議事(2) 近畿双松会 会計·監査報告

#### 2017 (平成29)年4月1日~2018 (平成30)年3月31日

(単位:円)

収入の部		支出の部	
収入の部  ③ 前期繰越金  ⑤ 収入計 ・平成29年度 運営費支援収入 ・平成29年度 寄付・広告収入 ・平成29年度 総会参加費 ・平成29年度 諸行事参加費収入 ・平成30年度 役員会参加費 ・その他収入・雑収入	2, 046, 206  2, 403, 140 630, 000 240, 000 744, 440 721, 700 67, 000	支出の部  ② 支出計  ・通信費 ・印刷費 ・事務費 ・郵便、銀行手数料等 ・平成28年度 会報費 ・平成29年度 総会費 ・平成29年度 諸行事支払い ・平成30年度 役員会会議費 ・その他支払い・雑費	2, 343, 464  191, 492 108, 605 174, 955 24, 222 247, 420 808, 200 717, 361 71, 209
		<ul><li>○ 次期繰越金</li><li>・内訳</li><li>・郵便貯金振替残)</li></ul>	2, 105, 882 1, 467, 865
		(郵便貯金)	306, 034
		(現金)	331, 983
◎ 総合計	4, 449, 346	◎ 総合計	4, 449, 346

(注) 繰越金前年比 (+) 59,658

上記のとおり報告いたします。

事務局長(副会長) 渡辺 悟 ⑩

監査の結果、正確に処理・記帳されていることを認めます。

2018 (平成 30) 年9月3日

 監事
 物種 慶子 印

 監事
 鶴羽 孝子 印

# 総会議事(3) 2018(平成30)年度 近畿双松会役員

2018/12/2 総会承認、2019/2/2 役員会確認

役	期	氏 名	役	期	氏 名
常任顧問	高7	山本雅昭	常任幹事	高19	岩田一志
常任顧問	高11	押田良樹	幹事	高19	池田喜美代
			常任幹事	高20	山嵜麻里子
会長	高16	松本耕司	常任幹事	高20	小数賀健二
			常任幹事	高22	村田 貢
副会長	高16	梅木隆志	常任幹事	高22	内藤善夫
副会長(兼)	高20	渡 辺 悟	(新)常任幹事	高22	大浦綾子
事務局長			常任幹事	高23	松本潤
副会長	高20	三好資子	幹事	高23	松本幸子
			(新)幹事	高23	山口紀子
監事	高 20	物種慶子	幹事	高24(理3)	岩間令道
監事	高 22	鶴羽孝子	幹事	高 24	糸 原 直 彦
			幹事	高24(理3)	泉紳一郎
幹事	高1	茢田運三郎	(新)幹事	高24	徳田完二
(新)幹事	高 2	堀江眞三人	幹事	高26	福間則博
幹事	高 3	緒形公士	(新)常任幹事	高26(理5)	松村 聡
常任幹事	高 5	山田 稔	(新)幹事	高26	周藤達夫
幹事	高 6	田村稔久	幹事	高27	新宮富美子
常任幹事	高 7	廣政俶彦	常任幹事	高29	廣瀬弘美
幹事	高8	山 﨑 杲	幹事	高30(理9)	千葉 潮
(新)幹事	高 9	逸見充宏	常任幹事	高31	宍 道 弘 志
幹事	高10	面白紘	幹事	高31	小 林 満
幹事	高11	田中一男	幹事	高31	西村英明
幹事	高12	萩野貫悟	幹事	高 32	浅沼吉正
幹事	高13	永江幹雄	幹事	高 32	木村滋樹
常任幹事	高14	加藤巡一	(新)幹事	高 32	田黒公司
常任幹事	高15	金坂喜好	幹事	高 32	藤本斉子
(新)幹事	高15	佐藤修介	幹事	高33	柳井利明
常任幹事	高16	土田和男	常任幹事	高 35	冨 岡 幸 子
幹事	高16	三成宏二	幹事	高 36	森口次郎
常任幹事	高17	岡 久夫	(新)幹事	高38	長谷川浩之
常任幹事	高18	小 田 一 美	幹事	高 43	安達宏昭
(新)幹事	高18	石賀誠一郎			
					以上 60 名

#### 設立60周年記念行事「感謝状贈呈」

#### 設立60周年記念行事「感謝状贈呈」



設立50周年記念の2008(平成20)年11月30日の総会において、特別会員の八木幸治先生、双松会会長の松本幹彦様(1)、近畿双松会第4代会長の児玉治利様(中61)、第5代の和田亮介様(1)、第6代の山本雅昭様(7)に「感謝状」を贈呈した吉例にならい、今回は第7代の永江幹雄様(13)、第8代の押田良樹様(11)に贈呈しました。

「記念品」は押田様のライフワークの対象である松中7期倉崎仁一郎(茨木中時代の川端康成の恩師)にちなみ、その先祖である倉崎権兵衛開祖の楽山焼の湯呑みとしました。(楽山焼十二代長岡空郷作)

永江様は残念ながら所用ご欠席でしたが、押田様からの御礼のご挨拶を紹介します。

#### ◆御礼ご挨拶(抜粋) 常任顧問 押田良樹(11)

60年を振り返りますと、旧制松中、新制松高、北高という母校の変遷に伴い、会の中心の世代もそれに伴って変わってきていて、それは会長の経歴に現れております。創立後38年間は旧制松中卒の会長が4代続き、1996(平成8)年に第5代会長に和田亮介様が就任されました。和田会長は旧松中入学、新制松高1期の卒業ですから、緩やかな世代交代には真にふさわしいご経歴でした。

第6代の7期山本雅昭会長を経て、2007(平成19)年に第7代に13期の永江幹雄様が就任されましたが、永江会長は松高入学、北高卒業ですから、これまた松高と北高の世代をつなぐには格好のお立場でした。

残念ながら2年後、永江会長が体調を崩されてやむなく退任され、松高11期の私が時計の針を戻すかのように緊急対応で、2009 (平成21)年から会長を仰せつかった次第でした。

1,2年で北高世代の方々に交代したいと思っていましたが、丁度、双松会本部も恩師の松本幹彦会

長(1)から、3年次同クラスだった庄司肇会長(11) に交代された時で、不思議なご縁を感じながら、結 局5年間も会長を務めさせていただくことになりま した。

この間、現会長の松本耕司事務局長(16)はじめ、役員各位、会員の皆様のご協力をいただき、心から感謝を申し上げます。とりわけ松本事務局長には万事に行き届いたお膳立てをいただきましたので、私は何の不安もなく会長職を勤めることができました。

私としては、松本会長をはじめ支えてくださった 皆様に、この感謝状をそっくりお渡ししたい気持ち でありますが、この機会をお借りして感謝の言葉だ けでもお伝えさせていただきます。本当に有難う ございました。

最後にひと言、私は近畿双松会を「心のオアシス」 だと思っています。故郷と母校を同じくする皆さ んとの懇親の場に身を置くと、言葉で言い表せない 安らぎを覚えるのです。

本日も高校1期から69期までの世代を超えた交流の場が実現しています。こういう同窓会はなかなかないのではないでしょうか。

これからも、このオアシスの泉が枯れることなく 滾々と湧き出ますよう、また若い木々が育ち、より 大きな木陰を作っていきますように願って、御礼の 言葉といたします。

有難うございました。(拍手)



#### ◆押田様感謝状の骨子:

①すべての行事に率先参加して会員の融和に注力。 ②ホームページを本格立ち上げし充実した情報提供に尽力。

#### ◆永江様感謝状の骨子:

- ①長年月、運営・財政基盤の確立に尽力。
- ②会員背景が複雑な時期に当会継承のため多大な貢献。

# ご挨拶 近畿双松会会長 松 本 耕 司 (16)



皆様、こんにちは。

ただ今の会長を仰せつかっております16期の松本耕司でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

ご来賓の皆様には遠いところをお運びいただき、 また、当会の活動に対し日頃より格別のご支援を賜 わり、高い席からではございますが、厚く御礼申し 上げます。

この夏は近畿では地震に始まり、豪雨水害、台風、 酷暑と大変な天候が続きましたが、皆様の中には大 変な日々をお過ごしの方もいらっしゃったのでは ないでしょうか。被害に遭われ、影響を受けられま した皆様には、まずは、心からお見舞いを申し上げ ます。

さて、そういった中で、会員の皆様に当会設立60 周年記念総会のご案内をいたしましたところ、かく も多数の皆様にお集まりをいただきまして、感激い たしております。厚く御礼申し上げます。

本年は、当会が昭和33 (1958) 年に戦後の、言わば第二次の近畿双松会としての活動を再開して以来、ちょうど60 周年目にあたります。人間であれば「還暦」を迎える記念すべき年である上に、奇しくも平成最後の年末ということで、近畿双松会にとっては大変大きな節目での会合であると考えております。

私のことで言えば、2002年、21世枠甲子園出場の後で、1期の第五代和田亮介会長、7期の第六代山本雅昭会長に呼び出され、「近畿双松会を手伝え」と言われたのが始まりで、最初の仕事が「北高世代の会員の参加促進」でした。お二人から「北高世代の参加がなければこのままでは続けていけない」と言われ、私の16期は北高としての入学2年目の期ですから逃げ道はないな、と覚悟したことをよく覚えております。

以来・・、と話し出せばキリがありませんので、別の機会にと存じますが、諸々の状況を思い出せば、「よくぞ近畿双松会は還暦を迎えることができた!」というのが、私の一番の感慨であります。

これも皆様のご協力、ご支援があったからこそと、心から感謝をいたしております。中でもこの60年の間、それぞれの時代を担われた先人の皆様の「この会を継続していくのだという強い思い」は、この機会にあらためて忘れてはならないことと強く心に刻み、敬意を表したいと思います。

本日は何とかこの感謝の思いを皆様にお伝えし、 有意義な60周年を記念する会にしたいと、記念講 演会では念願であった高橋一清松江観光文化プロ デューサーに「松江への思い」と題してご講演をお 願いし、さらに、お約束しておりました5年に一度 の「郷土産品の大福引き大会」をおこなうことにい たしました。皆様に存分にお楽しみいただければ、 これに勝る喜びはございません。どうぞ、すばらし いひと時をお過ごしください。

この60周年を契機に、なお一層、多数の新しい世代の方々にもご参加いただき、近畿双松会が将来に亘って継続していくことを心から願っているところでございます。

学生ゲストの皆さんには、今日はようこそお出でくださいました。近畿に同窓会があることを知っていただきたいと思いご案内しましたが、存分に楽しんでいただき、今後も折々にこの会にご参加いただければと存じます。やがて学生ゲストを迎える側になられました時には、今日のことも思い出していただければ幸いです。

また、朝早くからご協力いただいております役員 の皆様にも、厚く御礼申し上げます。 今日一日、よ ろしくお願い申し上げます。

この記念すべき会が、楽しくなごやかで有意義でありますよう心から願い、最後には校歌を力一杯歌いたいと思っておりますので、皆様にはご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、お集まりの皆様の益々のご 多幸をお祈り申し上げまして、ご挨拶とさせていた だきます。有り難うございました。 来賓ご挨拶・祝辞 双松会会長 金津任紀 (16)



ご紹介いただきました金津でございます。

本日は、近畿双松会の総会・講演会・懇親会にお招きをいただき、真に有難うございます。そして、このたび近畿双松会が設立60周年をめでたく迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。併せて、ここに沢山の近畿地区の会員の皆様のご出席のもと、60周年記念行事が盛大に開催されますこと、重ねてお慶びを申し上げます。

また、近畿双松会の皆様には、日頃、双松会の運営 や事業推進に格別のご協力を賜わり、深く感謝を申 し上げます。

私、4月の幹事総会で双松会の会長に再任され、二期目三年間の運営にあたることになりました。その重責にあらためて身の引き締まる思いでございます。母校と双松会の発展のため、微力ではございますが、一生懸命勤めさせていただきますので、どうか今後ともご支援、ご協力を賜わりますようお願いを申し上げます。

今年、60周年の節目を迎えられた近畿双松会は、 日頃より松本会長を中心によくまとまって、熱心に 交流を続けておられるという印象を抱いており、心 より敬意を表する次第でございます。

来年はいよいよ平成の代が終わり、新たな時代が 到来します。60周年をベースにされ、新時代にふ さわしい、更に充実した会の運営がなされますよう 期待しております。

さて、今年は全国各地で地震や豪雨、台風といった大きな自然災害が起こりました。ここ近畿でも6月に震度6弱の地震が起き、9月には台風21号で大変な被害が発生しました。中国地方でも4月の島根県西部を中心とした地震や、7月の西日本豪雨で甚大な災害を受けました。そのたびに思うことは災害に強い国づくりの大切さや、地元出身者や双松会

員の安否のことであります。

災害など万一の時に、同郷や同窓の誼が強い味方になるかもしれません。我々双松会員は全国のいたるところで活躍をしております。何かの時に双松会としての活動や、会員同士の絆が役立つのではないかと思います。双松会報にも書きましたが、同窓生同士のご縁を大切にして、これをよりよい交流の機会にと充実させていくことができるかで、双松会の持つ意味も変わってきます。

どうか、皆様も双松会の豊富で多彩な人脈を有効に活用し、人生をより豊かに、またビジネスチャンスとして活かしていただければと思います。

双松会の存在意義は会員相互の親睦交流だけでなく、学校や在校生の様々な活動に対し支援をしていくことが大きな目的の一つであると言えます。 我々卒業生にとって母校の隆盛や後輩の活躍は大きな励みであり、これにまさる喜びはありません。

今後も母校が様々な分野で活躍できる優秀な人材を育み、時代を超えて存在し続けることができるよう、皆様には何かと出費多端の折とは存じますが、「世界の人たれ!北高生基金」、「北高の緑を守る基金」、「教育後援会基金」などや、会報発刊にかかわる諸経費の援助について、引き続きご支援を賜わりますようお願い申し上げます。

とりわけ、伝統の、北高の宝である"二本松"を 守っていくことには力を注いでまいりますので、何 卒ご理解のほどよろしくお願いいたします。

終わりに、総会を通じて皆さんの親睦と絆が深まり、近畿双松会が一層発展されると同時に、会員の皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げましてご挨拶とさせていただきます。

本日は真におめでとうございます。

【付言】5月、松江では10年ぶりに日本三大船神事の「ホーランエンヤ」が開催されます。貴重な伝統文化遺産を、里帰りも兼ねてご覧ください。

- ·正式名称:松江城山稲荷神社式年神幸祭
- · 日時:渡御祭5月18日、還御祭5月26日
- ・松江城山稲荷神社からご神体が大橋川、意宇川を通って阿太加夜神社を往復する絢爛豪華な大船行列。 370年前、初代藩主松平直政公が五穀豊穣と民の幸福を願って始めたと言われる。※日本三大船神事は、他に、宮島の管絃祭、大阪の天神祭。

# 来賓ご挨拶・祝辞 松江北高等学校校長 小 山 理 久 (28)



皆様、こんにちは。

先ほどご紹介いただきました松江北高校長の小山でございます。私は28期でございます。

金津会長からもお話がございましたが、創立140 周年にあたりご協力いただくとともに、「世界の人 たれ北高生募金」に多大なるご厚志をいただき大変 感謝申し上げます。この募金の趣旨を生かし、10 年間を目途として、様々な事業を昨年から実施させ ていただいております。

昨年度は、3月に「世界の人たれ講演会」に三井物 産執行役員の佐藤真吾氏をお招きして、日本の商社 が世界で活躍している状況を紹介していただくとともに、高校、大学と培った経験をさらに、商社マンとしての様々な経験に生かしてこられた事について、本校1年生と2年生にお話をいただきました。また、春休みを利用したアメリカへの短期留学希望者に対して、選考を行った上で3名の生徒に留学資金の一部援助を実施いたしました。

昨年度実施の事業は、今年度も実施する予定にしておりますが、今年度は2年に1度実施する予定にしております「エンパワー・プログラム」を12月末に予定しております。このプログラムは、日本に留学している各国の留学生が5日間本校で英語のみでの研修を実施するものでございます。今のところ、50名弱の生徒が参加いたしますが、5日間英語漬けとなる研修でございます。留学生は、保護者の皆様のご協力によりホースティも実施いたします。

#### 主体的・対話的で深い学びの実現 松江北高校の授業イメージ図 各教科・科目の授業 指導方法・授業デザインは様々 教師と生徒の関係が重要 護義型授業 既存の知識・技能に基づく アクティブ ラーニング 思考力・判断力と表現力の育成・ 知識伝達型授業 型授業 知識・技能の確実な習得 知識の更新、獲得と深化 指導者主体 知識・技能の確実な習得 主体性を持って多様な人々と 協働して学ぶ 協働・活動は目標ではなく手段 既存の知識・既習の知識を 生徒の活動と発想から 確認する問い 教員が感得 発 問 思考を必要とする問い 課題探究学習の目標 課題探究学習 学びの意欲 知識及び技能の育成 進路選択 学習者主体 思考力・判断力と表現力等の育成 学びに向かうカ、人間性の育成 教科・科目の特性を生かし、合教科で実施 協働・活動は目標でなく手段 生徒のAO型入試 学園祭 推薦入試受験 ジェント

さて、本校の現状でございますが、まずは、生徒数ですが、クラス減により今年度は理数科1クラス普通科6クラスの7クラス21学級の完成年度となりました。

日々、生徒たちは、校訓「質実剛健」と「文武両道」 のもと学習と部活動に励んでおり、学習にあっては 「仲間とともに励まし、切磋琢磨する学校、生徒集 団」として頑張っております。

進路面では、平成30年度入試にあっては、国公立 大学医学部医学科進学者が昨年度は13名でしたの が、16名というのが特徴でございます。

部活動については、97%の生徒が加入しております。今年度の県総体では、残念ながら昨年に続き男女総合2位でした。近年の特徴として、部活動の最大勢力はサッカー部で部員数は50名を超え、校舎横のグランドでワヤワヤの状態で練習をしております。

また、本校では普通科、理数科で「課題研究」を「総合的な学習の時間」で実施しています。普通科では1年生から「地域の未来をより良くする提案集」を最終的にはチームで作成することと、フィールドワークを実施しております。理数科では総合学習と合わせ、島根大学の協力を得て「課題研究」に取組み、第2学年で関東研修を実施して最新の科学技術に触れるようにしております。

高校教育の改革の柱である次期学習指導要領は 昨年3月に告示され、7月には解説が出されました。 そして、2022年度から学年進行で実施されます。 次期学習指導要領では、指導方法の改革、教員が生 徒に教え込むという知識注入型の授業だけでなく、 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニ ング=ALの視点による学びの改善)が求められて います。このことを踏まえ(図)のような授業の構 築を目指しております。

2021年度入試から、今の中学1年生から松江市内普通科3校のいわゆる通学区が廃止され、松江市内どこからでも受験できることとなります。昭和42年度から実施されておりました第2志望校制も廃止されておりますので、いかに我が校が松江市内の中学生・保護者にとって魅力ある高校となるかが問われることとなります。

ついては、「様々な機会をとらえて、学びのチャンスとし、個々の能力と個性を特性へと昇華させる」 生徒たちを育てることが必要であると考えております。

同窓生の皆様には、本校の教育活動等にご理解、 ご協力とともに、今後とも変わらぬご支援をいただ くことをお願いし、挨拶といたします。

#### 2018 (平成30)年度 松江北高校十大ニュース

(注)この記事は、北高教頭、双松会事務局長の渡部 勝先生に特別制作のご協力をいただきました。

# ▼H 30年3月卒業生の進路

#### 平成30年3月31日

東京大学2名、京都大学2名、国公立医学科16名を含む211名の生徒が国公立大学に合格しました。そのうち、難関10大学(北海道大・東北大・東京大・東京工業大・一橋大・名古屋大・京都大・大阪大・神戸大・九州大)の合格者は29名でした。国公立大の合格者は昨年度に続く多さでした。また、私立大学の合格者数は、延べ262名でした。



#### ▼平成30年度がスタート

#### 平成30年4月1日

平成30年度がスタートしました。

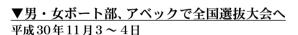
今年度は学級減の完成年度で全学年とも7クラスとなり、全校生 徒数は822名、起雲館にある補習科生は30名でスタートしました。

#### ▼第56回 島根県高等学校総合体育大会『男女総合第2位』!! 平成30年5月25日~6月3日

第56回島根県高等学校総合体育大会が開催されました。各部が 日頃の練習の成果を存分に発揮してくれました。結果は、男子総合 3位、女子総合3位(昨年は男子2位、女子3位)の成績を納め、男女 総合では昨年と同様、2位という結果でした。弓道個人、テニス個人、 男・女子ボートが全国総体へ進出、陸上競技では1位が続出しました。



第71回中国高校陸上競技対校選手権大会において、男子200Mで 優勝した門脇 陸君(3)が、平成30年度全国高校総体陸上競技大会に おいて準決勝進出を果たしました。



第30回全国高等学校選抜ボート大会 中国地区予選会が 雲南市で開催され、男子ダブルスカルで「植田(2)庄原(1)組」 が第四位、女子シングルスカルで佐田さん(2)が第2位、女子 舵手付きクォドルプルで「實原(2)中島(2)錦織(2)三島(1)青 戸(2)組」が第1位に輝き、全国選抜大会への出場権を獲得し ました。

#### ▼文化部大健闘 全国大会へ!

「放送部」の田中さん(3)が第65回NHK杯全国放送コンテスト、第42回全国高等学校総合文化祭放送部門に朗読部門で出場。「合唱部」は声楽アンサンブルコンテスト全国大会への出場権を獲得。「百人一首かるた部」は8月の全国高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた部門の競技の部、団体戦で島根県代表チームとして今若さん(3)がベスト8に、読み手の部では米原さん(2)が表彰式に参加、また、



寺井さん(2)が全国高校生かるたグランプリの団体戦に島根県 代表Aチームとして出場権を獲得しました。

また、「囲碁・将棋部」は全国高校総合文化祭の将棋部門、男子団体戦予選リーグで廣江君(3)山根君(3)山本君(1)が3勝1敗で決勝トーナメントに進出、「自然科学部」では、守岡さん(2)が「宍道湖湖面の模様の研究」で全国高校総合文化祭に出場しました。



#### ▼紅陵祭 (学園祭)盛大に! 平成30年8月29日~31日

第11回紅陵祭(第70回松江北高学園祭)が今年も8月末の3日間、盛大に行われました。初日は県民会館での開会式、1年の合唱コンクール、吉本の芸人を招いての企画など。午後は会場を学校に移しルームの出し物や各文化部展示。

2日目はヘルンをたたえる英語のスピーチコンテストやPTAバザー。

最終日は体育祭で生徒は完全燃焼しまし。特に3年生によるページェント(野外劇)は圧巻でした。



#### ▼H30年度 選挙啓発ポスターコンクール 高1の部「全国1位」!

美術部1年生齊田さんが、「全国明るい選挙ポスターコンクール高等学校の部」において、文部科学・総務大臣賞を受賞しました。島根県で最優秀賞となり、全国で高校約400校、5,600名の応募中、高校1年の部で第1位に輝きました。

#### ▼松江市内3校 通学区撤廃へ 平成31年1月

松江市内県立普通高3校(北高・南高・東高)の現行の通学区が、2021年度入学者選抜より撤廃される方針が県より示されました。

現時点での松江北高のガイドライン (基本的な方向性) は、「最先端の科学技術に触れ、理数科目を重視した理数科と、既習の知識・技能を生かした課題研究に取り組む普通科で、高大接続と中高連携を強め、地域や世界で活躍する人材の育成をめざす。」となっています。

今後はこれを基に教育課程等が確立され、2020年3月までに学校の特色を具体化・明確化し、中学生・保護者、中学校等に周知される予定です。

#### ▼すくすく育っています 新双松 (二本松)候補の1本 平成31年2月15日

昨年度10月に双松の1本が松くい虫の被害に遭い、やむなく撤去されましたが、現在、中庭にて新たな1本となる松が育成中です。(向かって左の支えがある松で、3月24日、双松台上に東側(向かって右側)の松として植樹される予定です)





# 期別テーブル写真



ご来賓の皆さん



1期、2期、5期、6期の皆さん





16 期 の皆さん



学生ゲスト (65・67・68・69 期) の皆さん









19期、21期、22期の皆さん



22 期の皆さん



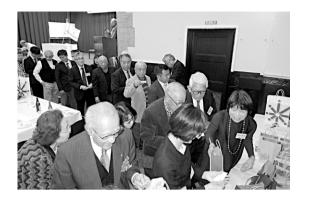


24 期の皆さん





# スナップ写真

































# スナップ写真



























#### 設立60周年「記念講演会」「松江への思い」

# 設立60周年「記念講演会」 「松江への思い」

講師:高橋一清氏



#### 近代日本の文章を創った松江ゆかりの人々

目にした、ありのままを普段使っている話し言葉 に近い形に書く「言文一致」の文章について、試み を重ねた明治の作家として、二葉亭四迷と山田美妙 がいます。二人は松江とのつながりがあるのです。

二葉亭は本名長谷川辰之助。幕末に尾張藩士の 長谷川吉数の子として、江戸市ヶ谷に生まれました。 維新後、父親が明治政府の官吏になり、松江勤務と なったことから、二葉亭も明治8(1875)年から11 (1878)年にかけ松江で過ごします。そして、幕末 の松江藩の方針決定で大きな役割を果たす学者、内 村鱸香の漢学塾「相長舎」に通います。

二葉亭は後に、今の東京外国語大学に入り、ロシ ア語を学びます。実に堪能だったといいます。二 葉亭には、塾で学んだ漢文が基にあり、文型が似て いますから習熟が早かったようです。また二葉亭 は国を思う気持ちが強く「維新の志士肌」と言われ ていました。それが培われたのもこの塾において でした。明治8年、二葉亭が樺太千島交換事件に刺 激され、ロシアの南下政策から日本を守ることを生 涯の使命と決めたのも松江においてでした。

同じ頃、山田吉雄という人が、今で言うところの 県警本部長として東京から来ていて、二葉亭の父と 親しくしていました。この人の東京においている 子が山田美妙です。二人は父とのこともあり、親し くなりました。日本の文章で「言文一致」に大きな 働きをした二人は、松江と係わりがあるのです。

時代がくだりますが、井上赳さんのことについ てお話しましょう。今の大田市仁摩町で明治22 (1889)年に生まれました。足立という姓でしたが 14歳の時、広瀬町の井上家に養子に入ります。 松 江中学校から第一高等学校、そして東京帝国大学へ

●高橋一清氏:昭和19(1944)年、益田市に生まれる。益田中学校、山口高等学校 を経て、昭和42(1967)年、早稲田大学第一文学部国文学専修卒業。株式会社文藝 春秋入社。「文學界・別册文藝春秋」「文藝春秋」「週刊文春」「オール讀物」出版部 の部員、「別册文藝春秋」「文春文庫」「文藝春秋臨時増刊」編集長、「私たちが生き た20世紀」特別編集長を務めた。その間、公益法人日本文学振興会理事として、芥 川賞、直木賞の運営進行にあたる。

平成17(2005)年、株式会社文藝春秋退社。一般社団法人松江観光協会、観光文 化プロデューサーに就任。「松江文学学校」を主宰。「湖都松江」編集統括。

著書に「芥川賞・直木賞をとる! あなたも作家になれる」「編集者魂」「作家魂に触れた」「百冊百話」「近影 |遠影||あの日あの人|、編著書に「松江観光事典」「和の心 日本の美 松江」「松江特集」「松江怪談」「松江発見」「石 見観光事典」「メヒコで百年」、共編著に「古事記と小泉八雲」など。



進み、国文学を学びました。旧制鹿児島高等学校の 先生をしているところを引き抜かれて文部省に入 ります。呼び寄せたのは当時、文部省にいた高木市 之助さんです。私はこの万葉集研究の泰斗に原稿 を頂いています。お会いしたとき、井上さんのこと をうかがっていなかったのは残念でなりません。

井上さんは「サクラ読本」といわれている『小学国語読本』に係わりました。それまでは「ハト、マメ」と、単語を始めに教える教科書でしたが、初めて児童の心理の発達に適った文章を教える教科書を執筆し、編纂したのです。「サイタ サイタ サクラガサイタ」で始まる、この「センテンスメソッド」の教科書は世界でも類のない画期的なものです。昭和8(1933)年4月から16(1941)年3月まで8年間使用され、日本人の情緒、言葉の基礎を作りました。また、あの「花火」、「蛍」など小学唱歌も作詞しています。

井上さんは、軍国主義教育を強いる文部省での教科書作りにそえず退職しましたが、戦後、公職追放にあっています。「サクラ読本」の「サイタ サイタ ……」の次の頁にあるのが、「ススメ ススメ ヘイタイ ススメ」という文章で、これが問題視されたのではないかといわれています。公職追放が解かれると、参議院議員になっています。

この井上さんにしろ、二葉亭にしろ、「松江」が 近代日本の文章、言葉と大きく係わっていること は、もっと認識していいことと私は思います。そう 思って考えを新たにする人は、ものの考え方が豊か になります。司馬遼太郎さんはそういう方でした。 また言い方を変えると新しい意味や価値が生まれ ます。司馬さんだったら、「松江は近代日本の文章 のふるさと」とおっしゃるかも知れません。

言葉の世界で、その先端を行くのは詩人です。日本の現代詩人の中で、最高の評価を受けているのが入沢康夫さんです。詩集『わが出雲 わが鎮魂』は、永く残る名作で、入沢さんは鳥取県の生山の生まれですが、旧制松江中学校から新制の松江高等学校に変わる頃の在校生です。東京大学仏文科に学んでいます。

広く一般大衆に向けた歌謡曲の世界にも、松江高等学校ゆかりの方がおられます。大田市仁摩町生まれの林春生さんです。亡くなって20年になりますが、この方は欧陽菲菲が歌う『雨の御堂筋』、あのテレビアニメの「サザエさん」の主題歌を作っています。林さんは、邇摩高等学校から松江高等学校に転校、そして法政大学に学びます。フジテレビに入り歌謡番組「ミュージックフェア」など担当しています。

文学者、詩人たちは言葉に敏感です。これまで上げた人たちが、いずれも松江で学んでいる方々ですが、いずれも他所から移って、一時期を過ごしているところに、共通点があります。何よりもまず、クラスメートの言葉、出雲弁の不思議な訛り、言い回しが気になったことでしょう。言葉に敏感な者は、こだわりを持ち、一層、「言葉」を意識するようになるのです。それが作品を生み出すもとになっているのだと考えます。

#### 松江が生んだ偉人たち

法政大学が出たところで、この大学ゆかりの松江の人、梅謙次郎についてお話しします。松江の名誉市民としてプラバホール前に顕彰碑があります。15歳まで灘町に住んでいました。5歳から祖父に漢籍の読みを習い始め、祖父が亡くなった7歳からは、「培塾」に入門し、儒学者澤野修輔に教えを受けます。10歳で藩校「修道館」に入ると、藩主松平定安の前で『日本外史』の講義を行っています。13歳で洋学校に入学、フランス語をおさめます。よく出来て、担任の先生の学力が低いと、退学届けを出しているほどです。15歳の時、一家は上京します。

外国語学校、司法省法学校と進み、司法省からフランス法研究のためリヨン大学に留学を命じられました。

通常5年の過程を2年半で終え、学位論文『和解論』がヨーロッパの法律学界で高く評価され、リヨン市はこれを祝い、賞を贈り、650ページの大論文を市が資金を出し出版しています。明治22(1889)年のことです。

その後、ドイツのベルリン大学に学び、帰国。30

## 設立60周年「記念講演会」「松江への思い」

歳で東京帝国大学法科大学教授になり「民法の父」 といわれるほど、民法のことごとくを起草するので す。明治32(1879)年に、「和仏法律学校」の総長に 就任して、校名を「法政大学」と命名したのも、梅謙 次郎です。

戦後のことです。大内兵衛さんが法政大学の総長になりました。会議のあと、お昼になると鰻が出されました。毎回それが続くので、どういうことか、と大内さんが尋ねると、「梅先生以来ずっとこれを守っております」と事務の方の返事です。

梅謙次郎は大層な鰻好きでした。灘町の生まれですから、側の宍道湖、大橋川では鰻がよくとれました。宍道湖中海の鰻は四十曲峠で中国山脈を越えて高梁川を下り、岡山から船で大阪そして京都へ運ばれました。一度、出雲街道を辿ったことがありますが、道の側の水路には、鰻を入れた籠をつけるために特別な生け簀が造られていて、今に残っていました。川下りの時も舳から籠を川に浸しました。出雲街道は「鰻街道」ともいわれていたと聞きます。この大阪でも「出雲屋」を名乗る鰻屋があります。戦後間もない頃、百数十の出雲の鰻を扱う店があったと聞きます。

小泉八雲夫人セツと梅謙次郎は遠縁の関係でした。小泉八雲も梅謙次郎を信頼し、遺言状を託しています。葬儀委員長も梅謙次郎がつとめています。 二人はフランス語で語り合っていたといいます。

明治39 (1906) 年、伊藤博文に請われて、韓国の法律顧問としていろいろな法律を作りました。日本人の土地所有権を確立する法律も作りました。読いて韓国のために民法をつくることになり、生活習慣、民情など、こまやかな調査を始めるのですが、その半ばで、明治43 (1910) 年、腸チフスにかかり、ソウルで亡くなっています。

この梅謙次郎さんの外国語習熟にも、二葉亭同様、 漢文が役立っていると思います。

謙次郎の二つ上のお兄さんが梅錦之丞さん。ドイツ留学ののち、東大医学部で、帰国したドイツ人教授にかわって眼科を担当します。日本人の眼科の教授第一号です。乱視の診断を日本で最初に行

った人です。輸入されたコカインを使って手術するなど、日本の眼科の草分けです。

もう一人、学校教育者ということでいえば山脇房子さんのことも忘れてはなりません。松江藩士の娘に生まれ、松江女子師範学校に学び、上京し、山脇玄と結婚。明治36 (1903) 年、今日の山脇学園のもとになる学校の校長先生になるのです。松江には、教育文化の伝統があります。その大もとは「言葉」とそれにともなう生き方、考え方です。

ここで今ひとり上げておきます。日本人が仏教をどのように受け容れたかを研究した宗教学者、中村元さんです。大正元(1912)年松江市の生まれです。幼くして東京に移り住みましたが、中村家の菩提寺は松江にあります。

中村さんの著作は、選び抜いた選集としても全32巻、別巻も8巻、計40巻にもなります。 大変な著述量です。 東洋人のものの考え方や仏教との関わりについては『東洋人の思惟方法』として、最初の4巻に集約されていると思い、私もそこまでは読みました。 しかし40巻を読んではいませんが、この4巻からも大事なことを教わり、中村さんがどれほど大きな方かを感じました。

中村さんが平成11 (1999) 年に亡くなった後、松 江市の大根島にあった旧八東町役場の施設を改装 して「中村元記念館」が造られました。中村さんの 蔵書の一部3万冊がここに移され、学習施設も設け られました。



記念館の開設にあたり、中村さんの娘さん、三木 純子さんに、お父さんの思い出を私が担当する雑誌 「湖都松江」に寄稿していただきました。その中か らご紹介します。

中村さんの仕事のひとつに難解な仏教用語を分りやすく伝えることがありました。例えば「涅槃」を中村さんは「安らぎ」と言い換えました。「難しい言い方でないと価値が出ない」と批判する学者もいたといいます。しかし、中村さんの考えは変わりません。

戦後間もなく謄写版刷りで仏教用語の辞典を作りました。その後、「本腰を入れて辞典を作ろう」と、200字詰め原稿用紙で約4万枚の原稿を書きました。

原稿は出版社に持ち帰られ、倉庫に収められたのですが、倉庫移転の際、ごみと間違えて捨てられてしまったのです。ちょうど私が文藝春秋に入社した頃でした。他山の石と、原稿の取り扱いを教えられたものです。新聞広告を出して呼びかけても、出てきませんでした。出版社を叱ってしかるべきところでしょうが、その時、中村さんが言った言葉が「怒っても原稿が出てくるわけでもない」でした。

中村さんは最初から書き直します。その出来事があった昭和42 (1967) 年から約8年がかりで全3巻の『仏教語大辞典』を仕上げました。この時の中村さんの言葉は、「原稿紛失のおかげで、調べ直したり整理もできた。項目も増やすことができて、より良いものになった」。

娘さんは中村さんが感じていた喜びも教えて下さいました。それはお孫さんがはしゃぎ回る中で昼寝することだったそうです。命が次々につながっていく人としての喜びを感じていたのだと、私は思います。

### 「出雲人」を観察

話を文章の話で、松江に係ることに戻します。文章はその人の考え、ものの見方を示します。 どのような生き方をしているかも表します。 その人の教養のほどもわかってきます。 文章を見ると、どういう時代のどういう教育を受け、また何を学んだかを知ることとなります。



明治23 (1890) 年8月30日、ラフカディオ・ハーンは松江に来て、島根県尋常中学校に勤めます。次に紹介する文章は、2年目の新学期が始まった日のハーン先生の生徒たちを描いたもので、『日本警見記』の「英語教師の日記から」からの引用です。

「かれらはどんなばあいでも、迷惑になったり、礼を失したり、おせっかいに出しゃばったり、おしゃべりになりすぎたり、そうした度を過ぎるようなことはけっしてしない。まず、この上もなく行き届いた折り目の正しさを――フランス人さえ考えられないほどの――これは、かれらの生来の髪の毛の色、肌の色と同じように、出雲の少年に固有のものらしい。

西洋人の顔にくらべると、いわば半分描きかけの、未完成のスケッチとかみえないような、線のきわめて柔らかな――喧嘩っ早いとも、はにかみやとも、あるいは突飛な性質、情の厚さ、好奇心、無頓着、そんなものは何一つ表していない。おっとりとした顔である。あるものは、いっぱし一人前の若僧になっているくせに、なんとも言えない子供らしい初々しさと、率直さを持っている。人目に立つ顔もあれば、おもしろくもおかしくもない顔もある。なかには女みたいに美しい顔もある。しかし、総じてどれもみな、おっとりしているのが特徴で、ちょうど仏像の夢見るような穏やかさのように、円満なおちつきと柔和な静けさのなかには、愛憎の影すらない。」

それから10年たった明治32(1899)年、簸川中学校(今の大社高等学校)の先生になって、大町桂月が出雲に来ました。この人は明治から大正にかけて「美文家」として、もてはやされた文士です。教室の

## 設立60周年「記念講演会」「松江への思い」

生徒を観察した文章を、出雲を去った後の、明治34 (1901)年に出版された『一養一笠』という随想集の中に「出雲雑感」という題でのせています。読んでみましょう。

「島根県下の小学教育は、他に比して優等の部に あり。中学今日教育も亦他に譲らず。唯、柔弱にし て陰険なりとの一語は、今の処出雲人の免るゝ能 はざる所なるべし。江戸児的気象はこれを出雲に 見るべからず。寧ろ上方贅六に近しというべき乎。 廉恥を重んずる風なく、然諾を重んぜず。其風俗は 淫靡なり。十五、六の少年も猶団子買をなす。人 情は軽佻なり。情死するまでに情熱ある者を見ず。 殺人罪を犯す迄に奸悪ならざる代わりに、即ち悪に 強からざる代りに、善にも強からず、義に勇む侠骨 なし。人の前には猫の如くおとなしけれども、心底 には誠意なく、唯ふはふはとして固く守る所あらず。 小才子の気風には富めども男らしからず。私利を 図るにさとくして、公共の心に乏し。概して言へば、 小利口なれど誠意と熱情となし。このままにては、 大人物は出でざるべし。」

「上方贅六」とは、大阪のどうしようもない奴ら。 江戸の者が大阪、上方の者を蔑んでいう時のいい方です。「然諾を重んぜず」は、「イヤです、出来ません」をいわない、ということでしょうか。「団子買をなす」は、女郎買いをする、ということです。「小才子の気風には富めども男らしからず」……説明していると、気持ちが滅入りますのでこのくらいにしましょう。漢字を見て、意味するところを受けとめてください。優柔不断であり、なすべきことも躊躇してなかなか実行に移さない、と言っているのです。

この文章、実は藤岡大拙さんの『出雲人』(ハーベスト出版刊)でも引用しています。『出雲人』は出色の「出雲人論」です。これに勝るものは今までなかった、またこれから先も書かれないほどのものです。出雲、松江に来て、「あげだ、こげだ」と言ってつかみどころがない、何とも不思議な人たちに囲まれて戸惑っている方に、私がお薦めしている本です。また出雲、松江を出て、他郷で働く人は、「はっきり言え、ぐずぐずしないでさっさと行動しろ」と叱られ



ることでしょう。そういう人のために薦める本で す。なぜそういう態度を取るようになったか、その 理由が書かれているのです。

本の中で藤岡さんは次のように書いています。

「承服できない部分もないではないが、ある意味で、これほど適格にかつ鋭く批判してくれることを、 われわれは感謝しなければならない。」

こんなことを言われても決して怒らない。これがいかにも出雲人的です。心の中はどう思っていても決して表に出さないのです。

実は私は松江に来て、「松江文学学校」を作りました。これは、作家の方をお招きして、松江を見ていただき、文章に書いていただく、また小説を書いて舞台にしていただく、そのためでもあります。お招きする費用を捻出するために講座を開いて、その受講料を作家の旅費と謝礼にあてたのです。200名からの受講生でした。幾つもの紀行文、随筆が書かれ、中村彰彦さんによって物語『戦国はるかなれど 堀尾吉晴の生涯』が書かれました。文学学校の受講生は、東京、神奈川、大阪、岡山、四国、広島、山口、鹿児島から通っています。多くが泊りがけになります。文化的催しを企画し、松江に客を誘う。これも私の文化観光のひとつです。

学校の講座で、短編小説を書いてみませんか、それを教材に、小説家の先生に講評していただきましょう、と呼びかけました。この時、小説を書かれる方は、松江の人は誰れ一人ありません。すべて、他

の所から来られている方です。松江の人は創造する人にはならない。ある人は「そんなことを書いたら、周囲から用心されて、付合ってもらえなくなる」とおっしゃっていました。はた目を気にし、気配り 怠りなく、控え目に暮すのがいいと教えられて育ったのでしょうね。

毎年、修了文集を作っています。14年も続けていましたら、少し変わってきました。かつて引きこもっていた人たちが、本当にのびのびと自分の思いを述べるようになりました。今、松江は外も内も変ろうとしています。どうか、見ていてください。

藤岡さんの『出雲人』には大事な指摘もあります。 「慎重、控えめ、中庸、自己卑下、寡黙などは人間 の美徳である。しかし、それも時と場合による。美 徳は時として人を疎外することがある。」

先ほど紹介したラフカディオ・ハーンと大町桂月にいまいちど戻ります。ハーンは1850年生まれ、大町桂月1869年。19年後に生まれた大町桂月の古風さをどう受けとめるか。翻訳の文章ということを考慮してもおおえない意識の違いは歴然です。「美文家」と言われた人の文章はこのように形にはまって自由を失うものなのです。

ハーンは、科学の思考が基にあるヨーロッパの自然主義の洗礼を受け、あるがままを見て、書くことも、考えることもできたのです。大町桂月のように、「美意識」にとらわれると見えていても表わせないのです。ということは、見なかったことになってしまい、ついには、見えないようになってしまうのです。いい文章を書こう、と思うことは大事です。でも、うまく書こう、きれいに飾ったような文章を書こうなどとは思わないで、見たまま、感じたままを、自分の言葉で書けばいいと思います。

### 花森安治と松江

花森安治さんは、明治44 (1911) 年、神戸の生まれです。神戸の中学に学びました。ハイカラな神戸、すすむ西洋化に何かしっくりいかない気持ちもあったかと思うのです。旧制松江高等学校に進学、この町に来て何か感じるものがありました。松江

の人たちのものの考え方、生き方に共鳴したのです。 松江の人の暮し方、たとえば物を大切にする心掛け。 高価でも、いい物を求め、それを大切に使うことは、 安価な粗悪な品を繰り返し買いもとめるより、無駄 のない、合理的な消費生活であることに気付いたの でしょう。

この考えは後の「暮しの手帖」の編集の中でも生かされていきます。花森安治さんの、それは生活信条だったと思います。生活の伴侶として松江の女性と結婚しています。

手作りの味を生かした誌面構成で、広告を入れない非商業主義的姿勢を貫き、独自の商品テストによってメーカーを啓蒙していきました。 花森さんの雑誌編集には世相批評、引いては文明への批評の姿勢が貫かれています。

おしきせを排し、生活に便利な機能的なものこそ 大事に考えて、流行を超越、生活の合理化を図って 実質主義をとり、日常の衣・食・住を拠点とする「暮 しの思想」、それを花森さんは編集を通して広めた のです。このように言葉にしてみますと、私自身が 日頃感じる「松江」また「松江的なもの」を編集を 通して広めていたような気持ちがいたします。

花森さんは東京帝国大学の美学科を卒業、化粧品会社、パピリオ宣伝部につとめました。戦争中は翼賛会に関係し、「足らぬ足らぬは工夫が足らぬ」などの標語は花森さんの創案したものといわれています。

昭和53 (1978) 年、67歳で亡くなっていますが、いま若い人たちの間で、再評価されています。 若い人が、花森さんのものの見方、考え方を求めているのです。

商業雑誌は「広告料」収入で作製費をまかないます。広告を入れない「暮しの手帖」は実売主義という経営法です。売って得た金を資金に、次の号を編集するのです。

編集者の花森さんの、ものの見方、考え方についてと同じく、レイアウトなど誌面作りの方法なども 松江で始まったといっていいでしょう。

花森さんが松江高等学校在学中に手がけた校友

## 設立60周年「記念講演会」「松江への思い」

会雑誌を島根大学図書館で手にすることがありました。この編集の斬新なこと、今日見ても決して古びた感じがしません。花森さんが担当すると決まった時、これまでにないのを作ってみせる、と思ったことでしょう。その思いを形にするには印刷所に受けとめる技術と力量がないといけません。花森さんが訪ねたのは灘町の昭和印刷でした。

昭和の初め頃の印刷所の、主人、職工さんは、明治の初めか中頃の生まれでしょう。この人たちに、これまで誰も作ったことのない、雑誌編集の抱負を語り、それを形にしてください、と頼むのです。そして、それを作ってみせたことに、私は松江の職人の腕の確かさを感じるのです。

活字は、明朝体でしっかりと印刷され、巧みに罫を使っています。あの太い罫と細い罫を平行させる、いわゆる子持ち罫、これらは後の「暮しの手帖」の特徴のある誌面づくりとなりますが、松江高等学校の校友会誌に、既にその実例があるのです。

そうした思いもあってでしょう。花森さんは暮しの手帖社の社員たちに、「松江はいいところだ」と繰返して言い「みんなを連れて行ってやりたい」と口にしていたと言います。昭和39(1964)年、花森さんはそれを実行します。そして、その年の夏号にあたる第75号の「日本紀行」のシリーズで松江取材をするのです。

6、7名の取材陣でした。折もおり、東京はオリンピックの開幕直前の喧騒の巷です。それに背を向け、その対極にある静かな町を特集するのです。これはおおよそジャーナリズムの方法ではありません。「流行の先端」を紹介するのが普通のジャーナリズムです。しかし、その逆です。ここに花森さんのジャーナリストの姿勢がうかがえます。今の世の中に必要なものは何かを伝えるのです。だから、読者には新鮮にうつるのです。

この特集に、花森さんは文章を書きます。その中 の文言を抜いて紹介します。

「日本人の暮し方の、ひとつの原型がここに生き ているのである」 「この町ではお茶はけいこ事でもなければ見せかけの教養でもない」

「古来お茶のさかんな町では、和菓子がいい」

「この城は、町のひとの心の、いちばん奥に、ぴったりと生きつづけ、そしていまも生きつづけている」「空気の明るさと、あまさと、この上なく美しい町並みである」

そして最後に花森さんは記します。

「日本人みんなの心のなぐさめと安らぎを与えてくれるなにかが、ここにつながっている。これを生かすも、ぶちこわすのも町のひとの、心ひとつである」

この「暮しの手帖」の松江特集は、話題となり、強く心に残りました。以来、編集者、新聞記者は、それに挑戦するように、その時々のテーマを抱えて、松江特集を試みます。

先ほど申したように、日本人の生き方、暮し方の 原型がある町、日本人の生き方、暮し方が問われる とき、その姿や形を確かめるように松江が意識され るのです。多くの取材を受けるのは、そのためなの です。本当の日本がここにあるからです。松江は 日本人が日本人である限り、心の拠り所、考え方、見 方の基準であり続けると、私は信じています。

#### (編集注)

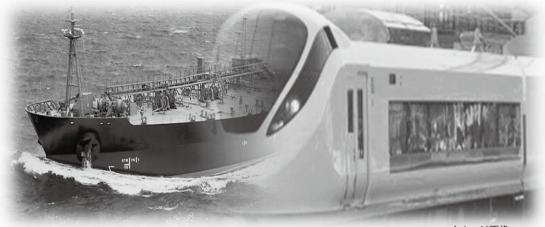
①井上 赳:明治22 (1889) 年生まれ、旧制松江中学校29期(明治42年卒)

②入沢康夫:昭和6(1931)年生まれ、松江高等学校2期入学、1年次に転校

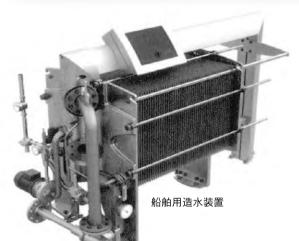
③林 春生:昭和12(1937)年生まれ、本名・良三、松 江高等学校卒7期

④藤岡大拙:昭和7 (1932) 年斐川町生まれ、出雲高等学校から京都大学へ。島根県高校教師などを経て島根女子短期大学学長。NPO法人出雲学研究所理事長、松江歴史館館長など。

# 《鉄道車両、船舶、産業機器、ソリューション》



イメージ画像







## 株式会社 ・トーヨーコーポレーション TOYO & ENGINEERING CORP・

取締役社長 山本 雅昭

本 社/〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-21-35 Tel.06-6443-2061 Fax.06-6443-9736

東京支店・豊中工場

## 2018 (平成30)年度「運営費支援、設立60周年記念事業寄付・広告」ご協力者ご芳名

近畿双松会は有志の皆様の支援により運営しています。ここにお名前を記して御礼に代えさせていただきます。 (敬称略)

H 00 HI	nm 1/3 1/4	本の畑			3 E W L
・中 63 期	肥塚隆正	・高8期	黒田 牧夫		桑原洋史
rt. co ##	坪 倉 修 吉		長谷川忠雄		永江幹雄
・中 68 期	青戸元也	古の押	山崎杲		持 田 勲
<u> </u>	荒銀昌治	・高9期	熱田光信		四方田司
・高1期	飯塚満男		岩成哲男		深澤千栄子
	伊藤雅義		坂本隆男		水野明代
	喜多川治美		神 仁 人		八板洋子
	竹内一郎		澄川光成	古 1 4 切	山下俱子
	林原信光		宗智海	・高 14 期	片山 伸雄
立の押	和田亮介		田中英明		加藤巡一
・高2期	久保田幸雄		山岡茶業		川上克彦
	作野宏		片岡芙美子		木村修芳
	鳥谷芳男		木村八重子		小泉勝是
	成合茂博		佐々木悦子		木幡晃正
	堀江眞三人		佐藤早智子		富永寿郎
	兼清久子神田田鶴子	. 古 10 期	清水良子		古川幸孝
・高3期		・高 10 期	面 白 紘 佐 藤 菁 治		宮原 琢郎
• 同3例			佐藤 菁治 佐和田丸		三 好 洋 二 森 山 國 久
	佐 藤 藤 芳 永 井 彰				新名貴久子
	小川伸江		清水、義男清水小枝子		五 島 幸 子
・高4期	泉寛治	・高 11 期	押田良樹	・高 15 期	安達和彦
[0]479]	藤原小夜子	[F] II <del>/9</del> ]	神門英明	[E] 10 <del>29</del> ]	金坂喜好
• 高5期	板垣衛武		小久江良雄		佐藤 修介
[E] O <del>/ 9</del> ]	客野 伸		田中一男	・高 16 期	井上伸久
	寺本 尚由		野津丞	[E] 10 <del>/9</del> ]	梅木隆志
	築 武 夫		畑 田 稔		神田俊之
・高6期	荻 野 克 彦		村尾俊治		清原正義
l¤10341	田村稔久		米澤伸夫		佐々木康雄
	永江秀一		今井洋子		土田和男
	原卓司		鈴 木 洋 子		坪 倉 司 郎
	森岡敏眞		田村廸子		長野 米一
	荒木タミ子		中尾長子		松本耕司
	石 原 綏 子	・高 12 期	萩 野 貫 悟		三成宏二
・高7期	青戸俊夫	1-3 1- //3	森 倫 也		森藤 哲章
1-4 - 794	高井和彦		山本輝夫		田中由美子
	寺 本 好 弘		石川洋美		中安節子
	廣政俶彦		山本朝栄		西村幸子
	山本雅昭	・高 13 期	安部正毅	・高 17 期	岡 久 夫
	泉桂子		今 井 勝 治		後藤研三
	玉井洋子		岡崎公典		永井貞泰
	· · · · ·				

	夏川一輝		大 濱 緑		松浦恵子
	岩本真左子		木 山 洋 子		松田稚子
	木島光子		鶴羽孝子	・高 29 期	石橋敏幸
	島本妃早美		西村紀子	[H] 20 /y]	太田春樹
	西野やよい		松下和子		達山暢
	山口悦子	• 高 23 期	朝比奈博則		福本秀一
・高 18 期	石賀誠一郎	14, 20 791	近藤文雄		山本修司
1.4 == >>4	太田善博		松本潤		須藤 聖子
	小 田 一 美		森 脇 泰 雄		田中年恵
	桑原勇		和田邦孝		野津さとみ
	齋 藤 正 治		今 西 桂 子		廣瀬弘美
	稲 生 喜 子		小松久美子	・高 30 期	杉 原 伸 治
・高 19 期	岩 田 一 志		橘 千 里		吉 城 多 恵
	江 角 健 一		西 村 充 子		田邊より子
	佐 々 木 勇		松本幸子		千 葉 潮
	新 見 泰 朗		山口紀子	・高 31 期	小 林 満
	槇 原 隆		吉 岡 恵 子		宍 道 弘 志
	元 栄 徹		葭 田 久 美 子	・高 32 期	浅 沼 吉 正
	池田喜美代	・高 24 期	泉神一郎		田 黒 公司
	大久保章子		伊藤澄夫	・高 33 期	柳井利明
• 高 20 期	小数賀健二		岩 間 令 道	・高 35 期	冨 岡 幸 子
	金見幸夫		吉 城 聖 顕	・高 36 期	今 宮 一 正
	浜 見 良 樹		吉 岡 秀 文		森口次郎
	原 田 康二		小川ひとみ	・高 38 期	長谷川浩之
	渡 辺 悟		河 村 敦 子	・高 43 期	安達 宏昭
	佐 野 和 子		瀬戸口二三子		今 西 亜 子
	平田まり		水野順子		
	三 好 資 子	・高 25 期	飯石浩康	PI L 991 夕 (日	左年 ₩ ⊥ 19 夕 \
	物 種 慶 子		播本信子	(平成31年2)	作年比 + 13名) 月 9 日現在)
	山嵜麻里子	• 高 26 期	伊藤博之		事務局までご確認ください
•高21期	花田幸久		川谷徳彦		
	竹添 則子		周藤達夫		
・高 22 期	石 川 章		福間則博		
	内 村 昭		松村聡		
	倉橋 勉		井山裕子		
	実 重 祐 二		前羽春江		
	内藤清志	. 古 97 切	矢野美紀子		
	内 藤 善 夫 村 田 貢	・高 27 期	三 浦 清 木 田 京 子		
	村 田 貢 吉 岡 和 彦		不 田 京 于 新 宮 富 美 子		
	大浦 綾子		照林久留実		
	八冊被丁		邓小为亩天		

# 追悼

心よりご冥福をお祈り申し上げます。 (平成29年11月総会以降、事務局にご連絡のあったすべてを掲載しました)

## 物故会員

期	氏 名	ご逝去年月日
高 5 期	青木謙整様 (綾部市)	平成30年7月8日
高 5 期	髙東敏(子)様 (神戸市)	平成 30 年 11月 1 日
高 6 期	杉 本 昌 巳 様 (大和郡山市)	平成30年6月25日
高13期	岡崎公典様(奈良県磯城郡)	平成30年6月28日
高13期	四方田 司様 (明石市)	平成30年7月24日
高17期	原田博子様 (摂津市)	平成 30 年 1 月 24 日
高 18期	湯 原 温様 (豊中市)	平成 29 年

## 2018 (平成30)年度 諸行事報告 (骨子)

詳細とカラフルな写真はぜひホームページでご覧く ださい。

皆さんのご参加をお待ちしています。年度初めのご 案内に同封のハガキで申し込むか、HPでのつどのお知 らせでご確認ください。

## ■第11回 落語鑑賞会

日時/平成30年3月18日(土)13時~16時 会場/「天満天神繁昌亭」

今回は8年ぶりに天満天神繁昌亭での開催となりました。定席での演目は、上方落語以外に江戸落語、似顔絵、漫才などバラエティに富み、笑い続けの3時間となりました。笑ってお腹もすいたところで、半数以上のメンバーが天神橋筋商店街の屋台居酒屋で楽しいひと時を過ごしました。



## ●参加者は下記の24名(敬称略)

神田田鶴子・兼清久子&ご家族(2)田村稔久・石原 綏子&ご友人(6)木村八重子・清水良子(9)押田良 樹・田村廸子(11)萩野貫悟(12)加藤巡一&奥様・ 小泉勝是(14)梅木隆志&奥様・佐々木康雄・松本 耕司・森藤哲章(16)岡久夫(17)三好資子&ご主人・ 山嵜麻里子・佐野和子・渡辺悟(20)大浜緑・大浦 綾子・木山洋子(22)

## ■第3回北高野球部大阪遠征試合の応援

日時/平成30年3月28日(水)29日(木) 会場/【28日】八尾高校グランド【30日】北野高校グランド

例年、北高野球部は甲子園で選抜高校野球見学後、 大阪で練習試合をしていますが、今年も新2・3年 生24名が井口環部長(31)、来田良博監督、岩崎有 司コーチに引率され来阪しました。

今回の対戦相手の八尾高校、北野高校はともにかつては甲子園で名を響かせた名門校ですが、八尾高校とは1-10、7-6、北野高校とは6-5、9-6と、計3勝1敗の成績を残し、大阪を後にしました。

今や春とともに訪れる松江からの来客に、応援の ご参加が増えることを願っています。



#### ●参加者は下記の5名(敬称略)

押田良樹・田中一男 (11) 梅木隆志・松本耕司 (16) 夏川一輝 (17)

## ■第41回 ゴルフコンペ (春季)

日時/平成30年5月30日(水) 会場/武庫ノ台ゴルフコース

## 三好文章さん(ゲスト)が初V!

春秋2回のコンペのうち、春は近畿松江会の会員など、ゲストの方にも広く参加いただいています。当日は生憎の雨模様となりましたが、参加17名により



## 2018 (平成30)年度 諸行事報告 (骨子)

ダブルペリアでの熱戦が展開されました。優勝は 三好文章さん(20期三好資子さんのご夫君)でグロ ス 97、ハンディ 24.0、ネット 73.0。 2 位は練達の実 力者の客野伸さん(5)、3位は木村八重子さん(9)で した。

## ●参加者は下記の17名。(敬称略)

(会員) 寺本尚由・客野伸(5) 木村八重子・佐々木悦 子(9)押田良樹(11)井上伸久・梅木隆志・松本耕 司 (16) 三好資子・佐野和子 (20) 田黒公司 (32) (ゲスト)井上隆吉・伊藤征治・神谷紀男・木村恵吉・ 三好文章・安島幸雄



## ■第13回 文楽鑑賞会

日時/平成30年7月22日(日)午後2時~6時 会場/国立文楽劇場

演日/

- ◆卅三間堂棟由来 平太郎住家より木遣り音頭の段
- ◆大塔宮曦鎧 六波羅館の段、身替り音頭の段

た。姿を消したお



田四郎が忍び込み、老母 って行った後に、悪党の和平太郎とみどり丸が追

を責め殺します。そこへ

睦まじく暮らしていました。平太 すことが知らされますが はその柳の木の化身でし

た法皇の使者から、三十三間堂建立のため、柳の マ柳と夫婦になり、老母と息子のみどり丸とリネルルは皇の命を救った横曾根平太郎は、茶店の 、実はお柳

部 作 劇 場

前者の「卅三間堂棟由来」は、白河法王の命によ り卅三間堂の棟として伐りだされることになった 柳の木の化身が、実は妻「お柳」であることからの 筋立て。後者の「大塔宮曦鎧」は、大塔宮の北条討 伐を主材とし、六波羅方の斎藤太郎左衛門一族の 悲劇を取合せたものです。若宮の代わりに自分の 孫の首を打って六波羅に差しだすという辛い結末 で、「侍ならねば忠もいらず義もいらず二心と人も 笑ふまじ…」の言葉が耳に残ります。

13同目を迎えた文楽鑑賞会、今同は12回の学習 の成果を問われているかのような、なかなか難解な 筋立てでしたが、それでも太夫の語りや熟練の人形 使いを見ているだけでも楽しいのが文楽であるこ とを、あらためて感じた鑑賞会でした。日本民族は 実に奥深い歴史と重層的な心理の上に成り立って いることも。

更に、詳しくお知りになりたい方は押田良樹さん (11) がHP(2018.8.1)上で考察を重ねておられま すので、ぜひご覧ください。



#### ●参加者は下記の25名(敬称略)

田村稔久・石原綏子(6)木村八重子・佐藤早智子・ 清水良子ご夫妻(9)押田良樹・田村廸子(11)加藤 巡一ご夫妻・小泉勝是(14)十田和男・松本耕司(16) 三好資子ご夫妻・山嵜麻里子(20)大浦綾子・鶴羽 孝子(22)小松久美子・西村充子・葭田久美子(23) 吉城多恵(30) <ゲスト>橋本充男ご夫妻・松岡茂

郎を討ち果たし、 戻ってきた平太郎

## ■ (中止)第13回歴史ウォーキング

日時/平成30年9月30日(日) 場所/伏見、東福寺

三好資子副会長(20)が担当し、NHK大河ドラマ『西郷どん』に因み、幕末・維新の舞台となった伏見と、薩摩藩と深いかかわりのある東福寺・即宗院を散策する素敵なコースを計画していましたが、台風接近のため、残念ながら中止をしました。ぜひリベンジしたいものです。

## ■第8回「里山歩くぞ!」ハイキング

日時/平成30年10月28日(日) コース/奈良近郊古墳・平城宮祉・秋篠寺 当日の行程(概略)/

近鉄新大宮駅〜ウワナベ古墳〜コナベ古墳〜仁徳天皇皇 后古墳〜平城宮跡(昼食)〜佐紀神社・釣殿神社〜垂仁天 皇皇后陵・成務天皇陵〜近鉄平城駅解散(以上6キロ強) (以下、オプション・希望者のみ)〜「秋篠寺」〜近鉄西大 寺駅解散(以上、通算9キロ)〜「駅前で打ち上げ」 報告者/押田良樹(11)

当初予定をしていた女人高野「室生寺」も、第二候補の「壷坂寺・高取城」も、大阪北部地震のため、途中で下見が中止になったり、下見をしてみたら、我々にはいさかかきつすぎるコースであったりと、今回は事前の段階で紆余曲折がありました。企画担当の田中由美子さん(16)と、この間ご協力いただいた小泉勝是さん(14)、松本耕司さん、森藤哲章さんご夫妻(16)、山嵜麻里子さん(20)、大浦綾子さん、木山洋子さん(22)には厚く御礼申し上げます。

こうして白紙から再検討し、最終的には奈良のハイキングに通じた田中さんのご推薦による「奈良市近郊」の、のどかな古墳群を縫って歩くコースに決定しましたが、当日はこの上ない秋晴れに恵まれ、いにしえを偲ぶコースを気持ちよく歩くことができました。足に自信のある方のためにオプション設定した秋篠寺(伎芸天と紅葉で有名)も大変好評でした。

当日は恒例の田中英明さん(9)による道中の樹木や草花の授業、また、元技術者でありながら古代史

と古墳に詳しい三成宏二さん(16)の蘊蓄に、皆、耳 を傾けました。有難うございました。

### ●参加者は下記の24名(敬称略)

田中英明(9)押田良樹・後藤武久・田中一男・村尾俊治(11)小泉勝是・古川幸孝・三島幸子(14)梅木隆志・土田和男・松本耕司夫妻・三成宏二・森藤哲章夫妻・田中由美子(16)佐野和子・三好資子(20)大浦綾子・木山洋子(22)橘千里・山口紀子(23)瀬戸口二三子(24)今西亜子(43)



## ■第42回ゴルフコンペ(秋季)

日時/平成30年11月7日(水) 場所/枚方国際ゴルフ倶楽部

## 井上隆吉さん(ゲスト)が初V!

総会前の決起ゴルフ大会としては少し寂しい7人の参加でしたが、いつものダブルペリア方式ではなく、過去5回の成績をもとにして算定したハンディ



キャップを、衆目一致の実力者の田黒公司さん(32)のハンディを「0」とセットして、全員に割り振りました。スタート前には本人異議(希望?)も受け付けて全員で協議決定し、加えて個人戦以外に、3組に分けての団体戦もおこないました。

この独自の「近畿双松会方式」は、参加者には大 好評で楽しさも倍増、当日は半袖でいいような秋晴 れにも恵まれ、活気と緊張感のあるラウンドができ ました。工夫はしてみるものです。

## 2018 (平成30)年度 諸行事報告 (骨子)

優勝はゲストの井上隆吉さん(近畿松江会副会長、当会井上伸久さん(16)の兄上)で、グロス111、ハンディキャップ33、ネット78の成績でした。2位は松本耕司さん(16)、3位は田黒公司さん(32)、団体戦は井上兄弟組が賞金を手にしました。



### ●参加者は下記の7名(敬称略)

押田良樹 (11) 井上伸久・梅木隆志・松本耕司 (16) 田黒公司 (32) 伊藤征治・井上降吉 (ゲスト)

## ■2019(平成31)年度 有志新年懇親会

日時/平成31年1月6日(日) 会場/曽根崎「がんこ」本店

事務局会議にご参加いただいている役員や、昨年度の行事や総会のお手伝いをいただいた方で、ご都合のつく方々にお集りいただき、テーマを決めず「お気楽会」と称して、ひたすら総会の労をねぎらい、平成最後の新年を祝い合いました。



### ●参加者は下記の20名(敬称略)

押田良樹・田中一男・村尾俊治(11)小泉勝是・古川幸孝(14)梅木隆志・土田和男・松本耕司(16)小田一美(18)池田喜美代(19)小数賀健二・三好資子・物種慶子・山嵜麻里子(20)村田貢(22)松本潤・松本幸子・山口紀子(23)宍道弘志(31)冨岡幸子(35)

## ■第2回「宝塚歌劇鑑賞会」

日時/平成31年1月20日(日) 場所/宝塚大劇場報告者:大浦綾子(22)

星組公演/◆『霧深きエルベのほとり』 《主演》紅ゆずる、綺咲愛里 作/菊田一夫 潤色・演出 /上田久美子

◆『ESTRELLAS』エストレージャス〜星たち〜 作・演出/中村暁

昨年のテストトライ大好評につき、是非続けてとの声に応え第2回鑑賞会を開催したところ、30名を超える参加者がありまし



た。中でも大先輩の神田田鶴子さん(2)にはお元気 に枚方から遠路ご参加をいただき、本当に嬉しく思 いました。

第一部の『霧深きエルベのほとり』は、劇作家菊田一夫が宝塚のために書き下ろし、1963年初演、今回36年ぶり5度目の再演で、緻密な心理描写を得意とする演出家上田久美子がいかに潤色するかが話題となっていた名作でした。

ハンブルクを流れるエルベ河のほとりに咲いた 船乗りと貴族令嬢の身分違いの恋、そして破局(?) という古典的なテーマでしたが、主人公カールの粗 野な言動とは裏腹の哀しい心の揺れに、いつのまに か引き込まれていました。

様々な愛憎劇と葛藤を堪能した後、主人公は身を 引いて再び船の上へ、そしてそれを追いかける令嬢、 というところで終わりましたので、これから二人は どうなるのだろうと考え込んでしまいましたが、こ の唐突な終わりも、作家と演出家の腕なのかもしれ



ません。ここは「謎」のままでいいのではないかと 思いました。

第二部のスーパー・レビュー『ESTRELLAS エストレージャス〜星たち〜』は、聞きなじんだ名 曲が次々と流れる中、美しい踊りと歌の華やかな舞 台、そして見事な演出にくぎ付けになりました。

座席も去年からの連続団体鑑賞が効いたのか、去年よりさらに前列が用意されており、スターたちが踊りながら身近にくる「客席降り」が3回もあって大満足しました。

劇場前の宝塚・松江姉妹都市50周年記念植樹の、まだ小さな「桜の木」に挨拶をして、遅い昼食会場の「がんこ宝塚苑」に移動しました。

昼食会は、押田常任顧問(11)の「宝塚初体験」の 感動のスピーチをいただいて、なごやかに終了しま したが、3回目も4回目も続けて欲しいとの多くの お声をお聞きしました。まだまだ続きそうです。

### ●参加者は下記の33名(敬称略)

神田田鶴子(2) 木村八重子・佐々木悦子・佐藤早智子・清水良子&ご友人(9) 押田良樹・今井洋子&ご友人(11) 安部正毅ご夫妻(13) 坪倉司郎ご夫妻・松本耕司・森藤哲章ご夫妻(16) 小田一美ご夫妻(18) 三好資



子 (20) 名古屋から花田幸久 (21) 文子 (23) ご夫妻、大浦綾子・大浜緑・木山洋子・鶴羽孝子 (22) 小松久美子・西村充子・山口紀子 (23) 瀬戸口二三子 (24) 小林宏ご夫妻 (25) 吉城多恵 (30) 千葉潮 (30 理9)

## ■2019 (平成31)年度 役員会

日時/平成31年2月2日(土) 会場/中央電気倶楽部

会則第8条に則り、平成最後の役員会を開催し、 2018年度の事業、収支状況の報告、2019年度の事業方針についての意見交換をおこないました。

設立60周年記念総会が125名の参加を得て盛大 に終了したことを喜びあいながらも、50周年・55 周年に比べれば大きく減少している事実、すなわち 中堅・若手年代の絶対的人員減の状況に、今後どう 対応していくかが大きな課題であることを確認し ました。

役員一同、心も新たに新元号の新しい時代に対応 することを誓い合い、それぞれ新年の抱負を語り 合って懇親を深めました。

#### ●参加役員は下記の23名(敬称略)

【常任顧問】山本雅昭(7)押田良樹(11)【会長】松本耕司(16)【副会長】梅木隆志(16)三好資子(20)【監事】物種慶子(20)鶴羽孝子(22)【常任幹事】金坂喜好(15)土田和男(16)岡久夫(17)小田一美(18)岩田一志(19)大浦綾子(22)松本潤(23)宍道弘志(31)冨岡幸子(35)【幹事】堀江眞三人(2)面白紘(10)池田喜美代(19)松本幸子・山口紀子(23)徳田完二(24)周藤達夫(26)



## ■ 16期 (S40 卒) 近畿同期会

日時/平成30年6月2日(土) 会場/がんこ曽根崎本店 報告者/梅木降志(幹事)



一年ぶりの開催は43名に案内をし、昨年より1 人少ない9名の出席となった。

例年の出席者の中から二人が松江での法事で欠席となったが、約20年ぶりの出席者があるなど楽しい会となった。それぞれ近況を紹介したが、古希を過ぎて話の大半が病気の話題になったのは、やむをえないところか。

ところが、お開き間近で記念写真をという時、曽 根崎界隈でガス漏れが発生し、警察の出動があって 全員屋外に出ろとのこと、会計もせずに退散する珍 事に遭遇した。

後日、約束どおり支払いに出向いたら、ご迷惑を おかけしたので「お代は不要」とのこと。99%飲食 は終わっていたので一瞬とまどったが、経営者の適 切な判断と受け止め、有難く従わせていただいた。

お蔭で、記念写真も近くの二次会場で酩酊も更に すすんで別れ際に漸くピンボケを一枚。緊張から 弛緩へ、皆、目がトロンとしているのも、むべなる かなである。まさに記憶に残りそうな今年の会合 となった。

### ●参加者は下記の9名(敬称略)

(前列左より)森 光雄・梅木隆志・神田俊之(後列左より)松本耕司・三吉 孜・土田和男・森藤哲章・坪倉司郎(井上伸久氏は二次会所用早退)

## ■ 17期 (S41 卒) 関西同窓会

日時/平成30年5月26日(土) 場所/しゃぶバー柏木 報告者/岡 久夫



関西同期会は、近畿地区以外からも参集を頂き 22名で開催しました。

例年のとおり柏木さんのお店で、松井さん・永井 さん・島本さんのご協力を頂き、出席皆さんの近況 報告等で大いに盛り上がり、旧交をあたためること ができました。

谷さんからは、今年ホーランエンヤに合わせて5月26日(日)に松江で「17期全体の同窓会」が開催されるとの報告があり、次は松江での再会を約しました。

また、少し先のことですが、次回の「17期関西同期 会」は、来年1920年5月頃(東京オリンピック前に) の開催を予定していますのでお知らせいたします。

なお、12月に開催された「近畿双松会60周年記念総会」時の17期ミニ同期会は、残念ながら3名の参加にとどまりましたが、近畿双松会はいろいろな行事を関西地区で開催されていますので、積極的にご参加頂けましたら幸いです。

皆様と元気でまた再会できますよう、微力ながら 幹事役を務めさせて頂きますので、今後とも宜しく お願い申し上げます。

## ●参加者は下記の22名(敬称略)

秋鹿 隆・安部 守・浅津民夫・岩本満佐子(万波)・岡 久夫・柏木 薫・後藤研三・小脇光男・島本妃早美(米田)・下田一利・田中幸子(高橋)・谷 正次・永井貞泰・長州 大・夏川一輝・額 吉和・松井芙美子(福田)・松本 章・山口悦子(田代)・山根弘嗣・山根律郎・吉儀美由紀(余村)

## ■ 18期 (S42 卒) 近畿地区同期会

日時/平成30年7月9日(日) 会場/中華料理「愛蓮」(塚口店) 報告者/小田一美



皆さん今日は。昨年も18期近畿地区同期会を開催しました。早いもので5回目となりました。

平成26年に6人のナイスシニアガイが集まりスタートした同期会ですが、毎年恒例の行事となり今回は4人の美魔女を加えて、11人で開催しました。2名の初参加がありましたが、50年の歳月を超え一瞬にして北高時代に戻り、いつものことながら大いに盛り上がりました。

全員古希を迎える年齢になり、身体のあちこちはいたんできていますが、口だけは絶好調。最近の記憶はところどころ飛んでも、美しかった10代の頃の記憶は鮮明に覚えており、喋って、笑って、食べて、飲んで、顎がだるくなったと思ったら、今回も4時間が経過していました。

次回は、今年の夏頃に開催したいと思っています。 乞うご期待。

この同期会だよりを読んで、一人でも多くの同期 の仲間が増えれば嬉しく思います。楽しい事、請け 合いです。青春時代がよみがえります。人の輪が 拡がります。皆さんの参加をお待ちしています。(特 にきれいどころ大歓迎)

### ●参加者は下記の11名(敬称略)

(写真左より) 北村白雄(森)・内藤和夫・白神知都子(西村)・石賀誠一郎・松浦眞知子(竹内)・桑原勇・小川美智子(岸)・太田善博・大堀愛子(引野)・小田一美・森山和夫

## ■ 19期 (S43 卒) 卒業 50 周年古希記念同窓会

日時/平成30年9月29日(土)午後5時 会場/ホテル白鳥(松江) 報告者/岩田一志、池田喜美代



当日は台風24号襲来であいにくの雨模様でしたが、全国から105名が参加し、賑やかななかにも和やかな会になりました。

会は代表幹事の吉金さんの司会ではじまり、乾杯の前に阿羅波比(あらわい)神社の宮司さんによるお祓いを受け、古稀を迎えつつがなくここに皆で集える有難さをあらためて感じました。

続いて集合写真の撮影に移り、その頃には懐かし い顔ぶれに打ち解けていきました。

乾杯するとすぐに、5年ぶりや、卒業以来始めて の再会にほころぶ顔でみちあふれ、会場は50年タ イムスリップ、懐かしい顔をみつけては歩み寄り、



6 R 集合、後列左から二人目、岩田

## 同期会便り



7 R 集合、前列右、池田

想い出話や、近況を尋ねたりと、あちこちで輪がひ ろがり楽しい会になりました。

宴半ばで校歌を大合唱し、またの再会を約し万歳 三唱してお開きとなりました。が、そのまま二次会 場のメイビーでの宴が続いたことは言うまでもあ りません。

この同窓会をお世話いただいた在郷の幹事のみなさん、とりわけすべてに取り仕切っていただいた事務局長の吉金さんに感謝申し上げます。

なお、吉金さんより19期の古稀記念として30万円(参加者のご厚志と欠席の方からの寄付)を双松会に寄付したことを近畿双松会の皆様にお知らせいただけたらとのことです。ご報告いたします。

同期皆さんへのメッセージの場として、今後も 開催のつど情報をお寄せください。

同期会は双松会の"核"となる集まりです。 双松 会総会の個別テーブルも利用して、ミニ同期会を 開催ください。

## ■ 22 (理 1)期 (S46 卒) 関西同窓会

日時/平成30年4月14日(土) 会場/ホテル阪神 報告者/石橋善和



全員が65歳(高齢者?)になったのを機に、第3回関西同窓会を開催しました。

第1回の還暦同窓会から5年、その間毎年1回は 額合わせをしているメンバーですが、今回は初参加 の1名を加え総勢16名での開催になりました。

乾杯、しばしの歓談の後、各人の近況報告、カラオケタイム等大いに盛り上がりました。近況報告では、仕事に一区切りを付け、いろいろな趣味にチャレンジし、自分なりの楽しみを見つける、との報告が多く聞かれました。

最後に全員で「若者たちを」を熱唱し、青春時代を 懐かしみ。お開きになりました。

⇒S46年卒同窓会(関西・東京)ホームページ http://tsuruha.net/kitako

#### ●参加者は下記の16名(敬称略)

石川 章・石橋善和・内村 昭・大浜 緑 (宮本)・大 浦綾子・木山洋子 (平田)・倉橋 勉・実重祐二・鈴 木厚子 (原田)・鶴羽孝子 (石橋)・内藤清志・内藤 善夫・永瀬光一郎・西村紀子 (松本)・松本貴文・ 村田 貢

## ■ 23 (理2) 期 (S47 卒) 関西地区同窓会

日時/平成30年4月21日(土)

会場/大阪(淀屋橋、中之島、北新地) 参加者/22名 報告者/松本 潤



私たち23期の関西地区同窓会をちょっと振り返ってみますと、高校を卒業してから23年、40代前半の1995年、阪神淡路大震災の年の2月にスタート。同じ関西に住む者同士の初めての同期同窓会に皆感激し、第2回目を早速その年の秋に開催しました。

そして、毎年開催するようになり、回を重ねていくごとに「懐かしい集い」から「いま、現在の大事なコミュニティ」となっていくようになりました。ただ、幹事役というのは事前準備・連絡など殊の外大変な労力がかかるもので、5回目位から神戸・京都滋賀・大阪奈良の「三都体制」で幹事を持ち回りとし、それが継続開催の「エンジン」となりました。

それもそう、3年に1回で良い訳ですから、各地区の特徴を活かした企画を練っていくようになり、楽しさも倍増しました。単に夕方からの懇親会だけではなく、オプショナルツアーということで、お昼から集まり、日頃なかなか行けない名所・旧跡やホットポイントなどの見学をしていくようになりました。これも楽しみのひとつとなり、今では関西地区からだけではなく、松江・東京・名古屋・広島等々からの参加者も年々増えてきています。

さて、昨年の第24回目の関西地区同窓会は、大阪 が幹事役で、2018年4月21日(土)に開催しました。 今回のプログラムは以下の通りで、22名が参加 しました。

#### ・オプショナルツアー:

淀屋橋港集合、天気も良く爽やかな水上ツアーでした。大阪水上バス「アクアライナー」で大阪城・中之島めぐり(40分)淀屋橋港帰港後、中之島界隈散策(30分)

#### 一次会:

淀屋橋のパーティースペース「MORISITA」(210分)。23年前の第2回目、当時レストランであった頃、貸切で開催。レストランから今はパーティースペースで繁盛。

### ・二次会:

「ジャンカラ北新地店」(90分)

2018年は、いよいよ「前期高齢者」に到達する年ですが、写真の通り、皆さん益々若々しいということをお互いに確認。いくら時間があっても足りないのはいつものこと。ただ、近況報告では介護・健康の話が徐々に増えてきたのは致し方ないことです。

「よくもまあ、毎年毎年、よく続いているものだね」と自分たちよりも家族に呆れられている23期の同窓会です。本年(2019)は、京都が幹事役で4月に伏見稲荷大社と懇親会。また7月には学年全体で、玉造温泉で一泊二日の同窓会があります。

以上、益々盛り上がる23期の同期会たよりでした。

## 会員近況報告

この近況報告は、昨年の総会の出欠回答時  $(9 \sim 11 \, \mathrm{f})$ を中心として、昨年の会報発行以降にお寄せいただいた近況を加えて構成しました。半年前後の時差がありますこと、ご承知おきください。

## 中63 (昭18卒)肥塚隆正

まことに申し訳ありませんが、長く歩行が困難になりました。今年で92歳になりますが欠席させて下さい。

皆様にはよろしくお伝え下さい。ご健康をお祈りいたします。

#### 中66(昭20卒)熊野禮助

### 高1(昭25卒)飯塚満男

皆様によろしくお伝え下さい。

### 高1(昭25卒)林原信光

皆様の一層のご健勝と、会のご盛会を祈っております。

#### 高1(昭25卒)田端要子

女学校2年の時、終戦でした。学制改革の時代で したので授業も行き当たりばったりで混乱し、まと もな授業は受けていないのが現実でした。

### 高2(昭26卒)久保田幸雄

老化進行中ながら、60周年記念の会、お世話の役員に敬意を表するために出席いたします。

## 高2(昭26卒)成合茂博

・今年の突風・雨の災害には、参ったなあ~~、 ま、自然に生かされ、共生していく私たち、

寒・暑・水害もつらいけど、人工の争いによる悲劇だけには、触れたくも、出会いたくもないものだなあ~~・・。

・地球のあちこちでの争い、いろんな終始があるようで~~~、ほとほと・・。

⇒ならば、何とする!

## 高2(昭26卒)神田田鶴子

今年の酷暑は身体にこたえました。

皆々様にはいつもお世話様になり心より感謝しております。私、85歳になり、足腰の方が一寸悪く、 年末には外出を控えたいと存じます。申し訳ございませんが欠席させていただきます。

## 高4(昭28卒)藤原小夜子

松江に行けた頃は、駅に降りると、空気ゆったり、 歩巾ゆったり、会話もね。心からいいなと思ったも のです。

私はいつでも松江の風景を思い出し、元気をいただいています。あの宍道湖の美しさは宝物です。 そして椿谷近辺のおだやかな静かさ・・。

今年は足の具合が悪くなって電車で出かけることができなくなりましたので欠席します。楽しい 会になりますよう。

11月は七・五・三や法事でいそがしかったです。

#### 高5(昭29卒)板垣衛武

ご案内いただき、有難うございます。行動範囲が 狭くなりまして申し訳ございません。

今、これまでに書いた紙の本を電子書籍に作り替え、アマゾンに登録していただいています。「松江藩のお種人参から雲州人参へ」「大阪の堀川と橋ものがたり」「石見銀山ものがたり」「石見浜田藩異端船頭二代記」を来春発売予定です。

60周年記念総会の盛会を祈念いたします。

## 高5(昭29卒)成田良美

ご盛会をお祈り申し上げます。

### 高6(昭30卒)森岡敏眞

人間の還暦と同じで、60周年を迎えるのですね。 さすが、大阪の会です。 私も数年前からずっーと参加させてもらい、大勢の集まりにはいつも感心していました。高齢者が年々減っていくのは仕方ない事ですが、この会は若い人も参加して嬉しいです。

それだけに、役員の方々の工夫、努力があるので すね。ご苦労さまです。

### 高8(昭32卒)清水一夫

一応、元気です。

### 高9(昭33卒)坂本降男

来年で傘寿80歳。男子の平均寿命数である。 "如何ばかり 吾が人生のロスタイム"

## 高9(昭33卒)逸見充宏

NPO法人 北大阪経営支援マスターズ理事として、中小企業の経営支援。今年15周年を迎えました。

趣味:詩吟 関西吟詩文化協会

今年、<師範>8段に昇格

## 高9(昭33卒)山岡裕明

朝夕の散歩を楽しんでいます。

### 高10(昭34卒)面白紘

3月に中学校の同窓会を津和野、益田でおこない、 8人が参加し楽しいひと時を過ごした。数十年ぶり の山陰本線(益田~米子)の旅だった。

### 高10(昭34卒)佐和田丸

満78歳になり、3人の子供らが傘寿の祝いの計画をしてくれました。平成31年の正月、子や孫14人が集まった時にする予定とのことでした。よく考えてみると1年早すぎるような思いもあり、また、身内に喪中のものもおり、1年延期してもらうことにしました。

余談ですが、長寿祝いは、数え年で、還暦60歳、古 希70歳、喜寿77歳、傘寿80歳、米寿88歳、卒寿90歳、 白寿99歳、百寿100歳、茶寿108歳、珍寿110歳以上、 皇寿111歳、大還暦120歳と続くようです。

⇒HP http://simane.do47.net/kadoya.html

### 高10(昭34卒)清水義男

元気でやっております。御盛会をお祈りいたします。

### 高10(昭34卒)清水小枝子

一度出席させていただいた中央電気倶楽部の様 子が目に浮かびます。ご盛会を祈り上げております。

### 高11(昭35卒)神門英明

今年は梅雨ごろより体調今一つですので、今回も 欠席します。

### 高11(昭35卒)小久江良雄

所用のため出席できず残念です。元気で毎日を 送っています。

### 高11(昭35卒)河野克彬

愛仁会千船病院勤務中です。

## 高11(昭35卒)森田方子(石井)

. . . . . . . . . . . . . . . . . . .

ご案内いただき、有難うございます。欠席ばかり してすみません。

### 高12(昭36卒)加納征男

夏場に引っ越し。年をとってからの引っ越しが これほど大変とは思わなかった。古いものの処理 に追われています。何時、落ち着くことか?

## 高12(昭36卒)福間昭光

ご案内いただきながら、欠席ばかりで申し訳あり ません。

私も75歳と7ヶ月・・魚の干物のようになって きましたが、1年のうち140日ぐらいは帰省して、1 ~18歳の頃を想い出して楽しんでおります。

### 高12(昭36卒)山本輝夫

- ・6月以降の災害(地震・豪雨・台風)で罹災された 皆様に心からお見舞い申し上げます。一日も早い 復旧、復興を祈念します。
- ・9/9.全米OPテニス(女子)で大坂選手、日本人初のV。錦織圭選手がベスト4で残念な気持ちもあり喜び100倍!!
- ・末弟が昨年から松江市バトミントン協会会長をお引き受けし、子供たちの健全育成に尽力中ですが、 先般、市長より"ふるさと納税"を錦織さんのような 世界的なアスリート育成のため、海外留学費用に充 てたい旨の諮問が各競技団体長にあった由。

次世代を託する子供への投資や、少子化対策には 市民(前・元市民を含む)の理解を得られると思う ヨ!と熱いエールを送ったのですが・・。謝礼品 の高額化を抑えようと、政府が動き出している時 期だけに、キラッと光る施策、市長提案だと思うが。 (年末現在、議会で未承認)

### 高13(昭37卒)桑原洋史

. . . . . . . . . . . . . .

ゴールデンウイークにダイアモンドプリンセスのクルージングに参加しました。4泊5日の短い旅でしたが、楽しい時間を過ごせました。

乗客乗員合わせて3,700人余りという大きな船です。広くてややこしくて、いつもの食堂に行くのに、いつも迷いました。ついに下船までルートを覚えられませんでした。船のせいというより、本人の記憶力低下が問題だったかも。

## ..... 高13 (昭37*卒*)深澤千栄子

ご案内、有難うございます。

12月1日に母の三回忌で松江に帰っております。 とても残念ですが欠席させていただきます。御盛 会をお祈りしております。

### 高13(昭37卒)山下倶子

. . . . . . . . . . . . .

いつもお世話になります。今年も楽しみにしております。

## 高14(昭38卒)川上克彦

10月15日に卒後55年同窓会が玉造で開催され 出席しました。出席、男性42名・女性32名

### 高14(昭38山口高校卒)小泉勝是

双松会の縁があって始めた、子供に理科やおもちゃつくりの面白さを伝えるボランティア活動が5年目を迎えました。

### 高14(昭38卒)木幡晃正

篠山市最大の住宅団地1,050世帯の自治会運営事務局の総務を今年、来年度2年間担当し取り組んでいます。毎月の役員会、総班長会、各イベント等々多忙。

他に、島根県遣島使・松江観光大使・近畿松江会 の役員の活動、プールは週5回。

### 高14(昭38卒)小松三樹

転んで足を痛め。まともに歩けません(4年前)

### 高14(昭38卒)富永寿郎

一人で出歩くことができないので、今回欠席させていただきます。会の盛会を祈ります。

#### 高14(昭38卒)三好洋二

恥ずかしながら74歳の今も、しっかり働いています。世の為、他人(ヒト)の為と言いながら、実は山の神のため。声を枯らし、体力を振り絞り、最後はふらつく今日此の頃です。カマキリのオスのような人生に乾杯!!

### 高14(昭38卒)齊藤丸子

10月15日(日)に玉造温泉にて同窓会があり、参加しました、在学中には話せなかった方々とお話ができ、楽しかったです。親友とも夜遅くまで、お互いのことをしゃべり、各々離れてからの人生を確かめ合いました。これからも健康で、有意義に暮らしたいと思っています。感謝!!

### 高14(昭38卒)新名貴久子

お便り、有難うございました。とても出席させていただきたいのですが、小さな孫の世話をしなければいけないので出席できません。

#### 高16(昭40卒)松本耕司

本庄中学同期の老善男善女たちがマイクロバスで、大挙大阪に押しかけたいと言う話(正確には全国各地から)があって、"恩返し"だと覚悟を決めて受けました。

この準備がなかなかの苦労話・・・。コースは 大阪城、道頓堀のグリコ、法善寺の水かけ不動、一泊 宴会して、ハルカス、通天閣と、私の手作り?で、マ イクロバスも罰金覚悟で路駐と決めて、なんとか好 評裡に終了することができました。

足弱になった竹馬の友たちを、嬉々として小旗を振って案内しましたが、特にジャンジャン横丁のレトロな雰囲気と、二度づけ禁止の"串カツだるま"が人気を呼んでいました。肩の荷がおりました。

#### 高16(昭40卒)三吉孜

9月に72歳になりました。五木寛之が「黄金の70台」と言っていました。回想を楽しみつつ、惰性ではなく(ミドル)リスク程度の挑戦もしていきたいと思っています。

#### 高 17 (昭 41 卒) 岡 久夫

. . . . . . . . .

返信が遅くなり、申し訳ございません。(案内状を引っ越し段ボールから、やっと探しあてました)

#### 高17(昭41卒)石川敏郎

入院中です。盛会を祈ります。

### 高17(昭41卒)夏川一輝

今年は北高野球部の関西での練習試合を見に行きました。甲子園での試合を期待しています。

### 高17(昭41卒)島本妃早美

総会のご盛況をお祈りしております。

### 高18(昭42卒)小田一美

今年も7月にミニ同期会を開催しました。11名(男性7、女性4)が集まり、いつもながら大いに喋り、笑い、食べて、飲んで、美しい10代がよみがえりました。

## 高19(昭43卒)槇原隆

御盛会をお祈りします。

### 高20(昭44卒)金見幸夫

毎朝、地域小学校児童の見守りはしていますが、 昨年4月病気発症後、通院、散歩、買い物以外、外に 出ることはありません。

皆様方にお会いしたい気持ちはありますが…、申 し訳ありません。今回も欠席させて下さい。

### 高20(昭44卒)山嵜麻里子

7/1 ~ 7/19まで、フィンランド、スウェーデン、 ノルウェー、ドイツの4ヶ国を近畿双松会のメン バーで旅してきました。

平均年齢71歳の男女4人組。素晴らしい旅でした。 こういう機会を持てたのも、メンバーに巡り合えた のも近畿双松会のお陰、感謝、感謝です。

## 高21 (昭45 卒)花田幸久

リタイアして3年経過。スローライフを楽しんでいます。名古屋に住んで30年ほど(単身赴任15年)になります。

#### 高22(昭46卒)石川章

のんびりと、老後生活しています。

#### 高22(昭46卒)村田貢

60周年、すごいですねぇ!先輩の皆様に感謝申し上げます。

55周年の時のような盛り上がりを期待しています。

#### 高22(昭46卒)大浦綾子 高 24 (昭 48 卒) 吉岡秀文 皆様にお会いできるのを楽しみにしております。 平成31年1月末頃に、姫路駅前のマンションに移 ります。 高22(昭46卒)大濱緑 いつもお世話になり、ありがとうございます。皆 高24(昭48卒)河村敦子 様にお会いできるのを楽しみにしております。 当日、"一万人の第九"本番と重なり、欠席させて いただきます。 高22(昭46卒)西村紀子 高橋一清氏の講演をすごく楽しみにしておりま 秋らしくなってまいりましたこの頃、松江を懐か したので、とても残念です。 しく思います。子供も成長し、夫婦で国内外に旅行 に出かけています。 高26(昭50卒)福間則博 皆様にお目にかかるのを楽しみに致しております。 今回、他の所用と重なり出席できず申し訳あ りません。 高23(昭47卒)朝比奈博則 まだ、現役で働いています。 高26(昭50卒)松本義明 . . . . . . . . . . . . . . . まだ現役で頑張っております。 高23(昭47卒)後藤和彦 . . . . . . . . . . . . . . 全国通訳案内士(英語)として、海外の方に日本を 高26(昭50卒)加藤茂樹 紹介しております。 神戸市の会社を定年退職後、高年齢雇用継続制度 を利用し、働いています。 高23(昭47卒)和田邦彦 . . . . . . . . . . 義父三回忌のため岡山に帰省しています。湖都 高26(昭50卒)坂本雅子 松江の高橋一清氏の講演が拝聴できなくて残念で いつもお誘いくださって有難うございます。次 回は出席したいと思います。 . . . . . . . . . . . . . . . . 高23(昭47卒)松本幸子 高27(昭51卒)三浦清 ご案内、有難うございます。退職後、やりたかっ 毎回欠席で申し訳ありません。あと2~3年は現 たことは三つ。イタリア旅行と第九を歌うことは 役で頑張る予定です。 実現できました。あと一つ、富士山に登ることはこ れからです。 高27(昭51卒)増木恵子 . . . . . . . . . . お世話になっております。27期の皆様からのご 高23(昭47卒)山口紀子 案内も頂戴しありがとうございます。 高橋様の講演会、楽しみにしています。「湖都松 卒業と同時に松江を離れておりますので、ご案内 江」愛読しております。 の度にとてもなつかしく思い出させていただいて . . . . . . . . . . . . . おります。 高24 (昭48卒) 木村 悟 出席できず申し訳ございません。皆様に宜しく 今回は所用があって残念ですが、盛大な会になり

ますことをお祈りいたしております。

お伝え下さい。

### 高29(昭53卒)達山暢(松江市) 高36(昭60卒)今宮一正 近年、仕事や家庭の事情で欠席が続きましたが、 当日を楽しみにしております。 今年は久しぶりに参加できそうです。 毎日、いそがしく、元気で暮らしています。 高65(平26卒)山根一眞 大学院にて修士論文を書いています。 厚生労働省島根労働局内定のため、来年は島根に 高29(昭53卒)山本修司 返事が遅くなりましてすみません。 帰郷します。 . . . . . . 自治会のイベント幹事で参加できなくなってし まいました。申し訳ありません。 高69(平30卒)小川歩未 同志社大学文学部英文学科1年在学中 高30理9(昭54卒)千葉 潮 7月から、安来と大阪二拠点でくらしています。 高69理48(平30卒)橋本竜馬 出版とあわせて安来市加納美術館の企画運営の仕 京都大学のサークルでプログラミングをしてい 事をしています。帰省の折はお立ち寄りください。 ます。 (40年ぶりにしまね暮らしです。) 高33(昭57卒)松本慶太 元気にしております。

堺市の観光ガイドは下記協会へ。

NPO法人 堺 観光ボランティア協会

〒590-0077堺市堺区中瓦町 2-3-24 TEL 072-233-0531 FAX 072-260-4441

石原綏子 (高6期)

## 60周年記念会報寄稿「在学中の思い出」

## 「卒業前の謝恩演芸会」

森岡 敏真(6・昭和30年卒)

1年生も終わりに近づいた3月、あの天井の高い体育館に全校生や先生が集合。そして3年生の司会で幕は開けられた。そのプロ並みの司会ぶりには唖然としました。丸山(美輪)明宏ばりの名司会にはびっくりしたものです。

そして年月は流れて、私達が3年生、卒業前の謝 恩懇親会になりました。

学年で11学級もあるのに不思議な縁で仲間が集い、練習も少なく即興に近いもので当日を迎えました。出しものは、「金色夜叉」。

私は貫一の役、足立君がお宮。鬘を被って美しく 着飾り、化粧したお宮は目立ちました。

## 「宮さん 必ず来年の 今月今夜のこの月は 僕の涙でくもらして見せる 男子の意気地から」

貫一の歌謡セリフが、終わるやいなや、お宮は急変して着物を脱ぐと下には柔道着、鬘をはずして貫一を投げ飛ばす。転げる貫一を見て会場は爆笑の渦。そんなお恥ずかしい謝恩劇でした。

終わってから、出入口で出演者の記念写真を撮りましたものを紹介します。

演劇部が年一回ある文化祭での発表ものは本格的なものでした。現在では県民会館に建て替わりましたが、松江市に古くからあった立派な公会堂で発表されたものの一場面を写したものを添えさせていただきました。



演劇部公演 (文化祭)





体育館出入り口で記念写真 中列左から三人目、森岡、左が足立猛君、右が荻野克彦君、 後列右が大北哲也君(千寿院)

行く先短い老人の 懐かしい想い出として 受け 取って下されば幸いです。



1955 (昭30) 年3月卒業式 (川津校舎)

# 「0先生のこと」

## 池田 喜美代(19・昭和43年卒)

昨年の近畿双松会設立60周年記念総会の「記念講演会」の講師であった、高橋一清氏の著書「編集者魂」のあとがきの冒頭に「人の体は食べたもので作られ、人の考えは会った人によって作られる」とある。

あれは確か北高1年の秋だった。朝、遅刻しそうになった私は、つい自転車を走らせた。私の家は大輪町だから、自転車通学の許可範囲ではなく違反である。

その日は、たまたま生活指導の日だったのか、「O 先生」が校門のところに立っておられた。私は「どうしよう」とはらはらしながら自転車を引いて行った。案の定、注意を受けて、その日1日後悔と反省となにより恥ずかしさで落ち込んでいた。そんな気持ちのまま下校する時である。暗がりのなか、「O 先生」が近づいてこられた。

私は何か言われるのかと緊張した。すると「川原さん(私の旧姓)、自転車のライト、調子悪いところがあったからちょっと直しといた。気を付けて帰りなさいよ」と言われたのだ。てっきり「これからは乗ってくるなよ」と言われるとばかり思っていた私は、返事もそこそこに、その場を足早に立ち去り、帰った。

「〇先生」は一度だけ、20年以上前の松江での19期の同窓会に来られたが、話は出来ずに、そのうちにそんなことがあったことも忘れてしまっていた。

7歳下の妹は、私が松江に帰ると毎日実家に来てくれる。母が外出をしぶるようになってからは、あいだの1日は、妹の車で二人でお墓まいりをし、どこか郊外でランチをし、お茶をするというのが常になっている。

昨年9月に開かれた19期の卒業50周年古稀記 念同窓会の次の日のこと、その日も迎えに来た妹が、車中で私が同窓会の様子を話していると、ふいに「お姉ちゃん、北高に「〇先生」っておられた?」と。「えっ、おられたよ。なんで?」と私。「川原っていう苗字が珍しいのか、北高にいた川原さんの妹さんですか?と聞かれた」という。

妹は、あるスポーツをしたいからと商業に進んだのだが、進学するときの進路指導の先生が、なんと「O先生」だったというのだ。「丁寧に相談にのってくださったよ。いい先生だった」と妹。

私が卒業して10年以上も過ぎてからそんなことがあったとは、松江を離れていた私には知る由もなかったが、「〇先生」が記憶の端に留めていてくださっていたと知って嬉しかった。

あの暗がりの門のところで、自転車を引く私の姿がシルエットのように浮かぶと同時に、寛容で懐の深い「〇先生」を思い出して私もそうでありたいと思う。

高橋一清さんは、握手をしてくださいと差しだし た私の右手がとても冷たかったからだろう、両の手 で包んでくださった。温かだった。

## 「下宿生活での思い出」

村田 貢(22・昭和46年卒)

15歳で隠岐の親元を離れ、母の兄のいる松江で 高校の三年間を過ごした。父親は寮に入れたかっ たらしいのだが、自由になるのが目的だったから 断って下宿した。2軒の下宿にお世話になった。

最初の下宿があった西川津町というのは相当広いエリアであるらしく、学舎からは同じ町名でもかなりの距離があり、島根大学のキャンパスの近くにあった。学校の正門から西向きにまっすぐ出て南田町、母衣町、菅田町を経て大輪町まで北上し突き当りを右折してしばらく行くのだが、当時はこの辺りまで行くと建物などほとんど無く、当時開設して間もない山陰中央テレビの塔が目立つくらいだった。

下宿生活の一日目・・あんなに親から離れて自由になりたかったくせに、ホームシックになり涙でご飯が食べられなかった。しかし、そこは若者、すぐに慣れ自由を謳歌し始めた。

1年生の学園祭の時、当時3年生の先輩2人と同級生の4人でバンドを組み、講堂で演奏した。それを見ていた附属中学出身の西尾俊也君からいっしょにやろうと誘われ、「本格的に」バンド活動が始まった。練習場所は同じく附属中学出身の三島良一君の自宅、「ホテルみしま」の大広間である。発表会が近づくと合宿もやった。ホテルの客室一室をあてがわれ泊まり込みで練習するのである。豪勢な高校生であった。

そのバンド仲間全員が2年生のとき、「魔女」といわれた森脇康江先生の13 Rで同じクラスになった。 狂喜乱舞、「奇跡だ」と言って騒いだ。単なる偶然 だったんだろうが男子も女子もみんな仲が良かった。

3年生が卒業式を終えたころ、下宿仲間の村上聖継君とバイク二人乗りでの大阪行きを計画し、担任



2 年生の学園祭でのバンド演奏。メンバー全員が 13 R で同じクラスになった ⇒最後列ドラムが筆者



それ以来かれこれ 50 数年…、 現在もドラムを叩いてます

の森脇先生に報告に行くと気持ちよく(?)笑顔で 許していただいた。怒ると怖い森脇先生、優しく懐 の深い先生でもあった。

3年生に上がるころ、「俺の下宿、部屋が空いちょうけん来いや」と誘うやつがいた。安来出身の岩見良君だった。内中原で自転車店を営んでいた叔父の軽トラックで引っ越した。場所は西尾町、松江市立女子高のすぐ近くだ。部屋の窓を開けるとすぐ前がバス停で、必然的に女子高生が集まる場所だった。下校の時間ともなると何処からともなくやってくる男子学生のたまり場になっていた。

当時、音楽以外考えることのない私にとってそれはさして重要なことではなかったのだが、音楽に没頭するあまり、学校を休んだり、遅刻することが多くなった。

ある雨の日、3Rの担任の山中淑郎先生が下宿に やってきた。傘をさして長靴を履き自転車に乗って、 当時はまだ舗装されていないぬかるんだ道を西尾 町の下宿まで来られたのだった。

### 「村田、学校に来い!」

それを言いにわざわざ来られたのだ・・・。

私は卒業以来今まで、このことを忘れたことがありません。そのおかげで無事(?)卒業することが出来、北高OBとして誇りを持って生きていくことが出来るからです。

山中先生、ありがとうございました。 どうかいつまでもお元気で。ほろ苦い、3年生も終わりに差し掛かったころの思い出です。



英語担当の先生方~前列向かって右端が山中淑郎先生 後列左端が森脇康江先生



西尾町の下宿。(2005年8月13日帰省時に撮影) 現存 していた。 2階右側手前の窓から下校時の女子高生が 集まるバス停が目の前に見えた。

## 60周年記念会報寄稿「近畿双松会に寄せる思い」

## 「60周年に寄せて」

押田 良樹(11・昭和35年卒)



松江北高100年史によれば、母校の同窓会組織の成立は、開校(明治9年)から10年後の明治19年のことである。当時の松江中学高等科2年生の4名が連名で、当時の浜野虎吉校長に設立の「願書」を提出し許可され、「同窓学生会」が発足した。その4名のうちの一人は、茨木中学の英語教師として、ノーベル賞作家川端康成に大きな影響を与えた倉崎仁一郎である。実物は残っていないが「同窓学生会雑誌」という会報も発行されていた。

会報は、明治31年に「学友会雑誌」と名を変え大正4年頃まで発行されており、そのうちの何冊かは母校の起雲館と県立図書館に所蔵があり、当時の母校の様子を窺い知ることができる。

その後大正10年に新たな会報「紅陵」が創刊され、昭和15年まで発行が確認されている。そして、創立50周年を控えた大正14年頃に、「同窓学生会」を発展させて新たな同窓会を設立する機運が生じ、当時の田中一元校長を会長とする「島根県立松江中学校同窓会」が発足した。このときはまだ、校風の象徴である「双松」を冠した名称にはなっていなかった。

さて、わが近畿双松会は、大正の末か昭和の初め頃、弁護士の四方田保氏(中20期、明治33年卒)が中心となって始まったと伝えられている。

その時の会の名称を確認できる資料に接していないが、もし「近畿双松会」であったとすれば、本体に先駆けて近畿の同窓会が初めて「双松」の名を使ったのかもしれない。

当会の生みの親である四方田 保氏については、先輩方が、往時を回顧した文章の中で触れているのを

過去の会報で読んだことがある。この稿を書くにあたって、さらにその人物像を知りたく思い、ネットを使って調べてみた。すると、意外なことが判明し、四方田 保氏のことを詳しく知ることになった。

四方田犬彦氏という映画史家がいる。著作も多く、 映画が好きな方はご存知かもしれないが、私は名前 を見たことがあるという程度だった。

この犬彦(本名は剛己)氏が、実はなんと四方田保氏の孫であること、そして3年前に「母の母、その彼方に」(2016年新潮社)という作品を書いていることを知った。作品紹介を読んで、この本には祖父保氏のことも書かれているに違いないと確信し、早速ネットで取り寄せた。

その作品は、犬彦氏が不思議なきっかけから、祖父には死別した最初の妻がいたことを知り、その生涯を様々な方法で探索して明らかにすることが中心だった。同時に保氏の後妻となった祖母とその娘である母の生涯を見直し、三者三様の人生を対比させた興味深いものだったが、勿論、四方田家の主人である祖父保氏の人生も、孫の立場から克明に描写されていた。

四方田 保氏は明治13年、雑賀町の下級士族の家に生まれ、松江中学を明治33年に卒業(20期)、五高から京都帝国大学法科に進んだ。卒業後、刑事弁護士となり、堂島に事務所を開いた。若くしてシーメンス事件を担当して名を上げ、松島遊郭事件、帝人事件なども手掛けている。昭和4年には大阪弁護士会の会長に就任した。

茶器の蒐集などを通じて親しい間柄だった小林

一三の箕面村分譲計画に賛同して、箕面に4300坪の土地を求め、広大な屋敷を構えた。近畿双松会の結成時の初回会合はこの箕面の四万田邸で開かれたことを、米村又男氏(大正3年卒、34期)が昭和53年の会報で書いておられる。

同郷の若槻礼次郎とも親しく、組閣時に司法大臣 就任を要請されたが固辞したという。

地方の下級士族の家から都会へ出て学問を修め、努力して一代で財産と社会的地位を築いた立志伝的な明治人の典型ということができ、同じ雑賀町の下級士族の家の出身で、国際的な弁護士として名を成した岸清一(明治16年卒、4期)と相通じるものがある。ここにもまた一人偉大な先輩を見つけた思いである。

戦争により近畿双松会は暫く途絶えていたが、世の中も落ち着き始めた昭和33年に再発足した。このときも四方田保氏の呼びかけによるものであり、氏は名誉会長に就き、会長には当時近鉄の副社長の重職にあった永岡孝二氏(大正11年卒、42期)が就任した。

一方、新制の松江高校・松江北高の近畿地区同窓会は昭和42,3年頃に名簿が整備され、活動が始まったように記憶する。私個人としては、新制の会に顔を出したことはなかった。

暫くは新旧二つの会が併存した時期が続いたが、 統合に向けての双方の先輩方のご努力の結果、昭和 58年に至って新旧の会の合同が実現した。

私が、近畿双松会の総会に初めて出席したのは、 平成11年のことで58歳の遅咲きデビューだった。 その時の同期生(11期)は私一人だった。以後、昨 年まで総会には皆勤を続けている。

平成15年には、3年生の時の担任だった恩師松本 幹彦先生(昭和25年卒、高1期)が双松会会長に就 任され、さらに6年後にはその松本先生のクラスで 席を並べた庄司肇君が先生の跡を継いだという縁 もあったので、多くの11期生が誘い合って総会に 出席し、一時期は各期中最多出席人数の時期も続い た。しかし、平成26年に12名で首位になってから は低迷している。その後は松本会長の16期が3年 連続首位を守り、昨年は近年勢いの出てきた22期 が初の首位になった。

60歳を過ぎてからの私の人生は、近畿双松会とのかかわりが大きなウエイトを占めている。思いもよらず5年間会長を仰せつかり、退任後もゴルフ、落語、文楽、里山ハイキング、歴史ウォーキング、母校野球部の大阪遠征試合の応援と、行事には全種目参加を目標にして、会員の皆さんとの交流を楽しんでいる。今年は、それまで敬して遠ざけてきた宝塚歌劇も観劇した。喜寿を過ぎての初体験だった。

会を通じて知り合った多くの先輩、後輩との交流、各種行事を通じての新しい世界の広がりは得難いものであり、まさに近畿双松会はわたしにとって「心のオアシス」である。

ところで、私には近畿双松会に関して、若き日の不思議体験がある。昭和40年代の前半、近畿双松会の総会(勿論、当時は旧制松江中学関係者だけの会)になぜか出席したことがあるのだ。

そのとき一緒に出席した、今は神奈川に住んでいる同期のS君がまだ大阪にいたころだから、30歳にもなっていなかった頃である。会は立食パーティで、周りを見ると自分の父親以上の年恰好の人ばかり。只々緊張して、「ずいぶん場違いなところに来たものだなぁ、30年は早い感じだな」と、S君とひそかに話した記憶がおぼろげにある。

あれは一体どういう事情で出席したのだろうか。 挨拶や式次第は何一つ記憶にない。とにかく早く 時間が過ぎ去り、この緊張から解放されることを願 うばかりだった。

思い出して、確認のため久しぶりにS君に電話して聞いてみた。彼も、あの体験を忘れずにいた。聞けば私が誘ったのだという。

## 60周年記念会報寄稿「近畿双松会に寄せる思い」

現在の学生ゲスト諸君のように、壇上で抱負を述べたり、母校の先生からの激励メッセージを受けたりするような、式次第に組み込まれた扱いはされなかった。S君は声を掛けてくれた人もいたというが私には記憶がない。

前記の古い会報の米村氏の「回顧茫々」という文中に、「昭和43年10月7日、本会の10周年記念大会を太閤園にて催し」という記述がある。もしかして、私が参加したのはその会だったのだろうか。10周年ということで特別に新制の卒業生にも声を掛けたのだろうか。それにしても、会場にそれらしき若手は他に見当たらなかった。

太閤園と言えば平成20年に50周年記念総会を開いた会場である。それなら、そのとき気が付きそうなものだったが、この会場は初めて来たと思った。若い頃、会場を意識することもなく、今はやりの5歳の幼女に叱られるようなボーッとした生き方をしていたからかもしれない。50年くらい前の不思議な体験が急に気になりだした。また解明すべきテーマが増えたようだ。先輩諸氏に手掛かりになる話を聞いてみようと思う。

当時の実感通り、あれから30年経って会への参加を始めた。今度は、得も言われぬ居心地の良さのとりこになり、どっぷり浸かって現在に至っている。若い会員の参加はもちろん大歓迎であるが、私の

在い云貝の参加はもらつん人歓迎であるが、私の体験上、やはり同窓会への参加には「適齢期」というものがあるように思う。

今回の学生ゲストの諸君は、壇上に上がったり、 福引で郷土の産品を引き当てたりしたこの会の記 憶は鮮明に残ることだろう。

何年、何十年か先、もし近畿に住まうことになったとき、思い出して友人を誘ってまた参加されることを願っている。

60周年記念総会では、歳月の流れを痛切に感じさせる象徴的なことがふたつあった。

ひとつは、初めて中学卒業の方の出席が途絶えたことである。30年前の創立30周年記念総会(昭和63年)では、一番年長の42期(大正11年卒)を筆頭に、出席者の58%を占める47名の中学卒業の先輩が出席していた。やはり30年という年月には抗えないことを切実に感じる。

もうひとつは、明治9年創立という古い歴史を持つ母校は、それだけ長い旧制中学時代があり、その間の卒業期数も多いわけだが、戦後の新制高校卒業期数がついに追いついたということだ。 双松名簿上では旧制中学の最後の卒業期は69期である。この69期の先輩たちは昭和23年の春、旧制松江中学4年を終えた時点で、学制改革によって創設された新制の松江第一高校の2年生に進んだ。そして翌24年3月、希望する者は新制高校3年生に進むことなく、松江中学5年修了の69期卒業生として赤山をあとにした。

そして、今回の学生ゲスト諸君の中の2名は平成30年に卒業した新制の69期生なのである。松江中学69期という、とてつもなく長い歴史を感じさせた数字に新制が追いついたのである。私は11期、卒業してもう58年経つのか、そういえば孫が一昨年大学生になったのだったと改めて思った。

旧制69期の同期生にあたる1期の伊藤雅義先輩と69期の学生ゲスト君が並んだショットを撮っておけばよかったと悔やまれる。「新旧」を省けば、歴史的な「同期生」の貴重な1枚になるところだったのだから。

60周年を終え、新しい10年のスタートとなる今年は、新しい元号の元年でもある。

会の益々の発展と、会員の皆さんが健康で70周年を迎えられることを願っている。



## 60周年記念会報寄稿「近畿双松会に寄せる思い」

## 「絵が取り持った・ご縁」

~~近畿双松会との出会い~~

## 小泉 勝是(14·昭和38年山口高校卒)

改めて近畿双松会が設立60周年を迎えられたことをお慶び申し上げたい。

設立来60年もの長きにわたってここまで立派に 維持されてきたのは、偏に歴代の役員や会員の皆さ んが母校を思い、故郷を思って、熱意をもって、結束 して、努力してこられたからに他ならない。

近畿双松会に入会してアッという間に6年が経過した。私と近畿双松会を結びつけたきっかけは松江の風景を描いた「絵」である。



水彩画:松江大橋川・矢田の渡し付近(2012年)

私が属する絵(水彩画)のグループの2012年の展覧会に訪れた20期の山嵜麻里子さんが、偶然にも「松江・大橋川」という作品タイトルを見付けたからだ。

自己紹介に松江出身と略歴を書きながら、私は一 度も松江の絵を描いたことが無かったので、この絵 には特別に「松江・大橋川」という地名を書き込ん でいた。

彼女は、忘れもしない台風が正に関西を通過せんとする大荒れの日に会場にやって来た。初対面の彼女の第一声は、『北高の出身ですか?』で、私が怪訝な顔をしていると、『それでは一中ですか?』と矢継ぎ早だった。石橋町生まれ→北堀小→一中→松江高校→〈転校〉→山口高校が経歴の私には、"北高"という言葉が直ぐに理解できなかった。



それまで「双松会」という名前は全く知らなかった。後日談であるが、2016年に亡くなった父親の遺品をチェックしていたら双松会名簿の発行案内状が目についた。私は直ぐに注文した。届いた名簿を見て、何と父親は松江中学卒の正統な?「双松会員」だったことを初めて知った。何とも不思議な「ご縁」である。

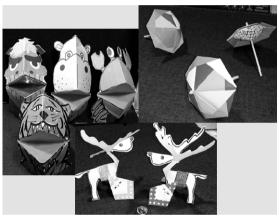
その後、わが身は当時の松本事務局長(16期)に 委ねられ入会審査面談となった。私は1年生の一 学期だけ松江高校に在籍していたというだけで、O B生ではないので躊躇があった。結局松本事務局 長の心あるご配慮があって近畿双松会に入会させ て頂くことになった。総会に出席した時に着用す る名札には、[高14(山口高)]と書かれており、時々 「それは何だ?」と聞かれるが、今や知る人ぞ知るで、 私の看板になっている。

入会後、2012年度の総会で早速にデビューした。 以来毎年開催される総会は勿論、歴史ウォーキング、 里山ハイキング、文楽鑑賞会、落語鑑賞会、・・・な どの各種イベントに積極的に参加し、年齢を超え て沢山の方々と懇親を深めることになった。自分 では考えもしなかった展開で、今までの人生には無 かった新しいお付き合いのスタートだった。

私が絵を描き始めたのは56歳の時、関西新空港建設に参画した異業種メンバーが立ち上げた水彩画グループに誘われて入会してからだ。北堀小6年の担任・松村先生が絵の先生で、よく写生に連れ出してもらったが、この時以来ほとんど絵なぞ描いた記憶がない。この会では毎月一回のスケッチ会と秋にグループ展を開催している。私の趣味は絵ですともっともらしく掲げているが始めた動機は自分の意志ではなかった。この絵が今や私と近畿双松会の方々との縁を結ぶ道具になったのだから本当に不思議である。

近畿双松会に繋がりがもてたあと、翌2013年に は大阪府高齢者大学校(高大)に京都から越境入学 することになった。絵に関係した「似顔絵」を学ぶ クラスに応募したが、人気度が高く定員オーバーで 見事に落選した。仕方なく定員割れで残っていた 「子ども教室」に応募しなおし入学ができた。

「子ども教室」にしたのは、最近の子ども達が理 科離れの傾向にあり、何とか理科に興味を持っても らえるよう、ボランティア活動をする要員育成が目 的であると聞いたからであった。理科の勉強だけ では面白くはなく、子どもたちが喜んで参加してく れるオモチャ作りも合わせて学べるところが気に 入った。



子ども向けのオモチャの一部

以来5年間、高大では平日に子ども向けの科学の授業、科学実験、オモチャ作りを学び、休日には学んだことを子どもたちに教えるボランティア活動に励んでいる。これも「絵」がきっかけの「ご縁」である。毎年新しいクラスの40人近くの人々(シニア)との交流が出来て、かつまた伸び盛りの子ども達と



水彩画:堀川めぐり(2018年)

の交流で元気や大人には無い思わぬ発想をもらっている。

近畿双松会のご縁で更に松江観光大使も引き受けることになり、毎年絵のグループ展に松江の絵を描いて出展することを続けてきた。これで展覧会の集客は勿論、松江への観光客招致にも多少ながら貢献できることを願っている。

昨年2018年2月に松高の大先輩の村尾俊治さん (11期)、田中一男さん (11期) に誘われ滋賀県の余 呉湖にワカサギ釣りに出掛けた。丁度うまいタイミング?で雪模様となり、余りの寒さに指がかじかんで、針にエサもつけられないほどの冷え込みになった。

残念ながら釣果は今一つであったが、湖では水鳥が元気に戯れ、日差しを浴びて輝く水面や周囲の家並みと背後の山々の雪景色は見事というほかなかった。この景色を早速絵にして2018年秋の展覧会の一枚として出展したのは言うまでもない。これも近畿双松会の仲間付き合いのお蔭と感謝している。



水彩画: 余呉湖の冬景色 (2018年)

最後に、60周年記念講演で松江観光協会・観光文化プロデューサーの高橋一清さんにお会いすることが出来た。実は高橋さんは、私が山口高校に在籍した時の "同期生(同学年) "だということを事前に聞いていたが、直接にお話して間違いないことが確認できた。近畿双松会に入会したことがここまでの繋がりをもたらすとは、これは正しく奇遇だと暫く感激に浸った。

《おわり》

## 60周年記念会報寄稿「近畿双松会に寄せる思い」

## 「諸行事における企画と準備の熱意」

三成 宏二(16・昭和40年卒)



近畿双松会・60周年 おめでとうございます。 今後とも長く続くことを祈っております。

平成30年度諸行事のうち「歴史ウォーキング」と「里山ハイキング」について、企画から準備等について感じていることにふれてみたいと思います。

「歴史ウォーキング」は、伏見・東福寺を散策することで準備されていましたが、9月30日当日に台風の直撃を受け、残念ながら中止となってしまいました。天候には勝てませんけど、参加を予定された方々は大変残念でした。しかし、中止に至るご連絡も的確、丁寧で納得いたしました。

この企画を立てて準備をされた三好資子副会長 (20) と、お手伝いをされた方々の労力に対して敬意 をはらいます。

「里山ハイキング」については、9月12日の企画 担当の田中由美子さん(16)と、お手伝いの松本耕 司会長(16)からの、参加予定者に対しての最終案 内のメールを以下に紹介します。準備をしっかり されている熱意が伝わってきて、「さあ、行こう」と いう気になりました。

⇒⇒『春のご案内では、女人高野の室生寺・壺坂霊 験記の壺坂寺・日本有数の山城である高取城の三 つを候補とするとお知らせしました。その後、下見 の結果、ハイキングコースとして難渋を極めること がわかり、また下見日が大阪北部地震と重なり途中 で中止にするなど、都合三回の下見では決着がつか ない状態となりました。

そこでゼロクリアーして、涼しくなってから再検 討をすることにし、漸く昨日ワンチャンスの好天に 恵まれ、新しいコースでおこなうことに決した次第 です。

コースは、奈良市郊外で、古墳群をめぐる遊歩道で"歴史の道"を中心とし、平坦な5~6キロ、杖などの装備も不要で、いざという時でも市街地に近く、我々向きのコースであると思います…』(後略)

ここで、奈良市郊外の古墳群を説明したいと思います。

平城宮跡の大極殿の北側に広がる一帯に古墳群があります。古墳時代は、日本の歴史の中でもなじみの少ない時代でもありますが、西暦200年頃より大規模古墳の築造が始まり、550年頃まで続いたと言われています。

以下に、古墳群の歴史と流れを概略で述べたいと 思います。

※()内は墳丘規模全長

- ◆250年~「柳本古墳群」(桜井市)
- ・主な古墳 10代崇神天皇陵 (240m) / 12代景行天皇陵 (300m)など
- ◆350年~「佐紀古墳群」(奈良市)
- ⇒今回ハイキングの古墳群
- ・主な古墳 13代成務天皇陵(220m)/ウワナベ古墳(220m)/仁徳天皇皇后陵など
- ◆450年~「百舌鳥・古市古墳群」(堺・羽曳野市)
- ⇒世界遺産申請
- ・主な古墳 15代応神天皇陵 (425m) / 16代仁徳天皇陵 (486m) / 17代履中天皇陵 (365m) など

前記の「佐紀古墳群」が、今回のハイキング場所のひとつで、古墳時代中期の古墳群で美しい周濠でかこまれていました。

こうして、10月28日(日)は天候にもめぐまれ、無事、終了しました。オプションで、足に自信のある方は伎芸天と紅葉で有名な「秋篠寺」を訪ねることができたのも大好評でした。これも、事前の企画と下見などの検討を十分に行われているからこそできることなのでしょう。準備をされた皆様には心から御礼を申し上げます。

このように、近畿双松会の諸行事に対する企画と 準備の綿密さ、熱意、参加者に対する配慮はいつも 素晴らしいと感じています。これが下支えとなり、 これからもますます充実した近畿双松会として継 続されんことを心から願っております。

## 「近畿双松会に寄せる思い」

大浦 綾子(22・昭和46年卒)



2012年11月、初めて「近畿双松会・総会」に参加した年は、折しも会則改定の年、新生近畿双松会を高らかに宣言された年だった。

「有志の集いから、卒業生みんなの会へ」近畿在住のすべての人が会員であるとして活動していくということで、明るくオープンな雰囲気の中、参加した同期三人で同期会の今後を熱く語り合ったのを思い出す。

しかし、同期会の気楽な集いと違い、「近畿双松会」は、多くの立派な先輩方がその時々に様々な思いで運営されてきた長く尊い歴史を持つ組織であり、誇らしくはあるものの、自分がその組織の一員であるという実感をどうしても持てず、どこか身の置き所が無いような感覚にも苛まれていった。「会報」や「ホームページ」は充実していて楽しくて、すぐにファンになったが、あくまでも読者であり、当事者意識が生まれることはなかった。

このまま足が遠のくかと思ったとき、大きな転機が訪れた。親睦行事への参加がきっかけだった。2017年9月の「歴史ウォーキング」(井伊家のおひざ元・彦根を歩く)だ。この日は、同期の友人を巻き込んで大きく遅刻するという大失態を演じてしまったが、皆さんは温かく迎えて下さり、その失態ゆえか、たくさん声をかけて下さった。たくさんの温かさを感じた一日だった。

一週間後、写真とともにA 4版のまとめのお手紙が封書で届けられた。そのお手紙を読んで、またもや破顔してしまった。なんて優しく温かい記事なのだ。続いて、ホームページに時系列に並べられた写真を用いたまとめがアップされた。「ああそういうことだったのか!」と知識を深める記事も豊富だ。一か月後の「『里山歩くぞ!』ハイキング」(星田園地)への参加も即座に決めていた。会を運営して下

さっている先輩役員の方々に甘えながら、親睦行事 を楽しんだ。

2018年度の「歴史ウォーキング」はあいにくの雨で中止だったが、「『里山歩くぞ!』ハイキング」(奈良)は担当の先輩方が、複数の候補地を全て歩き、一つに絞られると、今度はどの辻を曲がれば一番美しい風景を望めるか、などと何度も下見を重ねられたという。「ねえこの景色いいでしょう?」とおっしゃるその景色を眺めながら、大きく息を吸い込んだ。

道々、植物に造詣の深い先輩の植物講義に心ときめかせ、歴史に精通されている先輩の説明に瞠目する。道すがら、並んだ先輩や後輩と交わす何気ない会話。その一つ一つに感動し、興奮している自分がいる。あの戸惑いや躊躇いはどこへ行ってしまったのか、もはや「近畿双松会」に垣根はなくなっていた。

さらに嬉しいことがあった。「会報」の記事を通じて部活の後輩と48年ぶりに再会できたことだ。「会報」に載った私の写真と名前を見て、「もしかして?」と松本会長に問い合わせてくれたのだ。JR 姫路駅での待ち合わせの日、彼女は48年前と全く変わらない愛くるしい笑顔で迎えてくれた。お薦めのレストランでランチをしながら、お互いに半生を報告しあい、当時の思い出を語りあった。これからも続けて会おうと、まずは「近畿双松会・総会」での再会を約して別れた。そして12月2日の総会、もちろん再会を果たし、しばしの談笑を楽しんだ。

この短い一本の縦糸が愛おしい。「近畿双松会」 に導かれたすべてのご縁に感謝の気持ちで一杯だ。

# 60周年記念会報寄稿「近畿双松会に寄せる思い」

# 「同期参加者が 2 倍!になった喜び」 安達 宏昭(43・平成4年卒)



近畿双松会の設立60周年、まことにおめでとう ございます。私は43期で45歳になりましたが、長 らく総会参加者の中で、最年少(学生ゲストを除く) として出席してきました。そのお蔭で、諸先輩方に とてもかわいがっていただき、大変感謝しておりま す。この居心地の良さから、総会には毎年参加する ようになり、2010年には幹事と言う大役(?)も仰 せつかっております。

このとても有難く、目立つポジションですが、正直に申し上げると、同世代の参加者がいないことを、大変寂しく思っておりました。私の次に若手となるのは、5期上の長谷川浩之さん(38期)が、よく総会に参加されており、今回、幹事に新しく就任されました。若い世代の幹事が増えることは、大変喜ばしいことです。今後は、38期と43期の間を埋めること、そして私よりも若い幹事の誕生に期待したいものです。

今回、この原稿を執筆するきっかけは、同期である今西亜子さんが総会に参加してくれたことです。幹事となって8年、同世代の勧誘に努めておりますが、なかなか総会参加にはつながりませんでした。今西さんの参加で同期参加者が2倍となったのです。たった一人ですが、2倍!という響きが、私の喜びの表れです。

実は、今西さんは前回の総会に初めて出席されましたが、私が学会と予定が重なり、総会に参加できなかったので、2倍と表現できるのは、1年越しの悲願達成でした。前回の総会では、松本耕司会長(16期)が初参加である今西さんに大変配慮してくださり、きっと今西さんも私が感じてきた居心地の良さを体感したことでしょう。その証拠が、2年連続となる総会参加につながったと考えております。さらに同期に会えるとなれば、喜びも増え、ますます

総会に参加したくなると思います。この好循環を、 ぜひとも若い世代の北高OB・OGの皆さんにも 共有いただきたいです。

しかしながら、なかなか最初の一歩である総会参加にはつながりません。 学生ゲストも就職先が関西以外であれば、その時点で総会に継続的に参加することは難しくなります。

今回の総会では、同期参加者が2倍!になることよりも、もっと驚くべきことがありました。学生ゲストではない20歳代の方が総会に参加してくれたことです。今回の出席は、60周年記念謝恩大福引き大会の魅力に惹き寄せられたことが遠因であることは確かですが、実のところは参加費無料の魔力です。特に20歳代であれば、参加費のハードルは高いと思います。次回の参加はどうしようかなぁと、参加費無料期間(北高卒業から6年間、概ね24歳まで)が終わる若手参加者のつぶやきが、とても心配です。

同世代の参加者がいないというハンデがある中で、総会に参加することの動機を保ち続けることの 手立てを考えなければ、好循環は生まれないと思います。まずは総会に来ていただくことが大切なので、40歳以下の若い世代に限定して、初参加者への参加費優遇が考えられます。

また、初参加となる同期を誘って、一緒に参加する場合は、勧誘者にも特典を与えることや、さらに同期がいない場合に限定した「同期参加者が2倍キャンペーン」も有効な策かもしれません。その他、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)による情報発信の強化や出欠確認など、若い世代に合わせた対応も大切だと考えます。

既に私自身も若い世代の感覚を理解しづらい年齢になっていますので、学生ゲストや初参加者に対するヒアリングやアンケート調査などにより、真の

ニーズや課題を明らかにする必要もあると思います。皆さんで知恵を出し合い、良い対策を検討・実施できれば、若い世代の出席者が増えることでしょう。

一方で、同窓会組織として、必要性や価値が高まるのが、現在の私の年代、つまり40歳代後半や50歳代になってからなのでしょう。諸先輩方の話を聞いても、これまでも同じような経過があったようです。無理に若い世代を増やす必要もないかもしれません。40歳代(当会の中では若手と言われる世代かもしれません)の参加者を増やすことが、最初の努力目標であり、北高卒業生により連綿と受け継がれてきた近畿双松会の継続・発展のためには、一番大切なことなのかもしれません。

私は同期参加者が2倍!になった喜びを伝えたく、 本原稿を執筆することにしましたが、できれば高1 期から学生ゲストまでが、シームレスに続く同窓会 組織になればと願う気持ちもあり、近畿双松会に寄 せる思いを付記しました。

参加者をゼロ人から一人にすることは、無限倍の 喜びになりますが、それ程、難しいことだと思いま す。私は当会が、いつ参加しても、少なくとも自分 が高校に在籍していた3年間で、一緒に通った学生 に会える、つまり、その当時のことを共有できる卒 業生(上下2年)と語りあえ、楽しく過ごせる総会に なることを期待しております。

私は最年少幹事として、今回の喜びをきっかけに、 同世代や若い世代の勧誘に一層尽力する気持ちが 強くなりました。引き続き、皆様のご支援ご協力を お願い申し上げます。

#### ★速報!東(右)側「四代目の松」の植樹式

2019 (平成31)年3月24日(日)、たくましく 育つことを願って厳かに執り行われました。



快晴、クレーンも元気!



田原神社・藤脇宮司



願いを込めて!



双松植樹十勇士!

# 「出雲大社神楽殿の大しめ縄 6年ぶりの掛け替え」

佐和田丸(10·昭和34年卒)

出雲大社神楽殿の大しめ縄が、6年ぶりに掛けかえられ、昨年7月17日奉納されました。

この半端ない世紀の神業は、飯南町大しめ縄創作館(写真)で制作されました。その制作工程が飯南町広報「広報い一なん」4~6月号で3回にわたって紹介されています。

貴重な資料と思われますので、転載しその制作工程をたどりたいと思います。

出雲大社は私ども出雲人にとって、身近な存在でありますし、また、創作館のある飯南町頓原(旧飯石郡頓原町)は、なにを隠そう私のふるさとでもあり、 PRしたい思いもあり、投稿させていただきました。

余談になりますが、同館は全国各地の神社に大し め縄の奉納実績があり、地元では高齢者にとって いつまでも仕事場があると喜ばれているようです。



#### 大しめなわ創作館:

しめ縄作りの工房見学や体験ができる施設。大しめ 縄の町・飯南町に伝承される技術と文化を体験できる。 飯石郡飯南町花栗54-2 tel: 0854-72-1017



ドバイやハワイにも奉納されており、日本一というより世界一という存在です。なぜなら、しめ縄をつくっているのは日本しかないのですから・・・。

今、空母化するとかしないとか、話題の護衛艦「いずも」の館内には、同館製のしめなわが飾られ、世界の海を航海しているとのことです。 同艦のみならず、日本を守ってくれればと、ひそかに祈念しているところです。



「広報いーなん」4~6月号

マール・アング くくく だっかいしょう くくく きゅうしょう くくく しゅんかい くくく もっとういく くく だっ キャング・く こうしゅう フェラくくく だっ しゅうりょう 〈第1回〉

# 平成30年7月



飯南町注連縄企業組合では、 昭和30年代より出雲大社神楽 殿の大しめ縄を制作していま す。今年は7本目のかけ替えと なります。

気になる大しめ縄の制作行 程を、3回に分けて紹介します。

#### 間合せ

ちん オート・バイノラの チャ・ト・ハイノクター あまいし ハイノアの のけいしいこれがまつ から フリストへい

00

1

ハハハシ

40.77

国道54号活性化アクションプラン推進協議会 (い~にゃん人つなぎ協議会) 電話76・2864(地域振興課)

#### はじめに

出雲大社神楽殿の大しめ縄は、長さ13.5m・重さ4.5tを誇ります。昭和56年、現在 の神楽殿が竣工し、その大きさに合わせた結果、日本最大級となりました。以降、稲 佐の浜からの潮風や雨風による傷み異合に合わせて、数年ごとに新調かけ替えが 行われています。

全ての行程で使用する稲ワラの量は1.5ha分です。

#### 行程① 吊り木の伐採・搬出

町内産のヒノキを伐採し、傷つけないよう輸送します。4.5tに耐える元口65cm以 上かつ高さ20m以上の真っ直ぐ成長した木でなければいけません。また、搬出時 短く切り分けることができないため、倒す角度や伐採する木の選定は容易ではな いとのでと

#### 行程② 中芯づくり

大しめ縄の大元となる中芯は、コシ ヒカリのハデ干しワラとしめ縄専用ワ ラを使って、長さ16m・最大直径1.5m を2本作成します。

#### 行程③ 菰(こも)編みと菰つなぎ

中芯を巻く外側の菰を作るために 藁を束ねます(菰編み)。そして先代よ り継承する独自の技術で、編み込んで いきます(菰つなぎ)。



#### 行程④ シメノコづくり

シメノコ(メの子)は重さ400kg。3本つ くります。五穀豊穣を表し、お米の生育に 必要な、雲・雨・雷を表しているとも言わ れます。通常は、撚り合わせのときにシメ ノコを取り付けますが、出爨大社神楽殿 の大しめ縄は巨大なため、現地で取り付 ける難作業となります。

#### 行程⑤ 飾り縄づくり

大しめ縄を吊り下げる化粧縄です。左 綯い、右綯いの2本の縄を合わせ1本の 巨大な飾り縄にします。

#### 行程⑥ 吊り木の皮はぎ

3月に搬出し、乾燥させた槽の皮をは ぎます。キズをつけないよう高圧洗浄機 で厚皮・薄皮をはぐ予定です。

#### 行程⑦ 菰掛け

長さ16m、最大直径1.5mの中芯2本を、菰で包み込みます。

広報いかん







10 - 5 ) ) (( Co - 5 ) ) (( Co - 5 ) ) (( Co - 5 )

#### 行程⑧ 撚り合わせ

関係者や地元住民など、総勢約80名と 重機で撚り合わせます。石橋棟梁の号令 に合わせて、大胆かつ慎重に行います。 一発勝負のため緊張が走ります。

#### 行程⑨ 早朝搬送

大型特殊トレーラーに積んで、飯南町 から出露大社へ向かいます。この際、警 察へ道路の通行の申請をして、許可をも らいます。

#### 行程(1) 日本一大しめ縄かけ替え

取り外しからかけ替えには、丸一日を 要します。役目を終えた大しめ縄は、飯南 町の森へ安置し、やがて再び土に遭りま シンサかえはク目/クロ子定

さいこに 大しめ縄の撚り合わせは7月15日に、 大しめなわ創作館で行われます。

現在、大しめなわ創作館の館内は制作 中の大しめ縄でいっぱい。町をあげて、み んなで応援しましょう!





「広報いーなん」4~6月号 拡大

4 ....

The second second

かの きのンパンハンカの カラン・パンハン

# 「平成最後」・戦後73年の夏の思い出 山本輝夫(12・昭和36年卒)



#### (1)「収容所から来た遺書」で先輩を知る

戦後73年の夏は"いのち"に思いを巡らし、手に とったのが辺見じゅん著『収容所から来た遺書』(文 春文庫)。

な、なんと主人公の山本幡男さん(M41生、隠岐郡西ノ島町出身)は、同姓もさること乍ら、「松江中学46期(野球部スコアラー係)~東京外大・露語科卒」の大先輩。加えて長男顕一氏も「松高5期~東大~大学教授」の秀才。驚きの中にも同窓のご縁も感じ一気に読破。

「満鉄」勤務で満州に渡ったところを、露語力を買われて陸軍に応召。その後、露軍の捕虜となり、リーダーとなって露軍将校と諸々の待遇改善交渉にあたり、やがて終戦前に酷寒  $(-40^\circ)$  の地での過酷な労働、飢えの俘虜収容所生活で、終には病に倒れ、息を引き取る。

直前に、母、妻(モジミ、松江の小学校教師)、子供(男子3人、女子1人)ら宛に病床で残した遺書(四通、ソ連製の粗末なノート15頁ぶん)を、没収を逃れるため、彼を慕う仲間に"一言一句漏らさず、丸暗記して・・、帰還後、各々が紙に起こし遺族に届けることを依頼"して、45歳で黄泉の世界に旅立つ、という顛末に感涙しながら、襟を正して手を合わせつつ拝読。

シベリア連行の日本人(民間人含む)60万人余が、 日々望郷の念を抱きつつ果てた数は、実に7万人以 上と言われる。

山本さんはS23年、反動、反ソ分子のレッテルを 貼られ、帰還列車から途中下車させられ、通称「地 獄谷」と呼ばれた収容所に。 生前から妻宛の手紙で「教育だけは、子供達の一 生の財産なのだから・・」とあり、共感。

遺書は、入院中のS29年7月2日付で、特に〈子供らへ〉の冒頭で、『君達は、どんなに辛い日があろうとも、人類の文化と創造に参加し、人類の幸福を増進するという進歩的な思想を忘れてはならぬ。 ヘンパ キョウゲキ 偏頗で矯激な思想に迷ってはならぬ、どこまでも真面目な人道に基づく、自由、博愛、幸福、正義の道を進んでくれ・・』と綴って。

愛情に溢れ、格調高く、平和な世界に未来を託して、示唆に富んだ山本さんの人生観、不屈の精神に 頭を垂れ、平和ボケの身を猛省し、「終活」への道標 にせねばと。

因みに、愚父は山本さんより2歳下で、南方(ジャワ、スマトラ)を転戦後、S21年(小生4歳時)無事帰還。

その後、弟、妹4人が誕生、賑やかな家庭になった。 戦地では、ネズミ、蛙、蚊は貴重な蛋白源だったと 聞いてはいたが、シベリアでは他に草の根や、毒草、 毒キノコも食し、気が狂う者も出たとあり、絶句。

そのシベリア、極東地域開発を含む経済協力をロシアに続ける我が国の現状は、領土問題打開の戦略と言うけど、山本さんはこの国策に"怒って"いるのでは?

宿命に生まれ、運命に挑み、使命に燃えた山本さんの遺書から「良く生きる」とは、どういうことなのか?

かくも偉大な神様のような先輩を戴く私達は感謝し、誇らしく、万感の思いを込めて、この稿を書きました。充分に意を尽くせないのが残念ですが、

未だ読んでいない諸兄姉や、戦争を知らない後輩の 方々に、ぜひご一読いただければ望外の喜びです。

#### (2)甲子園「100回連続予選出場校」

第100回記念甲子園大会の入場行進に、北高が「100回連続予選出場校」として、大社高校とともに、全国僅か15校に交じって、主将が校旗を掲げて堂々行進。

かつて、愚弟(17期)も主将(捕手・4番)で頑張っていた姿とダブり感慨一入。

### (3)文藝春秋の"同級生交歓コーナー"

25年間余り愛読の「文藝春秋」〈7月号〉"同級生交歓コーナー"に、北高(27理6期、S51年卒)の秀才6人、才媛2人が掲載されているのを目にし、初(?)の快挙に誇らしく思い、早速、近畿双松会松本会長に連絡。記憶では4~5年前の同コーナーに「南高卒」の2人(松浦正敬松江市長と当時の財務事務次官)が載っているのを見て以来、北高の登場を切望してきたこともあって快哉!

松本会長からは、「翌日買いに走り、関係者に広報 した」旨の返信が届き、迅速で誠心誠意の対応に感 謝!

誌面のコメント冒頭は「藩校の流れを汲む松江 北高は旧制松江中学の「文武両道」の伝統を受け て・・・」(原文のまま、西尾康英氏記)で始まり、 各界で活躍中の同級生紹介と素敵な笑顔に"ハイ、 ポーズ"もバッチリ!

(なつかしい松江弁での一言があれば、もっとヨ カッタダドモナァー。)

### (4)孫の友人の来日

英・オックスフォード大に脳研究医として勤務 (10年) する三男の長男(孫・大1) がワルシャワ (ポーランド)の友人を連れて夏休み帰国。

一週間の滞在中は、ホストファミリー気分で貴重 な体験を。グローバル化の一陣の涼風が吹き抜け た夏。 同国は、日本の国土から九州と四国を除いた面積に、人口3千万人、サッカーに次いで空手、柔道人口が多く、日本語教室も盛況な親日国。 サムライ・ブルーがW杯サッカーで同国に 0 対 1 で惜敗したのも、彼に花を持たせる結果で良かった!?

都心の超高層ビル群に目を回し、「かき氷」が和 食No.1の忘れられない味・・と。

別れの朝、彼が「お食事、おいしかったで~す!」(孫の通訳)に思わずハグ。また、いつか帰ってきて!と。

箸も上手につかう金髪、青い目の好青年の来訪は 未だに夢を見ているようで、クールジャパン戦略に つながる一粒が、やがて大きく育つ事を願い乍ら、 孫に感謝。

#### (5)ナチュラルエイジング

猛暑克服は、「読書に集中することと見つけたり」 の決意で、午前中ジム、午後は氷ハチ巻きで頭、首を 冷やしながら、文庫本、単行本、合わせて23冊を読 み切る。

中で五木寛之著〈健康という病〉は、自分のことが書かれているようで冷や汗もの。今後は頭を「アンチエイジング」から「ナチュラルエイジング」に切り換えて行こうと。

香港で発禁処分となった話題作、村上春樹著〈騎 士団長殺し(1・2部)〉も読了。

# 明日ありと思う心の仇桜 夜半に嵐の吹かぬものかは

(親鸞聖人)

#### ◆追記

光輝(・・)(後期高齢者)2年生にもなると、良き友人、知人、親族の訃報に接するたび、「死」が身近に感じられ、"一日生涯"を貫こうと・・。

だんだん、だんだん

2018.9.9記

# 「人づくり文化を松江の民力に」

(「湖都松江」第36号より転載)

松本 耕司(16・昭和40年卒)



◆前書き:私は昨年春から夏にかけて、高橋一清さんが編集統括をされる松江の情報誌「湖都松江」の「松平不昧公に学ぶ」というテーマでの懸賞感想文募集に、浅学を省みず応募してみた。

2018年は不昧公(1751 ~ 1818)没後200年の節目の年だったが、「湖都松江」では2年半近く特集を組み、不昧公が茶人・文化人大名にとどまらず、破綻していた松江藩の財政を建て直した事績を詳しく取り上げられた。私も目を開かれる思いで愛読していたが、その特集の最終企画が読者からの懸賞感想文募集だった。

しかし、この「何を学ぶか?」というお題は私にはいさかか難しく苦心惨憺する羽目になったが、結果は「佳作」という評価をいただき、同36号(2018/11月発行)に掲載された。

人生後半の冒険の結果が「佳作」ということは、 私にはなかなか味わい深く、居心地のよい響きでも あると感じている。

近畿双松会員の中には、「湖都松江」の読者の方も多数いらっしゃるので、この会報に再投稿することにはためらいもあるが、お許しいただければ幸いである。

#### \*\*\*人づくり文化を松江の民力に\*\*\*

大阪に住む私は、生家が本庄にあることから帰郷の際には境港から江島大橋 (ベタ踏み坂) を通ることが多いが、そこから右に見る島根半島、正面に広がる中海、大根島、嵩山は絵のように美しく、海、山の自然の幸にも恵まれて、古代から栄えてきた豊壌の地であったことがよくわかる。

郡部育ちの私は、不昧公のことは深い知識のない まま今日まできたが、今回の貴誌「不昧公特集」で、 今になって明治生まれの父がよく薄茶をたてては 飲んでいたこと、集落に沢山の「櫨の木」があったこと、お向かいの大根島は朝鮮人参の島だと聞いたことなどの幼い時の記憶を、いずれも松江藩の改革につながっていたのだと、今更ながら嬉しく思い出している。

松江藩七代藩主治郷(不昧公)は、父六代宗衍公が 延享の改革に頓挫して勇退をした無念の思いを引 き継ぎ、この自然の恵みを十分に活かした専売事業 を育て(殖産興業)、破綻に瀕した藩財政を立て直す とともに、茶道を核にした食文化、工芸品などの芸 術文化の育成と、その文化の産業化にも努め、繁栄 を松江にもたらした。

これが、明治維新以降の言わば松江にとっての不 遇の時期を経てもなお、今に続く松江の原型となっ ており、まさに松江にとっての大恩人である。 改革 の精神にやや崩れが見えた時には、家臣に「貨殖理 財につとめよ」と叱咤激励するなど、ただの文化人 殿様ではない、文武両道に秀でた、まさにスーパー スターであったことがうかがえる。

こうして出来上がった松江を心から愛し、その神髄を古くからの歴史、伝統とともに広く内外に紹介したのが小泉八雲であり、さらに時代が下って「暮らしの手帖」編集長の花森安治であったと考える。この二人の文章の力で多くの人が松江の風土と文化を知るようになったことを考えれば、不昧公から、小泉八雲、花森安治へと続く流れは松江にとっての宝物であるように思う。

特に、花森安治が1964(S39)年に「水の町松江」で紹介した「日本人の暮らし方の、ひとつの原型が、ここに生きているのである。空気の明るさと、あまさと、この上なく美しい町並みである。日本人みん

なの心になぐさめと安らぎを与えてくれるなにかが、ここに生きている。」という一文は、多くの日本人に「安らぎを与えてくれる町、松江」のイメージを定着させたもので、私は大好きである。

全国のどこにでもあるのではないこの松江らし さを、これからも守り育てていくことが松江の文化 にとってはとても大事で、延いては不昧公に対する 恩返しになるのではないかとも考える。

さて、「不昧公に何を学ぶか」と考えた時、時代も 環境も違う今、殖産興業、芸術文化の創造、文化の産 業化、と言ってもそれは容易なことではない。その 努力を続けるのは不可欠だが、確実に言えることは それを推進する「人をつくる」ことが基盤として最 も大事だということである。

宗衍公も不昧公も江戸藩邸、松江城下における家臣たちへの経世の学のみならず、庶民の教育にも随分と力を注がれた。それが松江藩の改革を支える「松江の民力」となったと言えるのではないか。家老朝日家三代は元より、庶民の一人ひとりまで松江人らしい勤勉さ、質実さ、粘り強さをもって改革を支えたであろうことは容易に推測できる。

板垣衛武氏のご著書「松江藩のお種人参から雲州 人参へ」での小村新蔵親子二代にわたる艱難辛苦の 物語には胸を打たれる。明治維新で松江城を廃城 の危機から救った士族と庶民の力も、山口信夫氏の ご著書「誇り高きのぼせもん」に詳しい。

こうした「松江の民力」は、結局は宗衍公、不昧公が人づくりに力を入れられたことが端緒になっている。これを受け継ぎ、今後に活かすためにも社会教育は勿論、学校教育の場でも子どもたちに松江の歴史や伝統や文化を大事にし誇りに思うことを教え、芯の強い人に育って欲しいと思う。

それが結局は、「人づくり」をベースに松江の文化・風土を維持し育てながら、新しい産業、文化の 創造の担い手を育てることになり、未来への期待を 明るいものにしてくれると思うからである。

. . . .

そう言えば、松江藩を支えた功労者の「朝鮮(雲州)人参」は、今どうなっているのだろうか。風の便りではなかなか厳しい状況とも聞くが、何とか新し

い枠組み、知恵 (殖産興業)で再活性化できないものかと思う。 先人の苦労を忘れない松江らしさ、即ち文化にもつながると思うのだが。

#### \*\*\*以上\*\*\*

◆後書き:あの苦心惨憺から半年以上が過ぎ、読み返してみると、なぜこのテーマにしたのかと、あらためて我ながら不思議にも思う。

一つは、ここのところよく耳にする「松江、島根の教育に対する危機感」が、私の心の深奥にもあったのだろうと思う。

もう一つは、幕末には軍艦を購入するほどの裕福 な藩となった原動力とも言える「朝鮮(雲州)人参」 の衰退がいつも気になっていたからであろう。

いずれも、何とか前進できる道筋がつけばと、あらためて心から願っている。

そして、私がこの冒険をしてしまったのは、文中でもご紹介した先輩お二人に触発されていたのだということにも、あらためて気づかされた。

お一人の「板垣衛武氏」は近畿双松会の先輩で松高5期。ご著書「松江藩のお種人参から雲州人参へ」 (山陰中央新報社刊1,200円)により、私は松江における「朝鮮(雲州)人参」の由来、先人の努力を遅まきながら知ることができた。

もうお一人の「山口信夫氏」は、北高16期の友人である山口槇子さんのご夫君で、近畿双松会の総会にもお出でいただいたことは記憶に新しい。ご著書「国宝松江城秘話・誇り高きのぼせもん」(今井出版刊1,500円)により、私は明治維新でなぜ松江城が廃城にならなかったかを詳しく知ることができた。

朝鮮(雲州)人参のことも、松江城のことも、その 故事来歴を知れば思いも深まり、知ると知らぬでは 大違いである。私を啓蒙いただいた畏兄お二人に は、あらためて御礼を申し上げたい気持ちで一杯に なった。

◆追記:山口信夫氏は、昨年、「松江藩栄光への道・ 律義者と不味さん」(今井出版刊、1,500円)を著わ され、不味68年の人生と、松江藩改革に壮絶な闘い を続けた律義者の家老朝日丹波の生涯を見事に活 写されている。

# 「実感した世界の歌 坂本九ちゃんの"上をむいて歩こう"」

梅木 降志(16・昭和40年卒)



1985年8月12日、日本航空123便の墜落事故で 坂本九ちゃんが逝去(享年43歳)して、今年は33回 忌にあたる。

1961年NHKの「夢であいましょう」で歌った「上を向いて歩こう」は、1963年アメリカのキャピトルレコードより「すき焼きソング」として発売され、世界的な歌となった。

それを実感した体験談が二つある。

少々古い話で恐縮だが、今から22年ほど前の1996年の夏のある日のことである。 坂本九ちゃんが亡くなった1985年から11年後のことである。

その日は、夫婦でのメルボルン・シドニーのオーストラリア旅行の最終日で、シドニーから私たちは日本へ、留学先のメルボルンから一緒であった息子はシドニーからメルボルンへ帰る日であった。

シドニーのホテルで息子と別れる前、多少時間があったので、ラウンジでコーヒーを三人で飲んでいたら、しばらくすると、ピアノの生演奏が流れてきた。

リクエストに応えてくれるかどうか判らなかったが、「上を向いて歩こう」をリクエストしてみようと思った。

Do You know sukiyaki song?と尋ねた。 答えは、Yes!

#### 感激!

チップを渡し、Please Playと言ったら、しばらくすると「上を向いて歩こう」が流れてきた。

それから7年後の2003年秋、パリでのこと。セーヌ川のディナークルーズに乗船し、ワインを飲みながら食事をしていたら、ピアノの生演奏が流れてきた。

シドニーのことを思い出し、「上をむいて歩こう」

のリクエストを思いつき、ツアーで一緒のIT企業のT社のN部長にチップを渡し、リクエストのお願いをした。N部長はプレイヤーと会話していたが、なかなかうまく通じていないようであった。(N部長フランス語は話せない)。しばらくして、N部長が席に帰ってきた。

N部長の話……「すき焼きソング」「ジャパニーズソング」などいろいろ話したが全然通じなかった。そこで、最後にと思い「上をむいて歩こう」のメロディーを口ずさんでみたら、やっと理解してくれた、とのこと。

そのあとは「上を向いて歩こう」の「すき焼きソング」にはじまり、「さくら」など日本の曲のオンパレードとなり、船上は、日本人旅行客が多かったこともあり、拍手の嵐に包まれた。

「上をむいて歩こう」が世界の人たちに支持され、 愛されていることを実感した二つの体験であった。

企業人としてほぼ 40年を全力で駆け抜けてきたが、仕事のこと以外ではこの二つの体験をよく思い出している。何故だかは自分でもわからないし、そういう時代であったのかもしれない。今にして思えば、いつも「前を向いて頑張っていこう」と心がけていた自分の気持ちに一番フィットしていたのだからかもしれない。

そう考えると、これからの人生こそ、なお「上を 向いて歩いていきたい」ものだと考えている。世界 の歌 坂本九ちゃんの「上をむいて歩こう」は、私の 心の支えになりそうである。

# 「広瀬育ち・・、山城に魅せられて」

森藤 哲章(16・昭和40年卒)



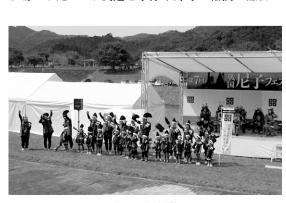
#### (1)第25回全国山城サミットに参加

平成30年9月23・24日の両日、平成6年に竹田城(兵庫県朝来市)で第1回山城サミットが開催されてから25回目となる全国山城サミット安来大会が、第7回戦国尼子フェステイバルと同時に開催されました。



全国山城サミット安来大会

私は19歳から奈良県で生活し、退職後も仕事があるため5年前の戦国尼子フェステイバルにも参加できなかったので楽しみにしていた大会でした。会場となった月山富田城跡周辺は私が子供の頃から景色になじみ・お花見会・山登り等を楽しみ、富田川河川敷は砂で覆われていて子供達の絶好の遊び場でしたので、友達と水泳や野球・相撲・磁石で



富田川河川敷

の砂鉄収集等をして遊んだ古戦場です。

平成27年から五年計画で整備中であり、子供の頃には登り難かった月山の七曲りの登山道も整備され、高齢者でも登りやすいように手摺りもつけられました。戦国時代には無かったと思われる頂上のうっそうと生い茂っていた森林は伐採され、足立美術館等の遠方から見た月山は変貌し、頂上からの見晴らしも遮るものがなくなり、良くなりました。雑草や土で覆われていた石垣も現れていて、ここにも石垣があったのかと驚きました。

サミットまでにどのように整備されるのかなと楽しみにしていましたが、会場としては充分な状況になっていました。子供の頃、遊び場の一つであった太鼓の壇は大会当日には夜間にライトアップもされました。

9月23日には広瀬の町並みや富田川河川敷で戦国時代を偲んだ時代絵巻が盛大に繰り広げられました。平成元年から5年に一回開催されている戦国尼子(最盛期には山陰山陽十一州を従えた戦国大名『尼子氏』)フェステイバルと同時開催でもあったため、鎧兜等の手作り衣装も多く整っていました。小日向えり氏(歴史アイドル)を赤い甲冑を纏った姫に見立てた武者行列は、広瀬中学校の鉄砲隊を先頭



武者行列



備州岡山城鉄砲隊



引き続き、富田川河川敷で剣舞クラブ(広瀬小学校)・備州岡山城鉄砲隊演武(五十匁の大筒も登場)・松村邦洋氏達のトークショー等が行われました。「雲乱れ飛ぶ山陰の麒麟児山中鹿助・・・」の伴奏での剣舞クラブの舞いには、小学生の頃を思い出して涙しました。その後、小日向氏や松村氏達も月山頂上まで登頂されたようです。

幼少時に「広瀬の町は江戸時代に洪水で町並みと川が入れ替わった。」と聞いていましたが、上流のダムや堰堤建設等のため、実際に、富田川河川敷の砂浜の下から昭和40年頃に江戸時代の町並みの建物跡・石組・陶磁器類等が現れ始め調査が進められました。富田川河床遺跡です。1666年の洪水で川の流れが変わり富田城下の町並みは土砂にすっかり埋もれたようです。山中鹿助と品川大膳の川中島の戦いの場所は名前のとおり本当に「川の中の島」だったのだと感動もしました。

9月24日には安来市総合文化ホール・アルテピアにてサミットが開催され、戦国時代史研究の第一人者である小和田哲男氏(日本城郭協会理事長)、中井均氏(滋賀県立大学教授)、荻原さちこ氏(城郭ライター・編集者)達の講演がありました。

松村邦洋氏のトークショーでは「平成34年の大河ドラマは月山富田城がテーマで、前半が尼子経久・晴久、後半は山中鹿助で決まり」?とのことでした。山城ブームと言われていますが、全国から沢山の人達が来場され盛大に行われました。私は以前から入場予約をしていましたので入場出来ました。



鉄砲隊演武

#### (2)高取城(奈良)と月山富田城

近畿双松会では、10月28日に第8回里山ハイキングが予定され、その下見として6月18日には高取城周辺が計画されました。私の生活圏ですので協力できることがあればと思い、高取城の下見に参加を予定しました。

しかし、6月18日には大阪北部地震のため中止 (松本会長は大阪で一時電車に閉じ込められました)、6月23日には大雨のため中止、7月9日には何とか四人で下見をすることが出来ました。ハアハア言いながら木の生い茂る山の中を登った高取城(日本三大山城で、平成30年6月30日放送のNHK「日本最強の城スペシャル」で見事日本最強の城に選ばれました)の雄大な石垣に、何故(WHY)・・、どんな方法(HOW)でこんな山奥にと疑問を抱き、万が一に備えた隠れ家だったのか・・、戦争で優位に戦うための備えだったのか・・、大守閣は今後再建されないのか・・等と思いを馳せていました。



高取城址にて



高取城天守台にて同期三人(左、田中由美子さん、 右、松本耕司さん)

結局、高取城はよほどの健脚でないと無理があるとの判断から、第八回里山ハイキングは、奈良市郊外の古墳群をめぐる遊歩道 "歴史の道 "に決定され晴天の下で行われました。航空自衛隊幹部候補生学校前も歩きました。昭和53年頃パートで勤務(健康管理)したことがありましたので、懐かしく思いました。

石垣の組み方等の専門的な分類に関しては勉強中ですが、月山富田城跡の広さや高度・石垣等は高取城に比べると劣るようです。しかし、全国には何万もの城跡がありますが、月山富田城は小和田哲男氏から「日本一の山城」と言われた中世城郭です。

城下町広瀬では実際に戦いがあり、尼子軍は毛利軍に敗退しました(1566年)。天下分け目の関ヶ原の戦い(1600年)で西軍は敗れ、西軍の大将・毛利輝元は防長二ヶ国に減封され、吉川広家(月山富田城主で1591年には米子城築城)も岩国に転封となりました。代わって堀尾吉晴・忠氏父子が関ヶ原の戦功により、出雲・隠岐24万石の太守となり、月山富田城に入城しました。

#### (3)これからも山城とともに・・

10月には、戦国時代に大内義隆や毛利元就が陣取った京羅木山にも秋晴れの下で登ってみました。 広瀬とは反対側の松江市東出雲町おちらと村から登りました。途中には出雲金刀比羅宮があり、毛利元就が戦勝を祈ったゆかりの社とのことでした。



京羅木山頂

頂上から見た月山富田城跡周辺は眼下に丸見えの 状態でした。

小学六年生の時、幸盛祭で早朝に月山頂上に上がり、生徒代表として皆さん方の前で山中鹿助幸盛についてお話をさせて頂いてから60年程の年月が過ぎました。やっと時間的に余裕ができたため、第25回全国山城サミット・第7回戦国尼子フェステイバルに懐かしく参加させていただきました。11月17日には第五回安来・月山戦国ロマンウォークにも参加させていただき、山中鹿助屋敷跡や毛利元秋公墓地周辺も歩きました。

史蹟が綺麗に整備され多くの人々が訪れることができるようになりました。歴史的景観を守り、史 実を後世に伝えていこうと日々尽力されてきた故郷の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。



安来・月山戦国ロマンウォーク

# 「北欧&ドイツ道中記」

#### 山嵜 麻里子(20・昭和44年卒)



ひょんなことから7/1日~7/17日の17日間、北欧&ドイツを近畿双松会のメンバーと廻ることになった。機中2泊、フィンランド4泊、スゥエーデン3泊、ノルウェー4泊、ドイツ4泊の旅行である。2017年の彦根城歴史ウオーキングで、村尾俊治さん(高11期)が「一緒に行かないか」と声をかけてくれたのがきっかけだ。その場で、村尾さん、田中一男さん(高11期)、木山洋子さん(高22期)、私と、男性2人女性2人の4人、平均年齢71歳のメンバーが決まった。

私は、20数年前に有志の研修で北欧を訪れたことがある。そのときに、北欧の福祉、教育の素晴らしさに衝撃を受け、いつかもう一度、ツァーではなくゆっくり廻りたいたいと思っていた。村尾さんの誘いはまたとないチャンスだ。でも、気がかりは松江の高齢者住宅で一人暮らしをしている100歳の父。行ったら、父の死に目に会えないかもしれない。でもこれを逃したら、こんな機会は二度とないだろう。覚悟を決めた。帰省の度に、これが最後と思い父に会った。(余談だが、渡欧して2日目に父が危篤になる夢を見た。後で知ったが、その頃父は誤嚥性肺炎で入院していた。幸い元気になって退院したが、これって正夢?)

私達は出発するまでに、ミーティングと称して7、8回集まった。村尾リーダーの下話し合いを重ね、飛行機、ホテルの予約に始まり、国の歴史、旅行の目的、日程、交通手段、それぞれの役割等詰めていった。その場には何故かいつも、北欧にもドイツにも行ったことのない小泉勝是さん(高14期)がオブザーバーとして同席していた。頭を使った後のビールは美味しかった。

7月1日、いよいよ関空からヘルシンキへ向けて 出発。

### フィンランド ~ ヘルシンキ4泊

最初の国はフィンランド。

フィンランドは国連に依る「国の幸福度ランキン グ2018年度」で第1位となった。何故、国民は世 界一幸福と思っているのか、その理由を知りたかっ た。それを聞きに日本大使館へ行ったが、アポイン トメント無しで会ってくれる筈がない。案の定、門 前払いだった。でも、たまたまその場に居た、フィ ンランド在住40年の日本人移民の男性に話を聞く ことが出来た。移民として受け入れられたら、2年 間生活費と通学費は保証されるが、その後は自力。 教育は少人数で教え、考える授業なので学力が高い。 フィンランド人は構えず受け入れてくれる。でも、 いいことばかりではない。何かトラブルがあると、 移民には厳しい。中央駅内に勤めていた在住3年の 日本人移民の女性に同じ質問をする。教育費無料、 医療費は公立は無料、ジェンダーフリー等許容度が あって住みやすいかなという返事だった。でも、公 立の病院は混んでいるし、大きな病気のときは医療 費補助がないが私立の病院の方が安心なのでそち らに行くという話だった。

人々は気さくで親切。道を尋ねるとわざわざ案 内してくれる、教会の岩場でもたもたしていると



フィンランドマーケット広場のフレンドリーなスタッフ

さっと手を貸してくれる。街や観光地の家族連れを見ていると、皆、子どもの顔を見て笑顔で話しかけている。スマホをいじりながら子どもと接している親は一人もいない。すれ違う若者達も生き生きとしていた。生活の余裕が感じられた。

#### スウェーデン ~ストックホルム3泊

2ヵ国目はスウェーデン。

20数年前に訪れたときより雑然とした感じ。しっとりと落ち着いていたガムラスタン(旧市街)は観光客で賑わい、安っぽいお店が立ち並んでいた。ちょっとガッカリ。

スウェーデンの一番の目的は「スクーグシェルコゴーデン」。スウェーデン語で「森の墓地」を意味する市民墓地である。墓終いを考えている村尾さんのたっての希望だ。広大な森に10万ものお墓と5ヶ所の礼拝堂、火葬場がある。宗教に依って墓地が区分けされ、お墓の形も違う。森の一角に円形の花壇が設けられていた。ここは散骨墓地で遺灰を森に撒く。花壇は共同の参拝場所である。黒装束の家族と思われる人たちが花を手向けていた。村尾さんはこの散骨墓地が気に入り、ここで弔って欲しいと言っていたが、あまりに遠いので諦めたようだ。この墓地には、かの有名なスウェーデン出身の女優グレタガルボのお墓があったのに行きそびれた。残念!

フィンランドでもそうだったが、トイレはパブ リックな場所やレストラン、ホテル等を除いて基 本的に有料。小銭を用意しておかないといけない。



スゥエーデンのスクーグシェルコゴーデン散骨墓地

ストックホルム中央駅の有料トイレで待っていたときのこと。中から出て来た女性が、ドアを足で押さえて中に入れと言う。びつくりしたが、「Thanks」と喜んで中に入った。次に待っている人に私も同じことをした。少し驚いていたが、嬉しそうに入って行った。無銭飲食ならぬ無銭トイレだが、異国の人と気持ちが通じたような気がした。似たような事がガムラスタンでもあった。

#### ノルウェー ~オスロ2泊、ベルゲン2泊

3ヵ国目はノルウェー。

ストックホルムからオスロへは列車で移動。飛行機で行くより旅費が安いからだ。オスロからストックホルムへやって来た列車に乗り込んでビックリ!シートはストックホルムの方向を向いたまま、後ろ向きにオスロに向かって走り出した。全員、後ろ向き。嘘だろうと思った。どこかで向きを変えるまでの、一時的なものに違いない。ここかな、ここかなと期待しながら走ること7時間。とうとう後ろ向きのままだった。酔いやすくて必ず進行方向を向いて座る私が、よく酔わなかったものだ。日本の丁寧なサービスが懐かしかった。



ノルウェーの民俗博物館スタッフと(北欧の人は背が高い!)

オスロの市庁舎では、ムンクの絵が普通に飾られていた。ムンクの絵は、彼の死後遺言により全てオスロに寄贈されたらしい。仰々しく飾られていないところが好ましかった。街を歩いていると、あちこちで楽器を演奏したり、歌ったりしている人達が

いる。通行人は、時折、前に置かれた入れ物にお金を投げ込んでいる。ムンクの絵といい、ストリートミュージシャンといい、芸術が生活に溶け込んでいるように思った。

オスロからベルゲンには、飛行機で移動。国内移動なのに、ベルゲン空港で身体検査が厳しくて驚いた。ベルゲンでバダンゲルフィヨルド周遊。列車、バス、フェリー、バスと乗り継いで周遊乗り場まで時間はかかったが、田園風景を眺めながら住んでいる人達の暮らしぶりを想像するのは楽しかった。船に乗り、フィヨルド遊覧出発。始めの方こそ雄大な景色を眺めて感動していたが、長時間の遊覧でいつしか眠ってしまった。ふと気付くと、フィヨルドを一番楽しみにしていた木山さん始め我がクルーは全員眠り込んでいた。

#### ドイツ ~シュットガルト3泊、ミュンヘン1泊

最後の国ドイツは、ドイツ在住で村尾さんの知人の田辺よしひろさんが車で案内してくれたので楽勝。拙い英語で何と聞こうかとか、地図で目的地は



ミュンヘンの有名なホーフブロイハウスで乾杯!

どこか探すといった苦労がない(目的地を探す為に、田中さんはいつも磁石片手に歩いていた)。 リラックスして楽しめた。

マンハイムに松江クラシックス監督の朝枝信彦 さんを訪ねた。去年の6月近畿松江会にゲストと していらした時に、旅行のメンバーでドイツに行く と挨拶したら、その頃はマンハイムの自宅にいるの で是非遊びにいらっしゃいとのお誘い。本当にい いのだろうかと、恐る恐る訪ねて行った。指定のレ ストランに、朝枝さんはTシャツ、短パン、サンダ ル履きで現れた。気さくで親しみやすい方だった。 話の中で「日本的な尺度で物を見ないようにするに は、子どもの頃から色々な世界をみることが大切」 と仰っしゃった。若いときに日本を飛び出し、世界 を放浪し、マンハイムの国立歌劇場でコンサートマ スターを15年間務めた朝枝さんの言葉には重みが あった。今は、松江の若者に世界を見せるべく、音 楽を通じてドイツと交流を図っている。又、沢山の 人に音楽に親しんでもらいたいと、日本のあちこ ちで精力的に活動している。「今、自宅を友達とリ フォームしているけどよかったらどうぞ! と誘われ たが、時間の都合でお断りした。立派な人ほど偉ぶ らないものだなぁと改めて思った。(因みに、恵曇 で借りている借家も自分でリフォームしたとか)

#### 忘れられない思い出

ドイツのノイシュバンシュタイン城を見学した帰り道のこと。駐車場への道を下っていると、前を歩いている女の子が時折チラッ、チラッとこちらを見る。走ったり、ピョンピョン跳んだりしながら又こちらを見る。日本人が珍しいのかなぁと声をかけたかったが、親と思われる白人のカップルは先を歩いている。子ども一人のところに迂闊に話しかけたら、不審者と思われかねない。声をかけたいのをぐっと我慢した。でも、何故かその子が気になって仕方なかった。

途中、トイレで順番待ちをしていたら中から出て きたのはその女の子。思わずニコッと笑って交代 した。手洗い場でも出会ってお互いにニコッ。後 ろ髪を引かれながら、メンバーの方へ歩き出した途 端、突然「こんにちは!」と後ろから日本語が飛んできた。何が何やら訳が分からず驚いて振り向くと、例の女の子が恥ずかしそうに立っていた。「こんにちは」と言ったのは彼女だった。「えーっ、あなた日本語が喋れるの?」!聞いたら、彼女のお母さんは東京出身の日本人。母親と思った女性はお父さんの妹だった。

名前はメイちゃん、8歳。日本語を勉強中で、9 月から日本語学校に通うとのこと。東京にお婆ちゃんがいて行ったことがあるけど、大阪には行ったことがないと言ってた。お父さんに許可をもらって、メイちゃんを思い切りハグした。暫くハグしていた。メイちゃんは嬉しそうだった。



メイちゃんとのツーショット

メイちゃん達とはそこで別れた。彼女の一家が どこに住んでいるのか、それどころかどこの国の人 かさえ分からない。メイちゃんとは、もう一生会う こともない。手元にあるメイちゃんとツーショッ トの写真が私の宝物になった。

#### 最後に

こんな心に残る旅行が出来たのは、リーダーの村 尾さん、会計部長の田中さん、15日間嫌な顔一つせ ず居室を共にしてくれた木山さんのお陰である。

私達は緊縮財政で、各国の会計を交代で担当し、 予算からはみ出ないように気をつかった。物価の 高い北欧では、ホテルは中か中の下。男性軍1部屋、 女性軍1部屋。スウェーデンでは、何と1部屋にダ ブルベッドが1つだけ。木山さんと1つのベッドで 寝た。無論、村尾さんと田中さんも然り。朝、男性 軍の顔を見て笑いそうになった。食べ物は、朝も昼 も大体コンビニで買ったパンと飲み物。ランチが ワサビ入り柿の種と水だけのときもあった。ディ ナーは安い中華料理やイタリア料理。夕食時にな ると、安い中華料理店かイタリア料理店を探すのが 日課となった。たまに高い北欧料理を食べるときは、 2、3人分を4人でシェア、でもビールだけは欠かさ ず飲んだ。

荷物は、ドイツで車のトランクへ全員分を入れられるよう、小型のトランク1個と背負えるリュックのみ。17日間の旅行だというのに、着替えは3、4日間分しか入れられない。ホテルで、毎日洗濯をするのがこれまた日課となった。少ない衣服で如何に着回すか頭を悩ましたが、結構着回し出来るものだなあと思った。

そして、ドイツ以外はとにかく歩いた。多いときで3万歩、少ないときで2万歩。

得た物は、素晴らしい思い出とマイナス2kgの体重。(村尾さんはベルトの穴が一番小さくなり、木山さんは益々スリムになった。田中さんだけは、何故か変化無し?)

こう言う縁を作ってくれた近畿双松会に感謝、感謝である。

#### 私達の旅行に、

そして近畿双松会設立60周年にカンパーイ!!



スウェーデンの伝統的な家庭料理 ミートボール

### 2014 ~ 2018年度の活動報告 (平成26~平成30年度)

会長 松本 耕司(16)

#### 1. はじめに:

前回「55周年 (2013年) 記念会報」では、2002年 から2013年までの10年間の活動の概括を記録に とどめた。(設立55周年記念会報、P 120 ~ 参照) それを受けて、この「60周年 (2018)年記念会報」 では、2014年から2018年までの5年間の活動を記 録にとどめておきたい。

# 2. 2014 (平成26) ~ 2018 (平成30) 年の主な取り組み、出来事:

#### ①2014(平26)年度

- ・12月7日(日)総会(中央電気倶楽部)は112名が 参加。講演は初の会員外講師の尚絅大学助教の宮 﨑尚子さんで、演題は「川端康成の茨木中学校時代 の恩師・倉崎仁一郎(松中7期)の真実」
- ・役員改選・交代を実施:第九代会長に松本耕司氏 (16)が就任。また、常任顧問には第八代会長の押田 良樹氏 (11)、副会長には三好資子さん (20)、副会長 の渡辺悟氏 (20)が (兼)事務局長に就任。

#### ②2015 (平27)年度

- ・「ゴルフコンペ」を、ゲストも歓迎する春季と、会員に限定する秋季の年二回制に変更。
- ・11月29日(日)総会(中央電気倶楽部)は113名が参加。講演は松江市教育長の清水伸夫氏(20)で、 演題は「松江城国宝指定と今後のまちづくり」
- ・2016年3月、新しく、第1回「松江北高野球部大阪遠征試合応援」を開始。(甲子園のセンバツ高校野球開催時)

#### ③2016 (平28)年度

・5年に一度の本部「双松」名簿発刊に合わせ、近畿在住者名簿を総点検、更新。

- ・10月、新しく、「"次代につなぐ"同期会の開催支援」を開始。
- ・11月12日(土)「母校創立140周年記念双松会総会」に松本会長が出席。
- ・11月27日(日)の総会(中央電気倶楽部)は116名が参加。講演は兵庫県立大学学長の清原正義氏(16)で、演題は「大学は変わるか?・・兵庫県立大学の試みと学長の苦労話」
- ・役員改選・交代を実施:副会長に梅木隆志氏(16)、 監事に鶴羽孝子さん(22)が就任。

#### ④2017 (平29)年度

- ・11月26日(日)の総会(中央電気倶楽部)は100名が参加。講演は大和大学理工学部設置準備室長の泉紳一郎氏(24・理3)で、演題は「科学技術の担い手の育成」~日本の将来のキーポイント~
- ・2018年1月21日(日)、新しく、第1回「宝塚歌劇 鑑賞会」を開始。

#### ⑤2018(平30)年度(設立60周年)

- ・12月2日(日)の設立60周年「記念総会・講演会・ 謝恩懇親会」(中央電気倶楽部)は125名が参加。記 念講演は松江観光文化プロデューサー、「湖都松江」 編集統括の高橋一清氏で、演題は「松江への思い」。
- ・謝恩懇親会では、60周年記念事業として「郷土産 品の大福引大会」を実施。
- ・感謝状、記念品を永江幹雄第七代会長 (13)、押田 良樹第八代会長 (11) に贈呈。
- ・双松会本部に、60周年記念の「志」として10万円 を寄付。
- ・初めて総会に、関西矢の原会(近畿の松江南高校 同窓会)の代表者を招待。
- ・役員改選・交代を実施。
- ・設立60周年「記念会報」を発刊。

#### 3. 概括:

この5年間を評価するのは早すぎるかもしれないが、その前の10年(2002~2013)は「近畿双松会継承のための改革の時代」であったと言うことは

できる。北高世代の方々に参加を呼びかけ、「会則」 も改訂し、オープンなイメージでの運営を心がけた が、その試みはまずは皆様のご理解をいただけたの ではなかろうか。

そして、この5年間は、概してそれまでの「改革」 が「定着した5年」ではなかったか。

設立50周年 (2008)から60周年 (2018)までの直近10年をとらえれば、「改革と定着の10年」と評してもよいのではないかと考える。

#### 4. 現状の課題と取り組み方向:

#### 〈1〉現状の課題

下のとおりである。

上記のとおり、「定着はした」が、設立60周年を終えて、あらためて大きな課題も浮き彫りになった。 それは、設立50周年記念総会の参加者159名から、 55周年の153名、60周年の125名に至る年次別の 参加者人数の推移を見れば明らかで、総括すれば以

- ①「70歳代前後」以上の方々は、徐々に減少傾向にある。
- ②このところ、呼びかけを続けた「60歳前後」の方々は増加傾向にある。
- ③60歳以下の、「50~40歳代」の方々の伸びがほ とんど見られない。

会員の絶対人員は減少していく中、この10年で総会参加人員が30~40名減少していることは、一面ではやむをえない面もあるが、さすがに50歳代、40歳代の働く現役世代の方々の参加が非常に少ないことは、即ち、「改革の定着も道半ばであった」ことを物語っており、このことが、設立60周年時の参加者が125名にとどまった大きな原因である。

#### 〈2〉今後の取り組み

上記の「現状の課題」は、2019年2月2日の平成 最後の役員会に報告され、この傾向が続けば、やが て近畿双松会の継承に大きな危惧となることの問 題意識を共有し、還暦60周年を終え、新元号の開始 の「新しい時代」の到来と同時に、新時代にふさわ しい新しい取り組みが求められていることも確認 し合った。

"次代につなぐ"同期会開催支援活動のほかに、 "SNS"の利用や、総会参加費の見直しなど、いろい ろな対策が考えられるが、当該の年代の方々は元々 の人数も少ないことから、今まで以上に丁寧な対応 が求められることは明らかであり、具体的には、次 回の事務局会議から本格的な検討をすすめること になった。

#### 5. 終わりに

60周年を無事終了するのと同時に、大きな宿題が残っていたことにも直面をした形になった。折しも、島根県教育委員会は11月1日に、「2021年入試より、松江北・南・東の松江市内三高校の通学区域を廃止する」と発表しており、これはこれで数十年後の双松会、近畿双松会に大きな影響を与えることは間違いない。

これまでも、こういった大きな時代の変化に近畿 双松会は様々に対応しつつ、今日の姿に継承してき た。あらためて先人の皆様の思い、努力があったれ ばこそと強く感じ、感謝の念を深くしている。

新しい力の参加をいただきながら、新しい気持ちで近畿双松会の伝統を将来に継承していきたいと強く考える60周年の終わりとなった。これまでご支援、ご協力をいただいてきた会員の皆様、役員の皆様、事務局会議の皆様には厚く御礼申し上げるとともに、今後益々のご理解、ご支援を切にお願い申しあげる次第である。

最後に、山本雅昭常任顧問(7)の特別のご配慮で 事務局をおかせていただいている㈱トーヨーコー ポレーションの皆様、特に窓口をご担当いただいて いる近田芙佐子様には、この間、大変なご協力をい ただきました。ここに心からの御礼を申し上げます。

2019.2.22

# 母校(双松会)と近畿双松会の歩み

年度	西曆	母校 (双松会)	近畿双松会
明治9年	1876	教員伝習校(殿町)に変則中学科創設	KE BOX / N JA AA
明治 10 年	1877	松江中学として独立	
明治 12 年	1879	殿町 (現在の市町村振興センター) に松江師範学校と	
		共用の新校舎竣工	
明治 17 年	1884	島根県第一中学校と改称	
明治 19 年	1886	島根県尋常中学校と改称	
明治 20 年	1887	独立校舎竣工 (現在の殿町県警本部付近)	
明治 22 年	1889	<松江市市制施行、人口35,804人(全国22位)>	
明治 23 年	1890	ラフカディオ・ヘルン、英語教師として着任	
明治 26 年	1893	島根県第一尋常中学校と改称	
明治 30 年	1897	赤山校舎の新築・移転 通信教育部、県立松江工業高校より移管 ★松江市立高等女学校創立	
明治 34 年	1901	島根県立第一中学校と改称	大正以前から、大阪に現在の近畿島根県人会の前身である (社)島根県友会があり、第二代の理事長に四方田保氏(中20) が就任、(中略)その県友会に松江中学出身者が多かったこと から四方田氏が結成を主唱… (米村又男氏(中34)の「回顧だ々」より)
明治 40 年	1906	島根県立松江中学校と改称 校旗の制定 ★島根県立松江高等女学校に昇格	
明治 44 年	1910	●松江市立女子技芸学校創立	
大正3年	1914	起雲館竣工	
大正 12 年	1923	◆松操高等女学校創立	   (伝・大正末〜昭和初期)
昭和2年	1927	●松江市立家政高等女学校に改称	(伝・人正木〜暗和初期)   近畿双松会設立(第一次)
昭和15年		校舎改築・落成	会長:四方田 保(中20)
昭和 16 年		●松江市立高等女学校に昇格	   <戦争による活動の中断>
昭和 23 年	1948	学制改革により島根県立松江第一高等学校と改称	CM I I CO O II MIV   I II V
		5 月火災により校舎全焼、12 月新校舎落成 ★島根県立松江第二高等学校開校 (◆松操高等女学校を統合) ●松江市立高等学校開校	
昭和 24 年	1949	松江一高、二高(旧県立高女・松操高女)、市立高校(旧市立高女)の三校統合し、島根県立松江高等学校として発足 旧松江一高を北校舎、旧松江二高を南校舎とす	
昭和 25 年	1950	赤山の北校舎を廃し、西川津町の南校舎を大増築し て実質統合	
昭和 28 年	1953	校歌制定(作詞土岐善麿、作曲高田三郎)	
		定時制宍道分校を設置	
		通信教育部、県立松江工業高校より移管	
昭和 33 年	1958		昭和33年活動再開、近畿双松会設立(第二次)
昭和 36 年	1961	島根県立松江高等学校の二分化により島根県立松江 北高等学校と改称、島根県立松江南高等学校創設 被服科を廃止し、定時制宍道分校を南高に移管 通信教育部を島根県立松江北高等学校通信制課程と 改称	初代会長 永岡孝二(中42) 昭和33年~昭和53年
昭和 41 年	1966	創立 90 周年記念式典を挙行	
昭和 42 年	1967		★昭和42年 近畿松江高校・松江北高校同窓会発足 会長 和田亮介(高1)
昭和 43 年	1968	理数科設置 校舎移転改築期成同盟会結成	昭和 43 年、10 周年記念総会挙行
昭和 50 年	1975	新校舎地鎮祭(赤山)	
昭和 51 年	1976	「松江北高等学校百年史」を刊行	
昭和 53 年	1978	赤山新校舎に移転 創立100周年並びに校舎・起雲館竣工記念式典を挙行 (100周年記念会館を起雲館と命名)	二代会長 山根誠(中46) 昭和53年~昭和59年

年度	西曆	母校(双松会)	近畿双松会
昭和 54 年	1979	双松会、松高北高同窓会が合併し、「双松会」を創立	
昭和 58 年	1983	市内校区再編成により島根県立松江東高等学校創設 (市内に北・南・東の3普通高校鼎立)	昭和58年、25周年記念総会挙行 (推定) 会則を変更し、旧中・松高・北高の三校大合同の組織 基盤を確定
昭和 59 年	1984		三代会長 横山春樹(中55) 昭和59年~昭和63年
昭和 61 年	1986	創立 110 周年記念式典を挙行	この頃から行楽会(バスツアー)を開催
昭和 62 年	1987	双松(二本のうちの一本) 訣別・新生式典を挙行	
昭和 63 年	1988		四代会長 児玉治利(中61) 昭和63年~平成8年
平成3年	1991	創立 115 周年記念式典を挙行	★平成3年頃、三校同窓会大合同完了 (近畿松江高校・松江北高校同窓会は発展的解消)
平成4年	1992		第一回ゴルフコンペを開催(以降継続)
平成5年	1993		35 周年記念会報発行
平成8年	1996	創立 120 周年記念式典を挙行	五代会長 和田亮介(高1) 平成8年~平成14年
平成 10 年	1998		平成10年10月25日、設立40周年記念総会
平成 13 年	2001	双松 (残る一本) 訣別式典を挙行 創立 125 周年記念式典を挙行	
平成 14 年	2002	3月、選抜高校野球 21 世紀枠出場 (55年ぶり 2 度目)	3月、選抜高校野球21世紀枠出場を応援 六代会長 山本雅昭(高7) 平成14年~平成19年 北高世代会員の入会促進運動開始
平成 15 年	2003		45 周年記念会報発行
平成 17 年	2005		ホームページを本格リニューアル(以降継続) 行楽会(バスツアー)を終了(天川村)
平成 18 年	2006	創立 130 周年記念式典を挙行	第一回歴史ウォーキング開催(以降継続) 第一回文楽鑑賞会開催(以降継続)
平成 19 年	2007		8月辰巳悦加(高51)の世界陸上大阪大会出場を応援 七代会長 永江幹雄(高13)平成19年~21年
平成 20 年	2008		平成20年11月30日、設立50周年記念総会(於:太閤園) ・50周年記念会報発行 慶弔規定を廃止 第一回落語鑑賞会開催(以降継続)
平成 21 年	2009		八代会長 押田良樹(高11) 平成21~26年 運営方針の明確化 (5年に一度の周年行事を"核"に) 東京双松会との交流を開始
平成 22 年	2010	双松の東(右)側の松を植樹	総会を初めて大阪市中央公会堂で開催 世代を超えた交流推進の強化(情報提供要請)
平成 23 年	2011	創立 135 周年記念式典を挙行	第一回里山歩くぞ!ハイキング開催(以降継続)
平成 24 年	2012	松江北高校通信制課程の閉課程式を挙行 12月、双松の東(右)側の松を、雪、松くい虫の被害に より撤去	11月総会で会則改訂を承認 (卒業生全員が会員) 会員名簿の発行の廃止
平成 25 年			4月、新会則の運用(会費を「運営費」支援に変更) 平成25年12月8日、設立55周年記念総会 (於:大阪市中央公会堂) ・55周年謝恩大福引き大会実施 ・55周年記念会報発行
平成 26 年	2014	4月12日、双松の東(右)側の松の植樹祭	九代会長 松本耕司(高16) 平成26年~、
平成 27 年			「ゴルフコンベ」を、春・秋の年二回開催に変更 平成28年3月、新しく北高野球部の大阪遠征を応援(以降継続)
平成 28 年	2016	学級数減(普通科6、理数科1の7学級に) 11月12日、創立140周年記念式典を挙行 ・「世界の人たれ北高生!基金」創設	新しく、"次代につなぐ"同期会の開催支援を開始(以降継続) 11月12日、母校創立140周年記念式典に松本会長が出席。
平成 29 年	2017	10月、双松の東(右)側の松を松くい虫被害により 撤去	平成30年1月、新しく、宝塚歌劇鑑賞会を開始。(以降継続)
平成 30 年	2018	学級数減完了、3学年840名体制。 H31.3.24 双松、東(右)側の松の植樹式	平成30年12月2日、設立60周年「記念総会・講演会・謝恩懇親会」 (於:中央電気俱楽部) ・60周年謝恩大福引き大会実施 ・総会に初めて関西矢の原会(松江南高同窓会)の代表者を招待。 ・60周年記念会報発行

# 近畿双松会 会則

#### 【改訂の趣旨・骨子】(2012 (平成 24) 年 11 月 10 日)

入会、会費、退会の手続きなどのクローズな概念を払拭し、新たな発想で将来への継続、発展をめざす。

骨子①: すべての卒業生は双松会員であり、本部会則に準じてあらためて近畿での入会手続きを必要としないことを明示。

・いつからでも、何歳からでも自然に参加でき、退会の概念も払拭。

骨子②: 「会費」については名称を「運営費」に切り替え、徴収ではなく協力をいただく形にし、有志の皆様の協力を仰ぐ。

「□数」の仕組みも導入し、協力をいただきやすくする。

骨子③: 会則内容を現在の運営実態に合わせ、現行会則の不備な項目を全面的に整備。

・将来世代へ継続しやすい、「読めばわかる」形をめざす。

#### 【名称】

第1条 本会は近畿双松会と称する。

#### 【会員】

第2条 本会は次の会員により組織する。

- 1. 近畿地区に在住する旧制島根県立松江中学校、新制島根県立松江高等学校及び松江北高等学校の卒業生及び之に準ずる者。
- 2. 近畿地区在住者以外の双松会員で入会を希望する 者。
- 3. 教職員であった者で近畿地区に在住する者。

#### 【目的】

第3条 会員相互の交誼、親睦を図り、母校の発展に 寄与することを目的とする。

#### 【事業】

第4条 本会は前条の目的を達成するため次のことを行う。

- 1. 年次総会と懇親会の開催。
- 2. 年次会報の発行、ホームページの運営などの会員への情報提供。
- 3. 周年記念事業、各種親睦行事、講演会等の開催。
- 4. 会員名簿の管理。
- 5. その他本会の目的達成に必要な事業。

#### 【役員】

第5条 本会に次の役員を置き、任期は2年とする。 ただし、再任を妨げない。

- 1. 会長 1名
- 2. 常任顧問及び顧問 若干名
- 3. 副会長 若干名
- 4. 事務局長 1名
- 5. 常任幹事 若干名
- 6. 幹事 各期1名以上
- 7. 監事 2名

#### 【役員の選任】

第6条 役員は次の通り選出する。

- 1. 会長は、正副会長及び常任顧問、顧問の合議により会員の中から推薦し、役員会及び総会に報告し承認を受ける。
- 2. 常任顧問、顧問は会長が推薦し、役員会及び総会に報告し承認を受ける。
- 3. 副会長、監事は会長が会員の中から委嘱し、総会の承認を受ける。
- 4. 事務局長は会長が副会長の中から委嘱する。
- 5. 常任幹事は幹事の中から会長が委嘱する。
- 6. 幹事は会員の中から会長が委嘱する。

#### 【役員の職務】

第7条 役員の職務は次の通りとする。

- 1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
- 2. 常任顧問、顧問は会長ならびに役員会の諮問に応じ、会務について意見を具申する。
- 3. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはこれを代行する。
- 4. 事務局長は会長の指示をうけ、会務の運営・執行にあたる。
- 5. 常任幹事は会務の運営・執行を分担する。
- 6. 幹事は各期を代表し、会員との連絡にあたる。
- 7. 監事は本会の会計を監査し、総会にその結果を報告する。

#### 【役員会】

第8条 役員会は、第5条の役員をもって構成し、次の通り開催する。

- 1. 会長が、毎年1月を基本として召集する。
- 2. 役員会は、役員の選出、事業報告と決算(見込み)、

事業計画と予算、会則の改訂、その他会の運営に 関わる重要事項を審議する。

3. 会長は、必要あるときは臨時に役員会を召集し、 または書面での持ち回りで審議をすることがで きる。

#### 【総会】

第9条 総会は次の通り開催する。

- 1. 通常総会は原則として毎年11月に開催する。
- 2. 総会には役員の選出、予算、決算、会則の改訂、その他の会務を報告し承認を受ける。
- 3. 総会と同時に懇親会、講演会等を開催する。
- 4. 会長は、必要あるときは役員会の承認を得て臨時総会を召集することができる。

#### 【事務局】

第10条 本会に、第4条に定める事業を推進するため、 事務局を置く。

- 1. 事務局は第7条の常任幹事を核とする役員の有 志をもって構成し、事務局長が統括する。
- 2. 事務局長は、適時「事務局会議」を開催し、会務が円滑に運営・執行されるよう努める。

#### 【会計】

第11条 本会の会計に関する諸事項は次の通りとする。

- 1. 本会は、第4条に定める事業を推進するため、運営費、寄附金、広告その他の協力を会員に仰ぐ。
- 2. 運営費等の詳細については、つど役員会に報告し、承認を受ける。
- 3. 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年 3月31日に終わる。

#### 【会則の改訂】

第12条 この会則の改訂は、第8条の2、第9条の2で定める通り、役員会の審議を経て、総会の承認を受けなければならない。

#### 【附則】

- 1. 本会則は平成24年11月10日に改訂し平成25 年4月1日より適用する。
- 2. 事務局は会則改訂に関連して、移行措置が必要となった場合は適切な対策を講じ、重要な事項は適宜役員会に報告するものとする。

3. 改訂記録(判明分のみ)

平成24年11月10日改訂(平成25年4月1日適用)

平成12年11月20日改訂

平成9年11月9日改訂

平成4年11月28日改定

昭和63年11月18日改訂

昭和61年11月14日改訂

昭和58年11月24日改訂

以上

#### 【運営覚書】

- 1. 設立年月日:設立(戦後の再開)総会のおこなわれた昭和33年10月25日とする。
- 2. 所在地:事務局は当分の間、大阪市西区江戸堀1-21-35㈱トーヨーコーポレーション内に置く。
- 3. 第2条1の「近畿地区」:滋賀、京都、大阪、兵庫、 奈良、和歌山の二府四県を称す。
- 4. 同、「準ずる者」: 在籍はしたが転校などにより 卒業はしなかった者などを称す。
- 5. 同条関連:卒業後6年以内の者を「学生世代会員」 として遇する。
- 6. 第4条3の「周年記念事業」:5年単位を基本として行うことを目標とする。
- 7. 同条4の「会員名簿の管理」:
  - ① 双松会名簿「双松」を基本とし、近畿地区在住会員の管理に不断に努める。
  - ② 居所不明、あるいは会員自身(ご家族含む)からのご連絡があった場合は各案内を差し止める。
- 8. 第8条関連:総会・懇親会には「学生世代会員」 を招待するよう努める。
- 9. 第11条2の「運営費」:
  - ① 主として日常の会員との諸連絡等の事務費、および年次会報発行費に充当する。
  - ② 運営費は、当分の間、一口1,000円とし、年三口を標準に会員に協力を仰ぐ。
  - ③ 運営費、ならびに寄付・広告等でご協力をいただいた会員には年次会報を贈呈し、お名前を各資料に掲載して感謝の意を表する。
  - ④「学生世代会員」には、運営費、及び寄附を求めない。
- 10.その他:懇親会、各種行事等の諸経費は、つどの参加者負担を原則として運営する。

「日本語こそが日本人の宝物と信じて疑いません/ぜひ守ってください。これこそは私の一番の願いです/お願いします」。今年2月、96歳で亡くなったドナルド・キーンさんが2012年に書いた「一〇〇年先の皆様へ」の結びです。

キーンさんが米国で日本語の勉強を始めたのは18歳(1941年)。使ったのはサクラサクラの「小学国語読本」でした。たまたま伝記(中公文庫)で読んでいたのですが、高橋一清さんのご講演で母校の大先輩、井上赳さんがその教科書に係わったことを知り、本当に驚きました。しかも、「世界でも類のない画期的なもの」だったと。

〈「松江」が近代日本の文章、言葉と大きく係わっていることは、もっと認識していい〉。 高橋さんのこの言葉が特大活字で躍って見えます。認識の拡張、大賛成です。

ニューヨークに電話して講演をお願いし、大阪に来ていただいただけのご縁ながら、 訃報に思うこといろいろ。冒頭のメッセージは美しくも背筋が伸びる日本語賛歌です。 その原点に「サクラ読本」があったことにただ感動するばかりです。



昨年夏体調を壊し、活動全休。60回記念総会も休ませていただきました。それが どれだけの「逸失」につながったのか、楽しい会報原稿からひしひし伝わってきます。 松本耕司会長(16)の獅子奮迅のご活躍に改めてお礼を申し上げます。

(渡辺 悟= 20 期 副会長)

# 近畿双松会報

2018(平成30)年度版 通巻60号

発効日/平成31年4月20日編集兼発行者/近畿双松会 発行所/近畿双松会事務局 所在地/〒550-0002

所在地/〒 550-0002 大阪市西区江戸堀 1-21-35 (株)トーヨーコーポレーション内 TEL 06-6443-2062 FAX 06-6443-9736 郵便振替口座/ 00910-0-103665 近畿双松会